

玉川上水・分水網の保全再生と
フィールド・ミュージアム展開に関する調査

2019年

辻野 五郎丸

玉川上水域研究会 代表

2018 年度一般助成研究 No.2018-108

**玉川上水・分水網の保全再生とフィールド・ミュージアム
展開に関する調査**

玉川上水域研究会代表

辻野 五郎丸

はじめに

この報告書は 2018 年度一般助成研究「玉川上水・分水網の保全再生とフィールド・ミュージアムの展開に関する調査」の結果をとりまとめたものです。

本調査は 2015 年度、2016 年度の「玉川上水・分水網の構成と関連遺構に関する調査」に引き継ぎ実施したものです。

これまでの調査は、玉川上水・分水網などの成立過程や自治体、一般書籍などでどのように扱われてきた等を中心に調査を進めてきました。このような調査を基礎として、本年度は玉川上水・分水網の自然、歴史文化的価値を未来につないでいくため、玉川上水・分水網を舞台としたフィールド・ミュージアムの展開の可能性について調査・提案することを目的としています。

フィールド・ミュージアムの展開の第一歩として、玉川上水・分水網に関連して活動している 38 の団体の方々と協働して、地域で大切に思われてる遺構を選んでいただき、100 選として評価、共有することを行いました。

100 の選定にあたっては、多くの先生方のご意見をいただきました。

なお、この調査は玉川上水・分水網の保全再生を目的として活動してる「玉川上水・分水網を生かした水循環都市東京連絡会」とも歩調を合わせ実施したものです。

この調査により、玉川上水の羽村から四谷大木戸さらに外濠・日本橋川に連なる水の大動脈や分水毎に今もなお大切に守れている遺構の広がりが浮かび上がってきました。

これらの調査を通じて玉川上水・分水網の保全再生に寄与できれば望外の喜びとするところです。

調査にご協力いただいた市民団体の方々および、100 選の選定にあたってご指導いただいた先生方に改めてお礼申し上げる次第です。

2019 年 3 月

玉川上水域研究会代表 辻野 五郎丸

調査組織

氏名	研究分担課題	現職・専門
辻野 五郎丸	調査総括、関連遺構とりまとめ	中央大学工学部共同研究員 河川環境論
谷下 雅儀	講演、フィールドワーク、シンポジウム企画調整	中央大学教授 都市計画・まちづくり
柿沼 太貴	調査指導、フィールド・ミュージアム構成検討	中央大学大学院後期課程 河川水文学
久保田 恵都子	水循環と関連遺構の評価	中央大学大学院後期課程 都市・地域計画

目次

はじめに

第1章 玉川上水・分水網関連遺構 100 選の調査方法

- (1) 市民が選ぶ玉川上水・分水網関連遺構 100 選調査の意義 ----- 1
- (2) 関連遺構調査の枠組 ----- 1
- (3) 100 選選定調査の方法 ----- 3

第2章 市民が選ぶ玉川上水・分水網関連遺構

- (1) 調査の区間区分と担当市民団体 ----- 5
- (2) 第1次 市民が選ぶ玉川上水・分水網関連遺構の概要 ----- 7

第3章 第1次玉川上水・分水網関連遺構の 100 選の評価

- (1) 100 選選考委員の指摘事項 ----- 14
- (2) 100 選の調整 ----- 14
- (3) 関連遺構 100 選の選定 ----- 15

第4章 100 選選定遺構の特徴

- (1) 100 選遺構の評価 ----- 23
- (2) 100 選遺構の種別 ----- 25
- (3) 100 選遺構の区間別・水系別分布 ----- 26

第5章 玉川上水・分水網関連遺構 100 選の展開

- (1) 玉川上水・分水網保全再生の動向 ----- 30
- (2) 関連遺構 100 選の意義 ----- 32
- (3) 関連遺構 100 選からフィールド・ミュージアムへの展開 ----- 34

【資料編】

- 玉川上水・分水網関連遺構 100 選（本線）の概要 ----- 37
- 玉川上水・分水網関連遺構 100 選（分水）の概要 ----- 59

第1章 玉川上水・分水網関連遺構の調査方法

(1) 市民が選ぶ玉川上水・分水網関連遺構調査の意義

玉川上水・分水網は羽村堰を頂点として武蔵野台地を樹柱状に展開するため、低地・下町へと連なる土地に刻まれた水循環と情報のネットワークとしても見ることができる。

このような視点から各地域に刻まれた玉川上水・分水網の関連遺構や現地の水路の痕跡等をたどれば、玉川上水・羽村堰へと連なる土地に刻まれた生活や生業によってはぐぐまれた歴史文化の壮大なドラマを実感できるのではないかと。

このプロジェクトは、地域で玉川上水・分水網に関連して調査・活動している多くの市民（団体）が発掘した情報を持ち寄り、玉川上水・分水網の水路系統と関連遺構を全体で約100点に統って選定し顕彰、さらに共有化を促すことを目的としている。

そして水路と関連遺構、市民活動のネットワークを背景に、関係行政機関の協力と連携のもと、玉川上水・分水網の保全と水循環の再生を促しながら、新しい玉川上水・分水網の利活用の方式としてフィールド・ミュージアムへの展開を目指すものである。

(2) 関連遺構調査の枠組

① 対象とする遺構

玉川上水・分水網、下流の外濠・神田川・日本橋川の関連地域の水路系統と関連して育まれてきた自然・歴史文化資産等の遺構を対象とする。また、既に文化財指定等を受けている資産も含めることとする。

参考までに、未来遺産登録団体「玉川上水ネット」が「玉川上水リレーウォーク」で取り上げた自然・歴史文化資産は、表1-1に示す通りである。

区分		項目	内容
I	水路	① 低水路・暗渠	護岸，ゴミ揚げ場，横断構造物
		② 分水	取水堰，分水堰，樋管笠
		③ 水利関連施設	河岸，水衛所，水路遺構
		④ 関連施設	側道，緑道，橋梁等
		⑤ その他記念物	石造物，樹木等
H	周辺環境	① 迪坦する公園緑地	
		② 歴史的環境	集落，社寺，街道等
		③ 観光，利便施設	記念館，記念物，商店，休憩所
		④ 交通施設等	
III	文化的景観	① 地形と水路	特徴的な地形，水路
		② 水路と新田集落	水路と集落・街道，並木
		③ その他	寺町
IV	無形文化財	① 民俗行事	農耕・四季の民俗行事等
		② 自然保護活動	ホタルの観察，草花の保全等

表1-1 玉川上水リレーウォークで取り上げた玉川上水関連資産

②調査の区間区分

玉川上水・分水網を玉川上水系、分水系と大きく2つに区分しさらに区間、水系毎の性格、特徴等表1-2のように区分し、各区間・分水毎に関連して活動している市民団体に調査をお願いした。

区分	名称	区間・水系	摘要
玉川上水系	本線	上流：羽村 - 小平監視所 中流：小平監視所 - 浅間橋 下流：浅間橋 - 四谷大木戸	開渠区間 暗渠
	外濠	四谷大木戸 - 四ツ谷見附 真田濠 市ヶ谷濠 - 新見附濠 - 牛込濠 飯田濠 - 神田川	導水管路 神楽河岸
	日本橋川	日本橋川上流 日本橋川下流	旧外堀川
分水系	上流分水	田村分水 福生分水 拝島分水 殿ヶ谷分水	
	野火止用水	上流区間（東京都） 下流区間（埼玉県）	
	砂川用水系	砂川用水：砂川分水，源五右衛門分水 国分寺分水 野中新田分水 恋ヶ窪分水 小金井分水 梶野分水 境分水等	右分水（合口）
	小平用水系	新堀用水小川分水 大沼田分水 鈴木分水 田無分水	左分水（合口）
	千川上水	千川上水上流：境橋 - 西巣鴨 千川上水下流	開渠区間 暗渠区間
	品川用水		
	三田用水		
	その他	神田上水助水濠等	
神田川上水系		（今回は調査の対象外とした）	

表1-2 玉川上水・分水の調査区分

(3) 100 選選定調査の方法

①調査の手順

調査の手順は概ね図 1-1 に示す、4 段階で進める。本調査は、図の 3 段階まででまとめることとする。最終的な 100 選選定の 4 段階では、現地の状況、地権者などの関係者の意向、市民団体との協議を踏まえ最終決定したい。

調査団体は既に、未来遺産登録団体である「玉川上水ネット」が組織されているので基本的には「玉川上水ネット」を基軸に担当区間を調整し、調整がなかった区間のみ個別に活動市民団体と調整を行うこととした。

調査は、表 1-3, 4 に示す調査票により、各区間 10 点の関連遺構の抽出、

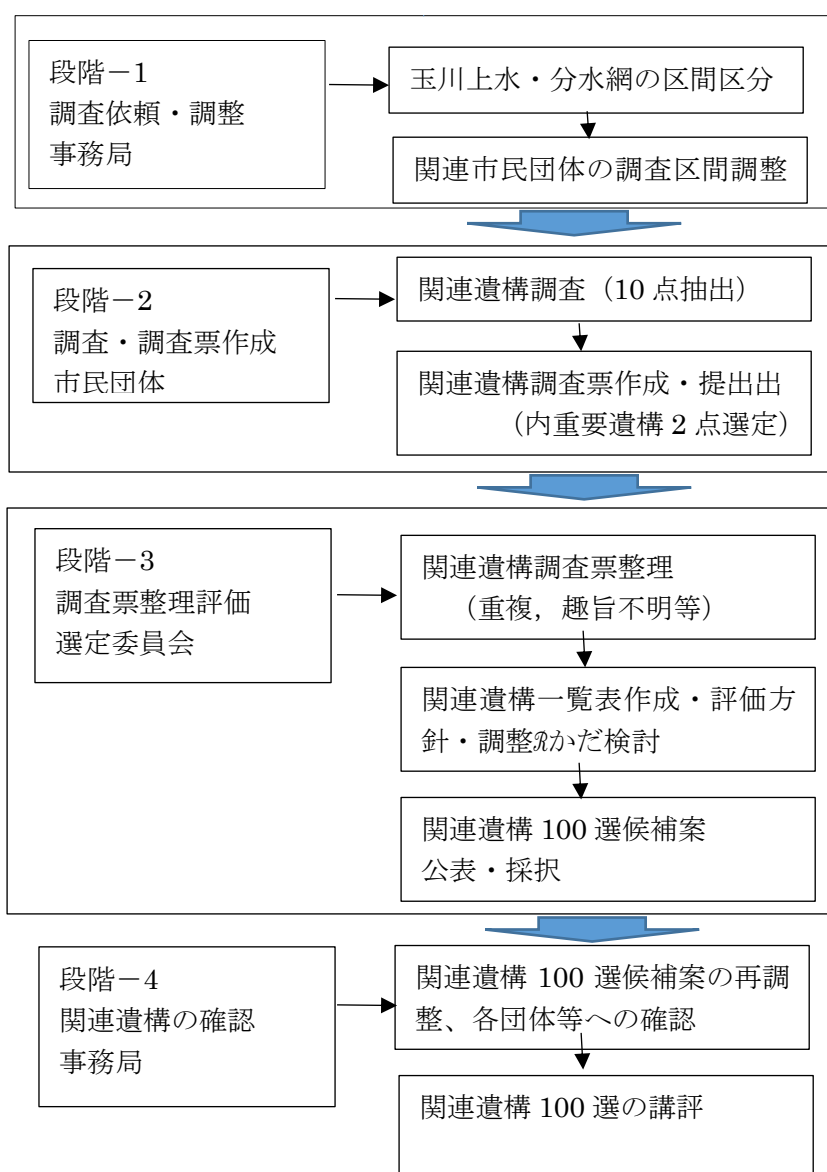


図 1-1 関連遺構 100 選の選定手順

および、各遺構の概要書を作成し提出していただくこととした。さらに、各区分ごとに特に重要と思われる遺構2点を厳選していただくこととした。
また、100選選定にあたっては表1-5に示す先生方のご協力をいただいた。

提出日2018年 月 日

市民が選ぶ玉川上水・分水網関連遺構調書 (No.)

団体名	
遺構番号:	遺構名称:
遺構の特徴	
現況写真(全体):コメント	
現況写真(部分拡大)コメント	
関連資料・文献等	

表1-3 網関連遺構100選 一覧表

提出日2018年 月 日

市民が選ぶ玉川上水・分水網関連遺構候補一覧(No.)

団体名			
代表者	氏名		
担当者	氏名		
	住所		
	連絡先		
	e-mail		
関連遺構一覧表 対象水系名()			
番号	遺構名称	所在地	遺構の概要(100字)
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
<small>※1 特に保全再生、顕彰が望まれる遺構を2点選んで番号に◎を付けてください。 ※2 地図上(貴団体が使用している図面)に関連遺構の位置を印 番号を記入してください。 ※3 関連遺構の保全再生について特に留意すべき点がありましたらコメントしてください。</small>			

表1-4 関連遺構100選 遺構概要書

歴史文化遺産保全	西村 幸夫 (プロジェクト未来遺産委員長・神戸芸術工科大学教授)
河川工学・水文学 土木史	鼎 信次郎 (東京工業大学理工学部教授) 知野 泰明(日本大学理工学部准教授・土木学会土木史委員会委員長)
多摩の歴史と文化 自然環境	真下 祥幸 (東京都江戸東京博物館学芸員) 開発 法子 (前日本自然保護協会事務局長・リスの家代表)
武蔵野台地の水利用	小坂 克信 (産業考古学会理事 水車と臼分会代表、立川市史編さん委員)
江戸の水文化 (下町)	山本 泰人 (日本橋再生推進協議会水辺再生研究会代表)

表1-5 100選選定にご協力いただいた先生方

第2章 市民が選ぶ玉川上水・分水網関連遺構

(1) 調査の区間区分と担当市民団体

① 参加市民団体

調査は、未来遺産登録団体玉川上水ネットの協力の元、特に下流区間の該当団体がない区間については区の教育委員会などに問わせ、個別的に調整を図った。この結果表 2-1 に示す玉川上水ネット 25 団体、一般の団体 13 団体、計 38 の団体の方々に参加をいただいた。

区分	主な活動区域	名称	概要
未来遺産登録団体 玉川上水ネット	福生市	玉川上水遊歩道を考える会	
	立川市	玉川上水の自然保護を考える会	
	東大和市	玉川上水野火止用水ネットワーク	
	東久留米市	NPO中国健康法普及会	
	小平市	小平ユネスコ協会	
		小平市玉川上水を守る会	
		みどりともずのつながり市民会議	
		学び舎江戸東京ユネスコクラブ	
		小さな虫や草やいきものたちを支える会	
		玉川上水ストーリーテラズ	
		小平井戸の会	
	小金井市	小金井玉川上水の自然を守る会	
	西東京市	東京ホテル会議	
	武蔵野市	武蔵野ユネスコ協会	
		玉川上水を守り育てる武蔵野市民の会	
		武蔵野の森を育てる会	
	三鷹市	住みよい環境をつくる三鷹市民の会	
		井の頭の歴史を知る会	
		三鷹市環境市民連合	
		井の頭バードリサーチ	
	杉並区	玉川上水・すぎなみの会	
		玉川上水再々発見の会	
		久我山緑の散歩道	
	渋谷区	渋谷川・水と緑の会	
	新宿区	NPO 新宿環境活動ネット	
一般団体	埼玉県	新河岸川水系水環境連絡会	
		野火止用水を守る会	
	国分寺市	美しい用水の会(ミズモリ)	
		NPO 国分寺まちづくりセンター	
	世田谷区	NPO 世田谷環境学習会	
	板橋区	板橋史談会	
	豊島区	巣鴨庚申塚のまちづくりを考える会	
	文京区	文京文化資源リサーチ倶楽部	
	品川区	グリーンインフラ品川	
		品川用水復活研究会	
	千代田区	外濠再生懇談会	
	中央区	日本橋水辺再生研究会	

表 2-1 100 選定に参加いただいた市民団体

②調査の区間区分と担当市民団体

調査は、表 1 - 2 に示す区間区分にもとずいて各市民団体と個別に調整し、最終的に表 2 - 2 に示す区間区分と担当市民団体を確定した。

なお、この区間区分と市民団体の調整の過程で、神田川・神田川上水系統については、既に他の団体が同様な調査を検討していることが判明したため、今回の調査の対象とせず、将来必要に応じ対応を協議することとした。また、田柄用水については該当市民団体が見つからず、今後の調整課題とした。

玉川上水・本線系統水路・河川等					
水系名称	区間区分	行政区域	区間責任者	調査市民団体	
玉川上水上流	羽村堰—平和橋	羽村市・福生市	柳橋洋嘉	玉川上水遊歩道を考える会	
	平和橋—小平監視所	拝島市・昭島市・立川市	柴 俊男・萩本悦久	玉川上水の自然保護を考える会	
玉川上水中流	小平監視所—三鷹駅	小平市・小金井市・西東京市・武蔵野市・三鷹市	西村弘・鈴木利博	小平ユネスコ協会 玉川上水を守る会 みどりのつながり市民会議 学び舎江戸東京ユネスコクラブ ちむくい 玉川上水ストーリーテラーズ 小平井戸の会 武蔵野ユネスコ協会 玉川上水を守り育てる市民の会	
	三鷹駅—浅間橋	三鷹市・杉並区	山崎善弘・田中雅文 黒木百合子・田中茂利	住みよい環境をつくる三鷹市民の会 井の頭の歴史を知る会 井の頭パードリサーチ 玉川上水すぎなみの会 玉川上水再々発見の会 久我山緑の散歩道	
玉川上水下流	浅間橋—笹塚橋	杉並区・世田谷区	高橋 健	世田谷環境学習会	
	笹塚橋下流—四谷見附	渋谷区・新宿区	小山裕三	NPO新宿環境活動ネット	
外濠・日本橋川	四谷見附—飯田橋	新宿区・千代田区・港区	福井恒明	外濠再生懇談会	
	飯田橋—隅田川	千代田区・中央区	山本泰人・石井亮一	日本橋水辺再生研究会	
分水系統					
水系名称	分水(区間区分)	行政区域	区間責任者	調査市民団体	
上流区間	田村・熊川・拝島分水	羽村市・福生市・拝島市	柳橋洋嘉	玉川上水遊歩道を考える会	
	殿ヶ谷・柴崎分水	立川市	柴 俊男・萩本悦久	玉川上水の自然保護を考える会	
中流区間	砂川用水系	砂川分水	立川市	柴 俊男・萩本悦久	
		源五右衛門分水	立川市	柴 俊男・萩本悦久	
		国分寺分水など	国分寺市	佐藤敬臣	美しい用水の会(ミズモリ) NPO国分寺まちづくりセンター
	新堀用水系	下小金井・梶野・境村分水等	小金井市	加藤嘉六	小金井玉川上水の自然を守る会
		小川分水	小平市	西村弘・鈴木利博	小平ユネスコ協会 玉川上水を守る会 みどりのつながり市民会議 学び舎江戸東京ユネスコクラブ ちむくい 玉川上水ストーリーテラーズ 小平井戸の会
		大沼田・鈴木・田無分水	小平市・西東京市		
野火止用水(東京都)	小平市・東大和市・東村山市・東久留米市・清瀬市	小倉安洋	玉川上水野火止ネットワーク・東大和		
野火止用水(埼玉県)	新座市・志木市・朝霞市	菅谷輝美	新河岸川水系水環境連絡会 野火止用水を守る会		
下流区間	千川上水上流)	武蔵野市	渡辺卓治 田中純江	玉川上水を守り育てる武蔵野市民の会 武蔵野ユネスコ協会	
		練馬区・板橋区	大澤鷹遷	板橋史談会	
	千川上水(上流)	豊島区	榎戸英治	巢鴨庚申塚のまちづくりを考える会	
		文京区・台東区	有馬純雄	文京文化資源リサーチ倶楽部	
	田柄分水	西東京市・練馬区		未調整	
	品川・牟礼・深大寺・仙川	三鷹市 武蔵野市	渡部一二 田中茂利	住みよい環境をつくる三鷹市民の会 品川用水復活研究会 グリーンインフラ品川	
	烏山・上北沢・下高井戸等	世田谷区・杉並区	黒木由里子	玉川上水すぎなみの会	
三田・青山(渋谷川)	渋谷区・目黒区	梶山公子・天羽大器	渋谷川・水とみどり研究会		
幡谷・原宿・助水堀等	新宿区・渋谷区	小山裕三	NPO新宿環境活動ネット		

表 2-2 調査区間区分と担当団体

(2) 第1次市民が選ぶ玉川上水・分水網関連遺構の概要

①区間・水系別の関連遺構数

区間・水系別の関連遺構数は、本線関連 100 点、分水関連 140 点の計 240 点であった（表 2-3 参照）。このうち 98 点が重要遺構としてあげられていた。

参加団体は 38 団体で 1 団体当たり 6.3 点の抽出で重要遺構が 98 点であることから当初想定した「市民が選ぶ玉川上水・分水網関連遺構 100 選」の条件は十分満たしていると考えられる。

従って、この市民が選んだ遺構を「第1次市民が選ぶ玉川上水・分水網関連遺構 100 選」と呼ぶこととする。

区分	区間・水系	関連遺構数	重要遺構数	摘要
本線	全区間	1	0	
	I. 玉川上水上流	18	8	
	II. 玉川上水中流	30	15	
	III. 玉川上水下流	26	16	
	IV. 外濠	19	5	
	V. 日本橋川	6	4	
	小計	100	48	
分水	1. 上流5分水	16	7	
	2. 砂川用水系	34	13	
	3. 野火止用水	16	3	
	4. 小平用水系	21	9	
	5. 千川上水上流	22	8	
	6. 千川上水下流	4	4	
	7. 品川分水・牟礼分水	12	2	
	8. 三田用水	13	2	
	9. 幡ヶ谷分水神田浄水助水堀	2	2	
	小計	140	50	
合計		240	98	

表 2-3 「第1次市民が選ぶ玉川上水・分水網関連遺構 100 選」数

②第1次選定関連遺構の特徴

市民が選んだ玉川上水・分水網の種別を 10 に区分し、遺構の概要を整理した。10 の区分は表 2-4、関連遺構の全体と重要遺構の指定点数は表 2-5 に示す通りである。第1次市民が選ぶ玉川上水・分水網関連遺構 100 選の一覧表は表 2-6~10 に整理した。関連遺構全体で見ると、本線では、水路構造・水利施設・街道橋梁・水利利用が多く取り上げられており、逆に新田開発は 0 となり、幹線水路の役割と特徴を示している。分水についても、水路構造・水利施設の指摘が多いことは変わりはないが、新田開発・池泉利用が次いでいることが特徴となっている。また、街道橋梁の指摘は少なく、水路構造での対応へと変化している様子も見て取れる。このように第1次の市民選定は地域的にも、種別においても極めてバランスのとれたものであった。

分類	主な関連遺構
1. 水路構造	護岸・石垣
	伏せ越し
	掛樋
	胎内堀
	放流口・余水吐
2. 水利施設	水路掘削跡
	分水口
	堰・水門
	水車・導水路
3. 新田開発	舟運施設
	田
4. 池泉利用	畑地・屋敷林
	社寺境内池泉
	庭園池泉
5. 水路管理	公園池泉
	水路管理
6. 水道施設	芥留等
	浄水場
	導水路・管路
7. 街道橋梁	貯水池
	街道橋梁
8. 水辺利用	鉄道交差
	親水緑道
	公園緑地
9. 自然環境	桜並木
	野草・雑木林
10. 碑・文献	ホタル
	文献
	記念碑モニュメント

表 2-4 関連遺構の分類

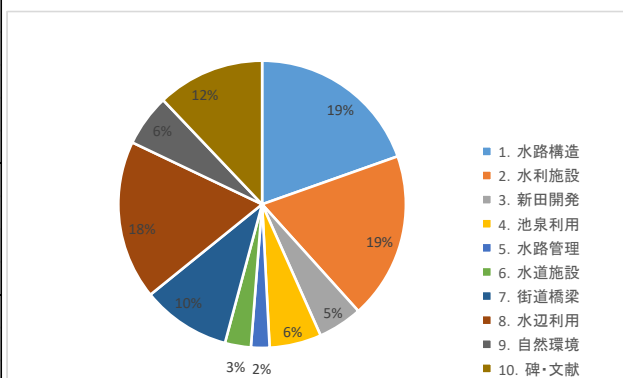


図 2-1 関連遺構の全体種別構成比

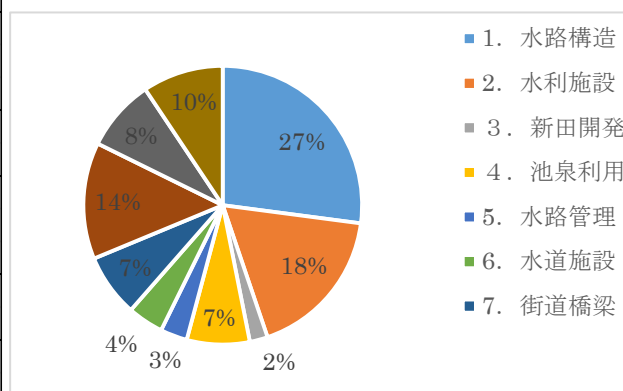


図 2-2 重要関連遺構の類別構成比

区分 分類	総点数			重要遺構選定数		
	本線	分水	計	本線	分水	合計
1. 水路構造	18	29	47	12	15	27
2. 水利施設	10	35	45	5	12	17
3. 新田開発	0	12	12	0	2	2
4. 池泉利用	2	12	14	2	5	7
5. 水路管理	3	2	5	2	1	3
6. 水道施設	7	0	7	4	0	4
7. 街道橋梁	16	8	24	7	0	7
8. 水辺利用	20	23	43	7	7	14
9. 自然環境	8	6	14	5	3	8
10. 碑・文献	16	13	29	4	5	9
計	100	140	240	48	50	98

表 2-5 関連遺構の種類別点数

区間区分	行政区	番号	分類	市民 評価	遺構名称	推薦団体	摘要
T.全区間	全区間	1	10. 碑・文献		T5 玉川上水測量図 国分寺市用水路図	美しい用水の会・ミズモリ団	
I 玉川上水 上流 (羽村堰~小平 監視所)	羽村市	2	2. 水利施設	○	羽村の堰	玉川上水遊歩道を考える会	土木学会推奨遺産
	福生市	3	1. 水路構造	○	開削工事跡(水喰土)	玉川上水遊歩道を考える会	
	福生市	4	1. 水路構造		玉川上水旧堀跡	玉川上水遊歩道を考える会	福生市史跡
	福生市	5	8. 水辺利用		福生の玉川上水遊歩道	玉川上水遊歩道を考える会	
	福生市	6	7. 街道橋梁	○	日光橋(レンガアーチ)	玉川上水遊歩道を考える会	
	昭島市	7	2. 水利施設		拝島原水補給口	玉川上水の自然保護を考える会	
	昭島市	8	1. 水路構造		玉川上水蓋掛区間	玉川上水の自然保護を考える会	
	立川市	9	2. 水利施設		旧南野中新田分水口記念碑	玉川上水の自然保護を考える会	
	立川市	10	2. 水利施設		旧砂川分水取り入れ口跡	玉川上水の自然保護を考える会	
	立川市	11	1. 水路構造	○	旧残堀川開削	玉川上水の自然保護を考える会	
	昭島市	12	1. 水路構造	○	玉川上水残堀川伏越	玉川上水の自然保護を考える会	
	立川市	13	8. 水辺利用		見影橋付近の桜並木	玉川上水の自然保護を考える会	
	立川市	14	1. 水路構造		古残堀川の麁川跡	玉川上水の自然保護を考える会	
	立川市	15	1. 水路構造	○	古残堀川交差付近築堤大曲	玉川上水の自然保護を考える会	
	立川市	16	2. 水利施設		旧巴河岸跡	玉川上水の自然保護を考える会	
	立川市	17	8. 水辺利用	○	金比羅山	玉川上水の自然保護を考える会	
	立川市	18	6. 水路管理	○	砂川水衛所跡	玉川上水の自然保護を考える会	
	立川市	19	9. 自然環境		玉川上水沿野草群生地	玉川上水の自然保護を考える会	
	II 玉川上水中 流 (小平監視所~ 浅間橋)	小平市	20	6. 水道施設	○	小平監視所	小平市玉川上水関連市民団体
小平市		21	10. 碑・文献		清流復活碑	小平市玉川上水関連市民団体	
小平市		22	8. 水辺利用		上水小橋	小平市玉川上水関連市民団体	
小平市		23	7. 街道橋梁	○	小川橋・石橋供養塔	小平市玉川上水関連市民団体	
小平市		24	2. 水利施設	○	久右衛門橋・船溜跡	小平市玉川上水関連市民団体	
小平市		25	7. 街道橋梁		鎌倉橋	小平市玉川上水関連市民団体	
小平市		26	5. 水路管理	○	旧小川水衛所跡	小平市玉川上水関連市民団体	
小平市		27	10. 碑・文献		名勝小金井桜境界石	小平市玉川上水関連市民団体	
小平市		28	9. 自然環境	○	野草観察ゾーン	小平市玉川上水関連市民団体	
小平市		29	7. 街道橋梁		喜平橋	小平市玉川上水関連市民団体	
小平市		30	7. 街道橋梁		貫井橋	小平市玉川上水関連市民団体	
小平市		31	10. 碑・文献		小金井桜樹碑	小平市玉川上水関連市民団体	
小平市		32	10. 碑・文献		名勝小金井桜碑	小平市玉川上水関連市民団体	
小平市		33	10. 碑・文献		行幸の松	小平市玉川上水関連市民団体	
小平市		34	9. 自然環境	○	名勝小金井サクラ	小平市玉川上水関連市民団体	
小平市		35	7. 街道橋梁	○	小金井橋	小平市玉川上水関連市民団体	
小平市		36	1. 水路構造		玉川上水素掘り水路	小平市玉川上水関連市民団体	
武蔵野市		37	5. 水路管理	○	境水衛所跡	玉川上水を守り育てる市民の会	
武蔵野市		38	9. 自然環境	○	独歩の森(境山野緑地)	武蔵野の森を育てる会	
武蔵野市		39	6. 水道施設		水道局境浄水場	玉川上水を守り育てる市民の会	
武蔵野市		40	8. 水辺利用		西久保公園	玉川上水を守り育てる市民の会	
武蔵野市		41	8. 水辺利用		野鳥の森公園	玉川上水を守り育てる市民の会	
武蔵野市三鷹		42	7. 街道橋梁		JR三鷹駅交差部	玉川上水を守り育てる市民の会	
武蔵野市		43	10. 碑・文献		玉川上水護岸お犬むすびの松	玉川上水を守り育てる市民の会	
武蔵野市 三鷹市		44	4. 池泉利用	○	都立井の頭恩賜公園	玉川上水を守り育てる市民の会	
三鷹市		45	8. 水辺利用		風の散歩道	住みよい環境をつくる三鷹市民連絡会	
三鷹市		46	1. 水路構造		神田川助水路	住みよい環境をつくる三鷹市民連絡会	
三鷹市		47	8. 水辺利用	○	小鳥の森	住みよい環境をつくる三鷹市民連絡会	
三鷹市		48	2. 水利施設	○	牟礼分水取り入れ口	住みよい環境をつくる三鷹市民連絡会	
三鷹市	49	8. 水辺利用		玉川上水緑道・牟礼地区	住みよい環境をつくる三鷹市民連絡会		

表 2 - 6 「第 1 次市民が選ぶ玉川上水・分水網関連遺構関連 100 選」・本線 (1)

II 玉川上水中流	三鷹市	50	7. 街道橋梁		若草橋	住みよい環境をつくる三鷹市民連絡会		
	三鷹市	51	1. 水路構造		傾斜面を利用した開削	住みよい環境をつくる三鷹市民連絡会		
	三鷹市	52	7. 街道橋梁		東橋	住みよい環境をつくる三鷹市民連絡会		
	三鷹市	53	9. 自然環境		御殿山の雑木林	住みよい環境をつくる三鷹市民連絡会		
	三鷹市	54	8. 水辺利用		井の頭公園西園	住みよい環境をつくる三鷹市民連絡会		
	三鷹市 杉並区	55	9. 自然環境	○	玉川上水緑道・渓谷・農業	住みよい環境をつくる三鷹市民連絡会 玉川上水・杉並の会		
	三鷹市 杉並区	56	7. 街道橋梁	○	牟礼橋・人見街道	住みよい環境をつくる三鷹市民連絡会 玉川上水・杉並の会		
	三鷹市 杉並区	57	9. 自然環境	○	牟礼橋大ケヤキと庚申塔	玉川上水・杉並の会		
	杉並区	58	10. 碑・文献		水難者慰霊碑	玉川上水・杉並の会		
杉並区	59	8. 水辺利用		岩通ガーデン	玉川上水・杉並の会			
III. 玉川上水 downstream (浅間橋-四谷大木戸・四谷見附・外濠)	杉並区	60	10. 碑・文献	○	高井戸堤碑	NPO世田谷環境学習会	No.60～No.70 第9回玉川上水リニューアルガイドから抜粋	
	杉並区	61	10. 碑・文献		玉川上水変遷碑	NPO世田谷環境学習会		
	杉並区	62	8. 水辺利用	○	玉川上水第2公園	NPO世田谷環境学習会		
	杉並区	63	7. 水道施設		荒玉水道・道路横断	NPO世田谷環境学習会		
	杉並区	64	7. 街道橋梁		下高井戸橋	NPO世田谷環境学習会		
	杉並区	65	8. 水辺利用		永泉寺緑地	NPO世田谷環境学習会		
	杉並区	66	8. 水辺利用	○	塩硝蔵地跡	NPO世田谷環境学習会		
	杉並区	67	10. 碑・文献		井の頭街道碑	NPO世田谷環境学習会		
	杉並区	68	6. 水道施設	○	新水路跡と水道道路	NPO世田谷環境学習会 NPO新宿環境活動ネット		
	杉並区	69	6. 水道施設	○	和泉水圧調整所	NPO世田谷環境学習会		
	杉並区	70	6. 水道施設		和田堀給水所	NPO世田谷環境学習会		
	杉並区	71	3. 街道橋梁	○	玉川上水と井の頭線との交差	NPO世田谷環境学習会		
	渋谷区	72	1. 水路構造	○	代田橋～笹塚橋開渠区間	NPO新宿環境活動ネット		
	渋谷区	73	7. 街道橋梁		笹塚橋	NPO新宿環境活動ネット		
	渋谷区	74	9. 自然環境		篝銀杏	NPO新宿環境活動ネット		
	渋谷区	75	10. 碑・文献		玉川上水のモニュメント	NPO新宿環境活動ネット		
	渋谷区	76	6. 水道施設	○	淀橋浄水場跡	NPO新宿環境活動ネット		
	渋谷区	77	10. 碑・文献		旭橋の石柱と下水道の石碑	NPO新宿環境活動ネット		
	新宿区	78	8. 水辺利用	○	内藤新宿分水散策道	NPO新宿環境活動ネット		
	新宿区	79	10. 碑・文献	○	水道碑記	NPO新宿環境活動ネット		東京都史跡
	新宿区	80	2. 水利施設	○	余水吐バルブ	渋谷川・水と緑の会		
	新宿区	81	1. 水路構造	○	余水(渋谷川)暗渠	NPO新宿環境活動ネット		
	新宿区	82	10. 碑・文献	○	鉛筆の碑	渋谷川・水と緑の会		
	新宿区	83	4. 池泉利用	○	荒木町・策の池	NPO新宿環境活動ネット 外濠再生懇談会		
	新宿区	84	10. 碑・文献	○	湯屋横丁と石切り横丁	NPO新宿環境活動ネット 外濠再生懇談会		
新宿区	85	2. 水利施設	○	四谷市中配管地と御門掛樋	NPO新宿環境活動ネット 外濠再生懇談会			
S.外濠	新宿区	86	7. 街道橋梁		新四ツ谷見附橋	NPO新宿環境活動ネット		
	港・千代田区	87	1. 水路構造	○	弁慶濠	外濠再生懇談会	国史跡	
	新宿・千代田区	88	1. 水路構造	○	真田壕	外濠再生懇談会		
	港区	89	8. 水辺利用		玉川稲荷	外濠再生懇談会		
	港区	90	1. 水路構造		大下水跡	外濠再生懇談会		
	千代田区	91	2. 水利施設		清水谷公園 石拵	NPO新宿環境活動ネット 外濠再生懇談会		
	新宿・千代田区	92	1. 水路構造	○	市ヶ谷濠・新見附濠・牛込壕	外濠再生懇談会	国史跡	
	新宿・千代田区	93	8. 水辺利用	○	外濠公園	外濠再生懇談会		
	新宿・千代田区	94	1. 水路構造	○	外濠の神田川出口	外濠再生懇談会		
N.日本橋川	千代田区	95	7. 街道橋梁	○	常盤橋門跡と常盤橋	日本橋水辺再生研究会		
	千代田区	96	1. 水路構造	○	江戸城石垣	日本橋水辺再生研究会		
	中央区	97	8. 水辺利用	○	日本橋川と魚河岸跡	日本橋水辺再生研究会		
	中央区	98	7. 街道橋梁	○	日本橋と日本国道路元標	日本橋水辺再生研究会		
	中央区	99	8. 水辺利用		日本橋ほとりの野村證券本館	日本橋水辺再生研究会		
	中央区	100	8. 水辺利用		兜橋と日本証券取引所	日本橋水辺再生研究会		

表 2 - 7 「第 1 次市民が選ぶ玉川上水・分水網関連遺構関連 100 選」・本線 (2)

分水	行政区	No.	分類	市民 評価	分水関連遺構	推薦団体	備考
1. 福生分水	福生市	1	2. 水利施設	○	取水口と田村酒造	玉川上水遊歩道を考える会	国登録文化財
	福生市	2	2. 水利施設		設楽分水取入口	玉川上水遊歩道を考える会	
2. 熊川分水	福生市	3	2. 水利施設		熊川分水取入口	玉川上水遊歩道を考える会	国登録文化財
	福生市	4	4. 池泉利用	○	森田家別荘跡の池泉(幸楽園)	玉川上水遊歩道を考える会	
	福生市	5	2. 水利施設	○	熊川分水と小川酒造	玉川上水遊歩道を考える会	
3. 拝島分水	昭島市	6	2. 水利施設		取水口	玉川上水遊歩道を考える会	
	昭島市	7	7. 街道橋梁		拝島分水と拝島宿	玉川上水遊歩道を考える会	
4. 殿ヶ谷分水	昭島市	8	8. 水辺利用		殿ヶ谷分水取入口と緑道	玉川上水遊歩道を考える会 玉川上水の自然保護を考える会	
	昭島市	9	10. 碑・文献	○	殿ヶ谷分水記念碑と開渠	玉川上水の自然保護を考える会	
	昭島市	10	1. 水路構造		殿ヶ谷分水開渠区間	玉川上水の自然保護を考える会	
5. 柴崎分水	昭島市	11	2. 水利施設		取水口	玉川上水の自然保護を考える会	
	立川市	12	2. 水利施設	○	ハラツクルマ(中島水車跡)	玉川上水の自然保護を考える会	
	立川市	13	1. 水路構造		柴崎分水伏せ越し	玉川上水の自然保護を考える会	
	立川市	14	1. 水路構造	○	中央線掛樋	玉川上水の自然保護を考える会	
	立川市	15	3. 新田開発	○	廻り水路と水田	玉川上水の自然保護を考える会	
6. 砂川用水系 ①砂川分水	立川市	16	2. 水利施設		砂川分水取水口	玉川上水の自然保護を考える会	
	立川市	17	3. 新田開発	○	旧田用水(田堀)跡	玉川上水の自然保護を考える会	
	立川市	18	3. 新田開発		南側田用水	玉川上水の自然保護を考える会	
	立川市	19	3. 新田開発		北側田用水	玉川上水の自然保護を考える会	
	立川市	20	3. 新田開発		下南側用水	玉川上水の自然保護を考える会	
	立川市	21	3. 新田開発		下北側用水	玉川上水の自然保護を考える会	
	立川市	22	2. 水利施設		甲武線への用水供給	玉川上水の自然保護を考える会	
	立川市	23	7. 街道橋梁		残堀川の田堀橋	玉川上水の自然保護を考える会	
	立川市	24	1. 水路構造		砂川用水掛樋	玉川上水の自然保護を考える会	
	立川市	25	2. 水利施設		旧タマグルマ(玉車)	玉川上水の自然保護を考える会	
	立川市	26	1. 水路構造	○	開渠の砂川用水	玉川上水の自然保護を考える会	
	②源五右衛門分水	立川市	27	2. 水利施設	○	源五右衛門分水跡	
立川市		28	3. 新田開発		旧砂川田んぼ	玉川上水の自然保護を考える会	
立川市		29	2. 水利施設		旧貯水池跡	玉川上水の自然保護を考える会	
立川市		30	1. 水路構造		砂川用水の伏せ越し	玉川上水の自然保護を考える会	
立川市		31	10. 碑・文献		玉川上水・砂川・芋窪分水の碑	玉川上水の自然保護を考える会	
③恋ヶ窪分水	国分寺市	32	8. 水辺利用	○	恋ヶ窪分水復活遺構	美しい水の会 NPO国分寺まちづくりセンター	
	国分寺市	33	4. 池泉利用		姿見の池	美しい水の会 NPO国分寺まちづくりセンター	
	国分寺市	34	4. 池泉利用		恋ヶ窪分須流末の池	美しい水の会 NPO国分寺まちづくりセンター	
④旧野中新田用水	国分寺市	35	1. 水路構造	○	国分寺で唯一の流水路	美しい水の会	
	国分寺市	36	2. 水利施設	○	榎戸水車遺構	美しい水の会	
⑤中藤新田分水	国分寺市	37	10. 碑・文献		新田開発謝恩塔	美しい水の会	
	国分寺市	38	1. 水路構造	○	胎内堀	美しい水の会	
	小金井市	39	1. 水路構造	○	高杉水車ほっこぬき(胎内堀)遺構	小金井玉川上水の自然を守る会	
	小金井市	40	2. 水利施設	○	小金井分水門	小金井玉川上水の自然を守る会	
⑥小金井分水	小金井市	41	1. 水路構造	○	山王窪の築樋	小金井玉川上水の自然を守る会	
	小金井市	42	2. 水利施設		島崎水車	小金井玉川上水の自然を守る会	
⑥梶野分水	小金井市	43	1. 水路構造	○	梶野分水築樋	小金井玉川上水の自然を守る会	
	小金井市	44	1. 水路構造		深大寺用水西堀跡	小金井玉川上水の自然を守る会	
⑦境村分水	武蔵野市	45	8. 水辺利用	○	花の通水路	玉川上水を守り育てる武蔵野市民の会	
	武蔵野市	46	8. 水辺利用		武蔵野第二小学校(市民会館)	玉川上水を守り育てる武蔵野市民の会	
	武蔵野市	47	8. 水辺利用		日本獣生命科学大学と秋元家	玉川上水を守り育てる武蔵野市民の会	
	武蔵野市	48	8. 水辺利用		三浦朱門旧宅	玉川上水を守り育てる武蔵野市民の会	

表2-8「第1次市民が選ぶ玉川上水・分水網関連遺構関連100選」・分水(1)

⑦境村分水	武蔵野市	49	8. 水辺利用	○	杵築大社	玉川上水を守り育てる武蔵野市民の会	
8. 野火止用水 (東京都)	小平市	50	2. 水利施設	○	野火止用水分水口	玉川上水野火止用水ネットワーク東大和 小平市玉川上水関連市民団体	
	東大和市	51	9. 自然環境		東大和・ホテルの里	玉川上水野火止用水ネットワーク東大和	
	東大和市	52	9. 自然環境	○	野火止緑地(東大和市)	玉川上水野火止用水ネットワーク東大和	
	東大和市	53	10. 碑・文献	○	旧陸軍少年通信兵学校正門の碑	玉川上水野火止用水ネットワーク東大和	
	東大和市	54	2. 水利施設		恩多野野火止水車苑	玉川上水野火止用水ネットワーク東大和	
	東大和市	55	9. 自然環境	○	萬年橋のケヤキ	玉川上水野火止用水ネットワーク 東大和新河岸川水系水環境連絡会	
	東久留米市	56	9. 自然環境		野火止用水歴史保全地域(下里)	新河岸川水系水環境連絡会	
	東久留米市	57	1. 水路構造		押し出しの伏せ越し	新河岸川水系水環境連絡会	
東久留米市	58	9. 自然環境		野火止用水歴史保全地域(小山)	新河岸川水系水環境連絡会		
8. 野火止用水 (埼玉県)	新座市	59	1. 水路構造	○	たかばしの伏せ越し	新河岸川水系水環境連絡会	
	新座市	60	8. 水辺利用	○	史跡公園	野火止用水を守る会	
	新座市	61	8. 水辺利用		本多緑道	野火止用水を守る会	
	新座市	62	1. 水路構造		本堀の伏せ越し	野火止用水を守る会	
	新座市	63	9. 自然環境	○	西分橋ホテル養殖	野火止用水を守る会	
	新座市	64	8. 水辺利用		野火止公園	野火止用水を守る会	
志木市	65	2. 水利施設		慶応志木高校野火止用水跡	新河岸川水系水環境連絡会		
9. 小平用水系 ①新堀用水	小平市	66	1. 水路構造	○	新堀用水胎内堀	小平市玉川上水関連市民団体	
	小平市	67	2. 水利施設	○	小島水車遺構(新堀用水)	小平市玉川上水関連市民団体	
	小平市	68	2. 水利施設		清水水車遺構(新堀用水)	小平市玉川上水関連市民団体	
	小平市	69	8. 水辺利用	○	木もれ日の小径	小平市玉川上水関連市民団体	
②小川分水	小平市	70	2. 水利施設	○	小平用水の分岐水門群	小平市玉川上水関連市民団体	
	小平市	71	8. 水辺利用	○	小平市親水水路、緑道のネットワーク	小平市玉川上水関連市民団体	
	小平市	72	2. 水利施設	○	小川用水取り入れ口	小平市玉川上水関連市民団体	
	小平市	73	2. 水利施設		小川用水南北分岐門	小平市玉川上水関連市民団体	
	小平市	74	3. 新田開発		屋敷林とたから道	小平市玉川上水関連市民団体	
	小平市	75	3. 新田開発		水路沿いの農家屋敷林・洗い場	小平市玉川上水関連市民団体	
	小平市	76	3. 新田開発		大げやき	小平市玉川上水関連市民団体	小平市天然記念物
	小平市	77	8. 水辺利用		彫刻の谷緑道	小平市玉川上水関連市民団体	
	小平市	78	8. 水辺利用		魁の流れ	小平市玉川上水関連市民団体	
小平市	79	8. 水辺利用		あじさいの小路	小平市玉川上水関連市民団体		
③大沼田分水	小平市	80	1. 水路構造	○	筑樋水路	小平市玉川上水関連市民団体	
	小平市	81	8. 水辺利用		グリーンロー親水公園	小平市玉川上水関連市民団体	
	小平市	82	8. 水辺利用		狭山先緑道と竹の子公園	小平市玉川上水関連市民団体	
	小平市	83	8. 水辺利用		大門橋緑道	小平市玉川上水関連市民団体	
	小平市	84	8. 水辺利用		清風エリヤと清風公園	小平市玉川上水関連市民団体	
④鈴木分水水	小平市	85	1. 水路構造	○	鈴木用水掛樋	小平市玉川上水関連市民団体	
⑤田無用水	小平市	86	3. 新田開発		畑地を通る田無用水	小平市玉川上水関連市民団体	
10. 千川上水 (上流)	武蔵野市	87	10. 碑・文献	○	取水口と清流復活の碑	玉川上水を守り育てる武蔵野市民の会	
	武蔵野市	88	8. 水辺利用		千川上水遊歩道	玉川上水を守り育てる武蔵野市民の会	
	武蔵野市	89	8. 水辺利用	○	都立武蔵野中央公園	玉川上水を守り育てる武蔵野市民の会	
	武蔵野市	90	7. 街道橋梁		三郡橋	玉川上水を守り育てる武蔵野市民の会	
	武蔵野市	91	7. 街道橋梁		竹下橋	玉川上水を守り育てる武蔵野市民の会	
	練馬区	92	3. 新田開発	○	千川上水路復元と農の風景	板橋区史談会	
	練馬区	93	2. 水利施設		6ヶ村分水の分岐点伊勢殿橋跡	板橋区史談会	
	練馬区	94	1. 水路構造		千川上水と西武線交差	板橋区史談会	
	練馬区	95	1. 水路構造		上石神井南の築樋	板橋区史談会	

表2-9 「第1次市民が選ぶ玉川上水・分水網関連遺構関連100選」・分水(2)

10. 千川上水 (上流)	練馬区	96	10. 碑・文献		仙川堤桜楓植樹碑	板橋区史談会	
	練馬区	97	8. 水辺利用	○	中新井分水跡(濯川)	板橋区史談会	
	練馬区	98	5. 水路管理		水番所跡	板橋区史談会	
	練馬区	99	1. 水路構造		千早の築樋	板橋区史談会	
	板橋区	100	10. 碑・文献	○	境石2基	板橋区史談会	
	板橋区	101	5. 水路管理	○	水神祠とあくたどめ	板橋区史談会	
	板橋区	102	2. 水利施設		千川上水水車跡	板橋区史談会	
	板橋区	103	1. 水路構造		石神井川への悪水吐	板橋区史談会	
	板橋区	104	2. 水利施設		陸軍火薬製造所分水口跡	板橋区史談会	
	北区	105	10. 碑・文献	○	千川上水分配堰碑	北区史を考える会	
	北区	106	2. 水利施設	○	大砲砲身切削用錐台	北区史を考える会	
	北区	107	2. 水利施設		旧醸造試験場建物	北区史を考える会	
	北区	108	1. 水路構造		千川上水暗渠のマンホール	北区史を考える会	
	北区	109	10. 碑・文献		製糸業発祥の地石碑	北区史を考える会	
10. 千川上水 (下流)	豊島区	110	2. 水利施設	○	千川上水公園(分配堰沈砂池)	西巢鴨庚申塚のまちづくを考える会	
	文京区	111	4. 池泉利用	○	六義園	文京文化財リサーチ倶楽部	国名勝
	文京区	112	4. 池泉利用	○	小石川植物園	文京文化財リサーチ倶楽部	
	文京区	113	4. 池泉利用	○	湯島聖堂	文京文化財リサーチ倶楽部	
11. 品川用水	武蔵野市	114	2. 水利施設		品川用水分水口遺構	品川用水路復活研究会	
	三鷹市	115	1. 水路構造	○	開水路遺構	品川用水路復活研究会	
	世田谷区	116	1. 水路構造		丘陵を開削した玉石積	品川用水路復活研究会	
	世田谷区	117	2. 水利施設		野澤の大水車遺構	品川用水路復活研究会	
	品川区	118	4. 池泉利用	○	戸越公園の泉水	品川用水路復活研究会	
	品川区	119	4. 池泉利用		豊葉の杜学園と品川用水	グリーンフラ品川	
	品川区	120	7. 街道橋梁		古戸越橋	グリーンフラ品川	
	品川区	121	10. 碑・文献		上蛇窪用水「記念の碑」	グリーンフラ品川	
	品川区	122	7. 街道橋梁		庚塚橋(親柱)	グリーンフラ品川	
品川区	123	10. 碑・文献		恵澤潤治の碑	品川用水路復活研究会		
12. 牟礼分水	三鷹市	124	2. 水利施設		牟礼分水 取水口	住みよい環境をつくる三鷹市民連絡会	
	世田谷区	125	8. 水辺利用		中川遊歩道	住みよい環境をつくる三鷹市民連絡会	
13. 三田用水	世田谷区	126	2. 水利施設		三田用水取水口跡	渋谷川・水と緑の会	
	渋谷区	127	7. 街道橋梁		東大研究所正門前橋の欄干	渋谷川・水と緑の会	
	目黒区	128	1. 水路構造	○	嵩上げされた流路跡	渋谷川・水と緑の会	
	目黒区	129	4. 池泉利用		西郷橋と菅刈公園の池	渋谷川・水と緑の会	
	港区	130	4. 池泉利用		旧朝倉家住宅の水路跡	渋谷川・水と緑の会	住宅:国文化財
	港区	131	2. 水利施設		海軍技術研究所実験用貯水池	渋谷川・水と緑の会	
	港区	132	10. 碑・文献		茶屋坂隧道の看板	渋谷川・水と緑の会	
	港区	133	2. 水利施設		ビール工場の貯水池	渋谷川・水と緑の会	
	港区	134	10. 碑・文献		三田用水の碑	渋谷川・水と緑の会	
	港区	135	7. 街道橋梁		今里橋の欄干と水路跡	渋谷川・水と緑の会	
	港区	136	1. 水路構造	○	三田用水導堤遺構	渋谷川・水と緑の会	
	港区	137	4. 池泉利用		八芳園の池	渋谷川・水と緑の会	
	港区	138	4. 池泉利用		鍋島松濤公園の池と水車	渋谷川・水と緑の会	
14. 幡谷分水	新宿区	139	1. 水路構造		幡谷分水跡	NPO新宿環境活動ネット	
15. 神田川助水	新宿区	140	1. 水路構造	○	神田川への助水堀跡	NPO新宿環境活動ネット	

表2-10 「第1次市民が選ぶ玉川上水・分水網関連遺構関連100選」・分水(3)

第3章 第1次市民が選ぶ玉川上水・分水網関連遺構の評価

(1)100 選考委員の指摘事項

第1次市民が選んだ玉川上水・分水網関連遺構について概要を整理した上で選考委員の先生方（表1-5参照）に講評いただいた。

主な意見は次のとおりである。

①市民が選ぶ玉川上水・分水網関連遺構の尊重

「市民が選ぶ玉川上水・分水網関連遺構」と重要の遺構判断は適切だと思われるものが多くこの一覧を尊重して100選の選定を行うことを基本とする。

②玉川上水の類似遺構の系統的整理

分水口や野草ゾーン等の遺構は、本来全線に関わる事項であり、ある区間で取り上げたら他の区間でも取り上げるべきとなることが危惧される。提案された中で系統的に整理できる遺構は全区間を対象として整理することが望ましい。

③公表が好ましくない遺構への配慮

遺構の所有者等が立入りを好ましくしくないと思われてる遺構、これまでの調査で史実と異なっている遺構などについては提案団体とも相談し今回の100選選定からは外しておくことが望ましい。

④玉川上水・分水網の全体的な構成を理解する上で重要な遺構の追加

選考委員の先生方の知見で玉川上水・分水網の全体的な構成を理解する上で不可欠となる遺構については、市民提案で重要遺構とされていないものあるいは、市民提案に含まれていない場合には新たに提案いただき市民提案とともに100選の対象として検討する。

(2)100 選の調整

選定委員会では講評に基づいて、次の遺構について追加提案を提案を行った。

①玉川上水の類似遺構の系統的整理

系統的な遺構の対象は次の5点とする。

- ・玉川上水素掘り水路（国史跡）
- ・水路際の 自然生態系
- ・玉川上水分水改正と分水口
- ・玉川上水水番所、水衛所
- ・玉川上水通船遺構

なお、水車についても候補として挙げられたが、現段階では体系的な整理が難しいことから系統的な遺構の対象からは除外した。

②重要の追加

重要遺構として次の7点を追加した。

（本線関連）

- ・玉川上水導水管（濠池管）遺構
- ・河港 隅田川との合流点

(分水関連)

- ・普濟寺の洗場遺構
- ・旧名主門と柴崎分水遺構
- ・平林寺と平林寺堀遺構
- ・新河岸川いろは樋遺構
- ・上野動物公園内水路遺構

③今回選定から見送るべき遺構

- ・塩硝蔵地跡（本線：玉川上水との関連が不明）
- ・旧タマグルマ（玉車）（砂川分水：個人宅で立入りが好ましくないため）
- ・万年橋のケヤキ（野火止用水：2本のケヤキの合体木であるため）
- ・仙川堤桜楓植樹碑（千川上水：桜は現存せず碑だけであるため）
- ・大砲砲身切削用錐台（千川上水：現時点では錐台と確認するのが困難なため）い
- ・湯島聖堂（千川上水：取りれ口が確認できないため）
- ・海軍技術試験用貯水池（立ち入りが禁止されているため）

(3) 関連遺構 100 選の選定

「第1次市民が選ぶ玉川上水・分水網関連遺構」を基本として追加、選定を見送る遺構を整理し、全遺構について選定委員（4名）により最終的な選定の可否について検討した。

検討は、市民による重要遺構としての妥当性、選定委員の判断の妥当性を検証するために、市民による推挙遺構1点、選定委員による推挙遺構を各1点とし、最終的に2点以上の遺構を100選として選定することとした。

この100選検討表は表3-1～6に示すとおりである。

検討の結果は100表3-7、8のように整理される。

区間区分	行政区	番号	分類	遺構名称	市民 評価	選考委 員評価	100選 番号	摘要
T.全区間	全区間	1	10. 碑・文献	T5 玉川上水測量図 国分寺市用水路図				
	全区間	①	1. 水路構造	玉川上水素掘り水路	○	◎	1	
	全区間	②	9. 自然環境	水路際の自然生態系	○	◎	2	
	全区間	③	2. 水利施設	玉川上水分水改正と分水口遺構	○	◎	3	
	全区間	④	5. 水路管理	玉川上水水番所・水衛所跡	○	◎	4	
I 玉川上水上流 (羽村堰-小平監視所)	全区間	⑤	2. 水利施設	玉川上水通船遺構	○	◎	5	
	羽村市	2	2. 水利施設	羽村の堰	○	◎	6	
	福生市	3	1. 水路構造	開削工事跡(水喰土)	○	◎	7	4. を含めて評価
	福生市	4	1. 水路構造	玉川上水旧堀跡				
	福生市	5	8. 水辺利用	福生の玉川上水遊歩道				
	福生市	6	7. 街道橋梁	日光橋(レンガアーチ)	○	◎	8	
	昭島市	7	6. 水道施設	拝島原水補給口				
	昭島市	8	1. 水路構造	玉川上水蓋掛区間				
	立川市	9	2. 水利施設	旧南野中新田分水口記念碑				
	立川市	10	2. 水利施設	旧砂川分水取り入れ口跡				③に含む
	立川市	11	1. 水路構造	旧残堀川開削	○	◎	9	
	昭島市	12	1. 水路構造	玉川上水残堀川伏越	○			
	小金井市	13	9. 自然環境	見影橋付近の桜並木		○		
	立川市	14	1. 水路構造	古残堀川の廢川跡				15に含む
	立川市	15	9. 自然環境	古残堀川交差付近築堤大曲	○	◎	10	
	立川市	16	1. 水路構造	玉川上水通船と巴河岸		◎	11	⑤の具体的事例として
	立川市	17	8. 水辺利用	金比羅山	○	◎	12	
	立川市	18	6. 水路管理	砂川水衛所跡	○			④に含む
	立川市	19	9. 自然環境	玉川上水沿野草群生地		○		②に含む
II 玉川上水中流 (小平監視所~浅間橋)	小平市	20	6. 水道施設	小平監視所	○	◎	13	
	小平市	21	10. 碑・文献	清流復活碑	○		14	
	小平市	22	8. 水辺利用	上水小橋		◎		21を含む
	小平市	23	7. 街道橋梁	小川橋と石橋供養塔	○	◎	15	
	小平市	24	2. 水利施設	久右衛門橋・船溜跡	○	○		⑤に含む
	小平市	25	7. 街道橋梁	鎌倉橋				
	小平市	26	5. 水路管理	旧小川水衛所跡	○	◎		⑤に含む
	小平市	27	10. 碑・文献	名勝小金井桜境界石				
	小平市	28	9. 自然環境	野草観察ゾーン	○	○		②に含む
	小平市	29	7. 街道橋梁	喜平橋				
	小平市	30	7. 街道橋梁	貫井橋				
	小平市	31	10. 碑・文献	小金井桜樹碑				34に含む
	小平市	32	10. 碑・文献	名勝小金井桜碑		○		34に含む
	小平市	33	10. 碑・文献	行幸の松				
	小平市	34	9. 自然環境	名勝小金井サクラ	○	◎	16	
	小平市	35	7. 街道橋梁	小金井橋	○	◎	17	
	小平市	36	1. 水路構造	玉川上水素掘り水路				①に移動
	武蔵野市	37	5. 水路管理	境水衛所跡	○			④に含む
	武蔵野市	38	9. 自然環境	独歩の森	○	◎	18	
	武蔵野市	39	6. 水道施設	水道局境浄水場				
	武蔵野市	40	8. 水辺利用	西久保公園				
	武蔵野市	41	8. 水辺利用	野鳥の森公園		○		
	武蔵野市三鷹市	42	7. 街道橋梁	JR三鷹駅交差部	○	○	19	
	武蔵野市	43	10. 碑・文献	玉川上水護岸お犬むすびの松				45に含む
	武蔵野市三鷹市	44	4. 池泉利用	都立井の頭恩賜公園	○	◎	20	
	三鷹市	45	8. 水辺利用	風の散歩道等	○	○	21	45を含む
	三鷹市	46	1. 水路構造	神田川助水路				
	三鷹市	47	8. 水辺利用	小島の森	○			49に含む
	三鷹市	48	2. 水利施設	牟礼分水取り入れ口	○			③に含む
三鷹市	49	8. 水辺利用	玉川上水緑道・牟礼地区				55に含む	

凡例 市民が選んだ 100 選 選考委員の追加選考 100 選

○ 一人の選考

◎ 2人以上の選考 (2人以上で100選)

表3-1 第1次市民が選ぶ玉川上水・分水網関連遺構100選の評価・本線(1)

II 玉川上水中流	三鷹市	50	7. 街道橋梁	若草橋					
	三鷹市	51	1. 水路構造	傾斜面を利用した開削					
	三鷹市	52	7. 街道橋梁	東橋					
	三鷹市	53	9. 自然環境	御殿山の雑木林					
	三鷹市	54	8. 水辺利用	井の頭公園西園					
	三鷹市杉並区	55	9. 自然環境	玉川上水緑道・溪谷・農業	○	◎	22		
	三鷹市杉並区	56	7. 街道橋梁	牟礼橋・人見街道	○	◎	23		
	三鷹市杉並区	57	9. 自然環境	牟礼橋大ケヤキと庚申塔	○			56に含む	
	杉並区	58	10. 碑・文献	水難者慰霊碑	○	○	24	中流部4点の慰霊碑	
	杉並区	59	8. 水辺利用	岩通ガーデン					
III. 玉川上水下流 (浅間橋-四谷大木戸・四谷見附・外濠)	杉並区	60	10. 碑・文献	高井戸堤碑	○				
	杉並区	61	10. 碑・文献	玉川上水変遷碑				No.60~No.70第9回玉川上水ルーフォーカイトから抜粋	
	杉並区	62	8. 水辺利用	玉川上水第2公園	○	○	25	60, 61を含む	
	杉並区	63	7. 水道施設	荒玉水道・道路横断					
	杉並区	64	7. 街道橋梁	下高井戸橋					
	杉並区	65	8. 水辺利用	永泉寺緑地					
	杉並区	66	8. 水辺利用	塩硝蔵地跡	○	△		玉川上水との関連が薄い	
	杉並区	67	10. 碑・文献	井の頭街道碑					
	杉並区	68	6. 水道施設	新水路跡と水道道路	○	◎	26		
	杉並区	69	6. 水道施設	和泉水圧調整所	○				
	杉並区	70	6. 水道施設	和田堀給水所		○		68に含む	
	杉並区	71	3. 街道橋梁	玉川上水と井の頭線との交差		○			
	渋谷区	72	1. 水路構造	代田橋～笹塚橋開渠区間	○	○	27		
	渋谷区	73	7. 街道橋梁	笹塚橋					
	渋谷区	74	9. 自然環境	篝銀杏		○			
	渋谷区	75	10. 碑・文献	玉川上水のモニュメント					
	渋谷区	76	6. 水道施設	淀橋浄水場跡	○	◎	28		
	渋谷区	77	10. 碑・文献	旭橋の石柱と下水道の石碑					
	S.外濠	新宿区	78	8. 水辺利用	新宿御苑 内藤新宿分水散策道	○	○	29	
		新宿区	79	10. 碑・文献	水道碑記	○	◎	30	東京都史跡
新宿区		80	2. 水利施設	余水吐バルブ	○	◎	31	81, 82を統合	
新宿区		81	1. 水路構造	余水(渋谷川)暗渠	○				
新宿区		82	10. 碑・文献	鉛筆の碑	○				
新宿区		⑥	1. 水路構造	玉川上水導水管(濠池管)遺構		◎	33	四谷大木戸-四谷見附間	
新宿区		83	4. 池泉利用	荒木町・策の池	○				
新宿区		84	10. 碑・文献	湯屋横丁と石切り横丁	○				
新宿区		85	2. 水利施設	四谷市中配管地と御門掛樋	○	◎	32		
新宿区		86	7. 街道橋梁	新四ツ谷見附橋					
N.日本橋川	港・千代田区	87	1. 水路構造	溜池と弁慶濠	○	◎	36	国史跡	
	新宿・千代田区	88	1. 水路構造	真田壕	○	◎	35	国史跡	
	港区	89	8. 水辺利用	玉川稲荷					
	港区	90	1. 水路構造	大下水跡					
	千代田区	91	2. 水利施設	清水谷公園 石柵	○	◎	34		
	新宿・千代田区	92	1. 水路構造	市ヶ谷濠・新見附濠・牛込壕	○	◎	37	国史跡	
	新宿・千代田区	93	8. 水辺利用	外濠公園		○		92に含む	
	新宿・千代田区	94	1. 水路構造	外濠の神田川出口	○	◎	38		
	新宿・ち用だく	⑦	1. 水路構造	神田川と日本橋川分派		◎	39		
	千代田区	95	7. 街道橋梁	常盤橋門跡と常磐橋	○	◎	40		
N.日本橋川	千代田区	96	1. 水路構造	江戸城石垣	○			95に含む	
	中央区	97	8. 水辺利用	日本橋川と魚河岸跡	○	◎	41		
	中央区	98	7. 街道橋梁	日本橋と日本国道路元標	○	◎	42		
	中央区	99	8. 水辺利用	日本橋ほとりの野村證券本館					
	中央区	100	8. 水辺利用	兜橋と日本証券取引所					
中央区	⑦	8. 水辺利用	河港 隅田川との合流点		◎	43	選考委員会推薦		

表3-2 第1次市民が選ぶ玉川上水・分水網100選関連遺構100選の評価・本線(2)

分水	行政区	No.	分類	分水関連遺構	市民 設備	選考委 員設備	100選 番号	備考	
1. 福生分水	福生市	1	2. 水利施設	取水口と田村酒造	○	◎	44	国登録文化財	
	福生市	2	2. 水利施設	設楽分水取入口		○		本線③に含む	
2. 熊川分水	福生市	3	2. 水利施設	熊川分水取入口		◎		本線③に含む	
	福生市	4	4. 池泉利用	森田家別荘跡の池泉(幸楽園)	○	○	45		
	福生市	5	2. 水利施設	熊川分水と小川酒造	○	◎	46	国登録文化財	
3. 拝島分水	昭島市	6	2. 水利施設	拝島分水取水口		◎		本線③に含む	
	昭島市	7	7. 街道橋梁	拝島分水と拝島宿		◎	47		
4. 殿ヶ谷分水	昭島市	8	8. 水辺利用	殿ヶ谷分水取入口と緑道					
	昭島市	9	10. 碑・文献	殿ヶ谷分水記念碑と開渠	○	◎	48		
	昭島市	10	1. 水路構造	殿ヶ谷分水開渠区間		○			
5. 柴崎分水	昭島市	11	2. 水利施設	柴崎分水取水口				本線③に含む	
	立川市	12	2. 水利施設	ハラックルマ(中島水車跡)	○	○	49		
	立川市	13	1. 水路構造	柴崎分水伏せ越し					
	立川市	14	1. 水路構造	中央線掛樋	○	◎	50		
	立川市	⑧	2. 水利施設	旧名家門と柴崎分水		△		水路は埋め立て	
	立川市	⑨	2. 水利施設	普濟寺の洗場		◎	51		
6. 砂川用水系 ①砂川分水	立川市	15	3. 新田開発	廻り水路と水田	○	○	52		
	立川市	16	2. 水利施設	砂川分水取水口		◎		本線③に含む	
	立川市	17	3. 新田開発	旧田用水(田堀)跡	○	◎	53		
	立川市	18	3. 新田開発	南側田用水					
	立川市	19	3. 新田開発	北側田用水					
	立川市	20	3. 新田開発	下南側用水					
	立川市	21	3. 新田開発	下北側用水					
	立川市	22	2. 水利施設	甲武線への用水供給					
	立川市	23	7. 街道橋梁	残堀川の田堀橋					
	立川市	24	1. 水路構造	砂川用水掛樋					
	立川市	25	2. 水利施設	旧タマグルマ(玉車)		◎		個人宅立ち入りが難しい	
	立川市	26	1. 水路構造	開渠の砂川用水	○	◎	54		
	②源五右衛門分水	立川市	27	2. 水利施設	源五右衛門分水遺構群	○	◎	55	28, 29, 30を含む
		立川市	28	3. 新田開発	旧砂川田んぼ				27へ
		立川市	29	2. 水利施設	旧貯水池跡		○		27へ
立川市		30	1. 水路構造	砂川用水の伏せ越し		○		27へ	
立川市		31	10. 碑・文献	玉川上水・砂川・芋窪分水の碑					
③恋ヶ窪分水	国分寺市	32	8. 水辺利用	恋ヶ窪分水復活遺構	○	◎	58		
	国分寺市	33	4. 池泉利用	姿見の池					
	国分寺市	34	4. 池泉利用	恋ヶ窪分須流末の池					
④旧野中新田用水	国分寺市	35	1. 水路構造	国分寺で唯一の流水路	○	◎	56		
	国分寺市	36	2. 水利施設	榎戸水車遺構	○	◎	57		
	国分寺市	37	10. 碑・文献	新田開発謝恩塔					
⑤中藤新田分水	国分寺市	38	1. 水路構造	胎内堀		○			
⑥小金井分水	小金井市	39	1. 水路構造	高杉水車ほっこめき(胎内堀)遺構	○	◎	59		
	小金井市	40	2. 水利施設	小金井分水門	○	◎	60		
	小金井市	41	1. 水路構造	山王窪の築樋	○	◎	61		
	小金井市	42	2. 水利施設	島崎水車	○				
⑥梶野分水	小金井市	43	1. 水路構造	梶野分水築樋	○	◎	62		
	小金井市	44	1. 水路構造	深大寺用水西堀跡					
⑦境村分水	武蔵野市	45	8. 水辺利用	花の通学路	○				
	武蔵野市	46	8. 水辺利用	武蔵野第二小学校(市民会館)					

表 3-3 第 1 次市民が選ぶ玉川上水・分水網 100 選関連遺構 100 選の評価・分水 (1)

凡例 市民が選んだ 100 選 選考委員の追加選考 100 選
○ 一人の選考 ◎ 2 人以上の選考 (2 人以上で 100 選)

⑦境村分水	武蔵野市	47	8. 水辺利用	日本獣医生命科学大学と秋元家				
	武蔵野市	48	8. 水辺利用	三浦朱門旧宅				
	武蔵野市	49	8. 水辺利用	杵築大社	○	◎	63	
8. 野火止用水(東京都)	小平市	50	2. 水利施設	野火止用水分水口	○	◎		本線③に含む
	東大和市	51	9. 自然環境	東大和・ホテルの里	○	◎	65	
	東大和市	52	9. 自然環境	野火止緑地(東大和市)	○	◎	64	
	東大和市	53	10. 碑・文献	旧陸軍少年通信兵学校正門の碑	○			
	東大和市	54	2. 水利施設	恩多野野火止水車苑	○	◎	66	
	東大和市	55	9. 自然環境	萬年橋のケヤキ	○	△		2本のケヤキ合体木のため
	東久留米市	56	9. 自然環境	野火止用水歴史保全地域(下里)		○		
	東久留米市	57	1. 水路構造	押し出しの伏せ越し		○		
8. 野火止用水(埼玉県)	東久留米市	58	9. 自然環境	野火止用水歴史保全地域(小山)		○		
	新座市	59	1. 水路構造	たかばしの伏せ越し	○	◎	68	
	新座市	60	8. 水辺利用	史跡公園	○	◎	67	
	新座市	61	8. 水辺利用	本多緑道				
	新座市	62	1. 水路構造	平林寺堀の築樋遺構				
	新座市	⑩	2. 水利利用	平林寺と平林寺堀		◎	69	
	新座市	63	9. 自然環境	西分橋ホテル養殖	○	◎	70	
	新座市	64	8. 水辺利用	野火止公園		○		
9. 小平用水系 ①新堀用水	志木市	65	2. 水利施設	慶応志木高校野火止用水跡		◎	71	
	志木市	⑪	1. 水路構造	新河岸川いろは樋跡		◎	72	
	小平市	66	1. 水路構造	新堀用水胎内堀	○	◎	73	
	小平市	67	2. 水利施設	小島水車遺構(新堀用水)	○	◎	74	
②小川分水	小平市	68	2. 水利施設	清水水車遺構(新堀用水)		◎		67に含む
	小平市	69	8. 水辺利用	木もれ日の小径	○			66に含む
	小平市	70	2. 水利施設	分岐水門群	○	◎		70に含む
	小平市	71	8. 水辺利用	小平市親水水路、緑道のネットワーク	○	◎	75	
	小平市	72	2. 水利施設	小川用水取り入れ口	○	◎		本線③に含む
	小平市	73	2. 水利施設	小川用水南北分岐門		◎		70に含む
	小平市	74	3. 新田開発	青梅街道沿小川分水・新田開発		◎	76	
	小平市	75	3. 新田開発	水路沿いの農家屋敷林・洗い場		◎	77	
	小平市	76	3. 新田開発	大けやき	○			小平市天然記念物 75に含む
	小平市	77	8. 水辺利用	彫刻の谷緑道				
③大沼田分水	小平市	78	8. 水辺利用	魁の流れ				
	小平市	79	8. 水辺利用	小川用水築樋とあじさいの小路		◎	78	
	小平市	80	1. 水路構造	築樋水路	○	◎	79	
	小平市	81	8. 水辺利用	グリーンロード親水公園				
	小平市	82	8. 水辺利用	狭山先緑道と竹の子公園				
④鈴木分水水	小平市	83	8. 水辺利用	大門橋緑道				
	小平市	84	8. 水辺利用	清風エリヤと清風公園				
⑤田無用水	小平市	85	1. 水路構造	鈴木用水掛樋	○	◎	81	86を含む
10. 千川上水(上流)	小平市	86	3. 新田開発	畑地を通る田無用水		◎	80	
	武蔵野市	87	10. 碑・文献	取水口と清流復活の碑	○	◎		88を含む
	武蔵野市	88	8. 水辺利用	千川上水遊歩道		◎	82	
	武蔵野市	89	8. 水辺利用	都立武蔵野中央公園	○			
	武蔵野市	90	7. 街道橋梁	三郡橋		○		
	武蔵野市	91	7. 街道橋梁	竹下橋		○		
	練馬区	92	3. 新田開発	千川上水路復元と農の風景	○	○	83	

表 3-4 第 1 次市民が選ぶ玉川上水・分水網 100 選関連遺構 100 選の評価・分水 (2)

10. 千川上水 (上流)	練馬区	93	2. 水利施設	6ヶ村分水の分岐点伊勢殿橋跡				
	練馬区	94	1. 水路構造	千川上水と西武線交差				
	練馬区	95	1. 水路構造	上石神井南の築樋				
10. 千川上水 (上流)	練馬区	96	10. 碑・文献	仙川堤桜楓植樹碑			△	碑だけが残る
	練馬区	97	8. 水辺利用	中新井分水跡(濯川)	○	○	84	
	練馬区	98	5. 水路管理	水番所跡				
	練馬区	99	1. 水路構造	千早の築樋				
	板橋区	100	10. 碑・文献	境石2基	○			
	板橋区	101	5. 水路管理	水神祠とあくたどめ	○	○	85	
	板橋区	102	2. 水利施設	千川上水水車跡				
	板橋区	103	1. 水路構造	石神井川への悪水吐				
	板橋区	104	2. 水利施設	陸軍火薬製造所分水口跡		◎	86	要 名称変更
	北区	105	10. 碑・文献	千川上水分配堰碑	○	◎	87	
	北区	106	2. 水利施設	大砲砲身切削用錐台	○	◎		錐台については要検討
北区	107	2. 水利施設	旧醸造試験場建物		◎	88	106とあわせ調整	
北区	108	1. 水路構造	千川上水暗渠のマノホール		○			
北区	109	10. 碑・文献	製糸業発祥の地石碑					
10. 千川上水 (下流)	豊島区	110	2. 水利施設	千川上水公園(分配堰沈砂池)	○	◎	89	
	文京区	111	4. 池泉利用	六義園	○	◎	91	国名勝
	文京区	112	4. 池泉利用	小石川植物園	○	◎	90	
	文京区	113	4. 池泉利用	湯島聖堂		△		流入口が不明
台東区	114	1. 水路構造	上野動物園内水利遺構		◎	92	園内改修時に発掘	
11. 品川用水	武蔵野市	114	2. 水利施設	品川用水分水口遺構				本線③に含む
	三鷹市	115	1. 水路構造	開水路遺構	○	○	93	仙川用水の可能性
	世田谷区	116	1. 水路構造	丘陵を開削した玉石積		○		
	世田谷区	117	2. 水利施設	野澤の大水車遺構		◎	94	
	品川区	118	4. 池泉利用	戸越公園の泉水	○	◎	95	
	品川区	119	4. 池泉利用	豊葉の杜学園と品川用水				
	品川区	120	7. 街道橋梁	古戸越橋				
	品川区	121	10. 碑・文献	上蛇窪用水「記念の碑」				
	品川区	122	7. 街道橋梁	庚塚橋(親柱)				
	品川区	123	10. 碑・文献	恵澤潤治の碑				
12. 牟礼分水	三鷹市	124	2. 水利施設	牟礼分水 取水口		○		本線③に含む
	世田谷区	125	8. 水辺利用	中川遊歩道		○		
13. 三田用水	世田谷区	126	2. 水利施設	三田用水取水口跡		○		本線③に含む
	渋谷区	127	7. 街道橋梁	東大研究所正門前橋の欄干				
	目黒区	128	1. 水路構造	嵩上げされた流路跡	○	◎	96	
	目黒区	129	4. 池泉利用	西郷橋と菅刈公園の池				
	港区	130	4. 池泉利用	旧朝倉家住宅の水路跡		◎	97	住宅: 国文化財
	港区	131	2. 水利施設	海軍技術研究所実験用貯水池		△		立ち入り不可
	港区	132	10. 碑・文献	茶屋坂隧道の看板				
	港区	133	2. 水利施設	ビール工場の貯水池		○		
	港区	134	10. 碑・文献	三田用水の碑				
	港区	135	7. 街道橋梁	今里橋の欄干と水路跡				
港区	136	1. 水路構造	三田用水導堤遺構	○	◎	98		
港区	137	4. 池泉利用	八芳園の池					
港区	138	4. 池泉利用	鍋島松濤公園の池と水車		◎	99		
14. 幡谷分水	新宿区	139	1. 水路構造	幡谷分水跡				
15. 神田川助水	新宿区	140	1. 水路構造	神田川への助水堀跡	○	◎	100	

表 3-5 第1次市民が選ぶ玉川上水・分水網 100 選関連遺構の評価・分水 (3)

区分	区間	行政区	No.	分類	遺構名称	摘要
本線	T.全区間	全区間	1	1. 水路構造	玉川上水素掘り水路	
		全区間	2	9. 自然環境	水路際の自然生態系	
		全区間	3	2. 水利施設	玉川上水分水改正と分水口遺構	
		全区間	4	5. 水路管理	玉川上水水番所・水衛所跡	
		全区間	5	2. 水利施設	玉川上水通船遺構	
	I 玉川上水上流 (羽村堰-小平監視所)	羽村市	6	2. 水利施設	羽村の堰	
		福生市	7	1. 水路構造	開削工事跡(水喰土)	
		福生市	8	7. 街道橋梁	日光橋(レンガアーチ)	
		立川市	9	1. 水路構造	旧残堀川開削	
		立川市	10	9. 自然環境	古残堀川交差付近築堤大曲	
		立川市	11	1. 水路構造	玉川上水通船と巴河岸	
		立川市	12	8. 水辺利用	金比羅山	
	II 玉川上水中流 (小平監視所～浅間橋)	小平市	13	6. 水道施設	小平監視所	
		小平市	14	10. 碑・文献	清流復活碑上水小橋	
		小平市	15	7. 街道橋梁	小川橋と石橋供養塔	
		小平市	16	9. 自然環境	名勝小金井サクラ	
		小平市	17	7. 街道橋梁	小金井橋	
		武蔵野市	18	9. 自然環境	独歩の森	
		武蔵野市三鷹市	19	7. 街道橋梁	JR三鷹駅交差部	
		武蔵野市三鷹市	20	4. 池泉利用	都立井の頭恩賜公園	
		三鷹市	21	8. 水辺利用	風の散歩道等	
		三鷹市杉並区	22	9. 自然環境	玉川上水緑道・渓谷・農業	
		三鷹市杉並区	23	7. 街道橋梁	牟礼橋・人見街道	
	杉並区	24	10. 碑・文献	水難者慰霊碑		
	III. 玉川上水下流 (浅間橋-四谷大木戸・四谷見附・外濠)	杉並区	25	8. 水辺利用	玉川上水第2公園	
		杉並区	26	6. 水道施設	新水路跡と水道道路	
		渋谷区	27	1. 水路構造	代田橋～笹塚橋開渠区間	
		渋谷区	28	6. 水道施設	淀橋浄水場跡	
		新宿区	29	8. 水辺利用	新宿御苑 内藤新宿分水散策道	
		新宿区	30	10. 碑・文献	水道碑記	
		新宿区	31	2. 水利施設	余水吐バルブ	
		新宿区	32	2. 水利施設	四谷市中配管地と御門掛樋	
		新宿区	33	1. 水路構造	玉川上水導水管(濠池管)遺構	
		千代田区	34	2. 水利施設	清水谷公園 石枡	
		新宿・千代田区	35	1. 水路構造	真田壕	
	IV外濠	港・千代田区	36	1. 水路構造	溜池と弁慶濠	
		新宿・千代田区	37	1. 水路構造	市ヶ谷濠・新見附濠・牛込壕	
		新宿・千代田区	38	1. 水路構造	外濠の神田川出口	
		新宿・千代田区	39	1. 水路構造	神田川と日本橋川分派	
		千代田区	40	7. 街道橋梁	常盤橋門跡と常盤橋	
	V.日本橋川	中央区	41	8. 水辺利用	日本橋川と魚河岸跡	
		中央区	42	7. 街道橋梁	日本橋と日本国道路元標	
		中央区	43	8. 水辺利用	河港 隅田川との合流点	

表3-6 市民が選ぶ玉川上水・分水網関連遺構100選(本線)

区分	分水	行政区	No.	分類	分水関連遺構	備考
1. 上流分水	1. 福生分水	福生市	44	2. 水利施設	取水口と田村酒造	
	2. 熊川分水	福生市	45	4. 池泉利用	森田家別荘跡の池泉(幸楽園)	
		福生市	46	2. 水利施設	熊川分水と小川酒造	
	3. 拝島分水	昭島市	47	7. 街道橋梁	拝島分水と拝島宿	
	4. 殿ヶ谷分水	昭島市	48	10. 碑・文献	殿ヶ谷分水記念碑と開渠	
	5. 柴崎分水	立川市	49	2. 水利施設	ハラックルマ(中島水車跡)	
		立川市	50	1. 水路構造	中央線掛樋	
		立川市	51	2. 水利施設	普濟寺の洗場	
		立川市	52	3. 新田開発	廻り水路と水田	
	2. 砂川用水系	①砂川分水	立川市	53	3. 新田開発	旧田用水(田堀)跡
立川市			54	1. 水路構造	開渠の砂川用水	
②源五右衛門分水		立川市	55	2. 水利施設	源五右衛門分水遺構群	
③恋ヶ窪分水		国分寺市	58	8. 水辺利用	恋ヶ窪分水復活遺構	
④旧野中新田用水		国分寺市	56	1. 水路構造	国分寺で唯一の流水路	
		国分寺市	57	2. 水利施設	榎戸水車遺構	
⑥小金井分水		小金井市	59	1. 水路構造	高杉水車ほっこめき(胎内堀)遺構	
		小金井市	60	2. 水利施設	小金井分水門	
	小金井市	61	1. 水路構造	山王窪の築樋		
⑥梶野分水	小金井市	62	1. 水路構造	梶野分水築樋		
⑦境村分水	武蔵野市	63	8. 水辺利用	杵築大社		
3. 野火止用水	①東京区間	東大和市	64	9. 自然環境	野火止緑地(東大和市)	
		東大和市	65	9. 自然環境	東大和・ホテルの里	
		東大和市	66	2. 水利施設	恩多野野火止水車苑	
	②埼玉区間	新座市	67	8. 水辺利用	史跡公園	
		新座市	68	1. 水路構造	たかばしの伏せ越し	
		新座市	69	2. 水利利用	平林寺と平林寺堀	
		新座市	70	9. 自然環境	西分橋ホテル養殖	
		志木市	71	2. 水利施設	慶応志木高校野火止用水跡	
志木市	72	1. 水路構造	新河岸川いろは樋跡			
4. 小平用水系	①新堀用水	小平市	73	1. 水路構造	新堀用水胎内堀	
		小平市	74	2. 水利施設	小島水車遺構(新堀用水)	
	②小川分水	小平市	75	8. 水辺利用	小平市親水水路、緑道のネットワーク	
		小平市	76	3. 新田開発	青梅街道沿小川分水・新田開発	
		小平市	77	3. 新田開発	水路沿いの農家屋敷林・洗い場	
		小平市	78	8. 水辺利用	小川用水築樋とあじさいの小路	
	③大沼田分水	小平市	79	1. 水路構造	筑樋水路	
	④鈴木分水	小平市	81	1. 水路構造	鈴木用水掛樋	
⑤田無用水	小平市	80	3. 新田開発	畑地を通る田無用水		
5. 千川上水	①上流	武蔵野市	82	8. 水辺利用	千川上水遊歩道	
		練馬区	83	3. 新田開発	千川上水路復元と農の風景	
	①上流	練馬区	84	8. 水辺利用	中新井分水跡(濯川)	
		板橋区	85	5. 水路管理	水神祠とあくたどめ	
		板橋区	86	2. 水利施設	陸軍火薬製造所分水口跡	
		北区	87	10. 碑・文献	千川上水分配堰碑	
		北区	88	2. 水利施設	旧醸造試験場建物	
	②下流	豊島区	89	2. 水利施設	千川上水公園(分配堰沈砂池)	
		文京区	91	4. 池泉利用	六義園	
		文京区	90	4. 池泉利用	小石川植物園	
台東区		92	1. 水路構造	上野動物園内水利遺構		
6. 品川用水	三鷹市	93	1. 水路構造	開水路遺構		
	世田谷区	94	2. 水利施設	野澤の大水車遺構		
	品川区	95	4. 池泉利用	戸越公園の泉水		
7. 三田用水	目黒区	96	1. 水路構造	嵩上げされた流路跡		
	港区	97	4. 池泉利用	旧朝倉家住宅の水路跡		
	港区	98	1. 水路構造	三田用水導堤遺構		
	港区	99	4. 池泉利用	鍋島松濤公園の池と水車		
8. 神田川助水	新宿区	100	1. 水路構造	神田川への助水堀跡		

表 3-7 市民が選ぶ玉川上水・分水網関連遺構 100 選 (分水)

第4章 100選定遺構の特徴

(1)100選遺構の評価

100選遺構の選定評価、表4-1に示す通りである。

全体の約50%は4、5点で占められており、評価がほぼ一致していることが特徴となっている。

また、特に市民団体、各委員の先生方の評価がすべて一致している5点の遺構は本線9件、分水8件の計17件あり、玉川上水・分水網の代表的な遺構として評価される(表4-2参照)。

点数	本線関連遺構	分水関連遺構	合計
5	9	8	17
4	14	20	34
3	8	8	16
2	12	21	33
計	43	57	100

表4-1 100選の点数内訳

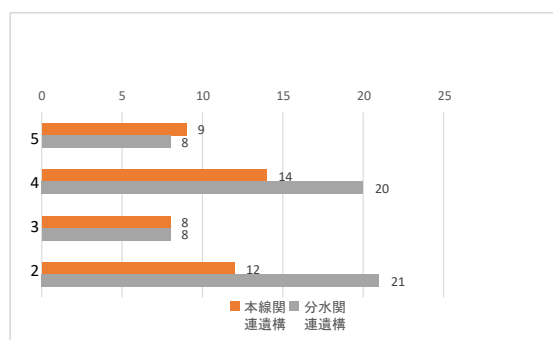


図4-1 100選の点数内訳

区分	100選番号	分類	100選名称
本線	3	2. 水利施設	玉川上水分水改正と分水口遺構
	6	2. 水利施設	羽村の堰
	7	1. 水路構造	開削工事跡(水喰土)
	9	1. 水路構造	旧残堀川開削
	10	9. 自然環境	古残堀川交差付近築堤大曲
	12	8. 水辺利用	金比羅山
	15	7. 街道橋梁	小川橋と石橋供養塔
	23	7. 街道橋梁	牟礼橋・人見街道
28	6. 水道施設	淀橋浄水場跡	
分水	58	8. 水辺利用	恋ヶ窪分水復活遺構
	56	1. 水路構造	国分寺で唯一の流水路
	57	2. 水利施設	榎戸水車遺構
	69	2. 水利利用	平林寺と平林寺堀
	75	8. 水辺利用	小平市親水水路, 緑道のネットワーク
	79	1. 水路構造	大沼田分水築樋水路
	81	1. 水路構造	鈴木用水掛樋
	98	1. 水路構造	三田用水導堤遺構

表4-2 評価が5点の関連遺構

総合 点数	本線100選関連遺構の評価			分水関連100選遺構の評価		
	100選 番号	分類	100選名称	100選 番号	分類	分水関連遺構
5	3	2. 水利施設	玉川上水分水改正と分水口遺構	58	8. 水辺利用	恋ヶ窪分水復活遺構
	6	2. 水利施設	羽村の堰	56	1. 水路構造	国分寺で唯一の流水路
	7	1. 水路構造	開削工事跡(水喰土)	57	2. 水利施設	榎戸水車遺構
	9	1. 水路構造	旧残堀川開削	69	2. 水利利用	平林寺と平林寺堀
	10	9. 自然環境	古残堀川交差付近築堤大曲	75	8. 水辺利用	小平市親水水路、緑道のネットワーク
	12	8. 水辺利用	金比羅山	79	1. 水路構造	大沼田分水築樋水路
	15	7. 街道橋梁	小川橋と石橋供養塔	81	1. 水路構造	鈴木用水掛樋
	23	7. 街道橋梁	牟礼橋・人見街道	98	1. 水路構造	三田用水導堤遺構
28	6. 水道施設	淀橋浄水場跡				
4	2	9. 自然環境	水路際の自然生態系	44	2. 水利施設	取水口と田村酒造
	4	5. 水路管理	玉川上水水番所・水衛所跡	46	2. 水利施設	熊川分水と小川酒造
	8	7. 街道橋梁	日光橋(レンガアーチ)	54	1. 水路構造	開渠の砂川用水
	13	6. 水道施設	小平監視所	55	2. 水利施設	源五右衛門分水遺構群
	16	9. 自然環境	名勝小金井サクラ	59	1. 水路構造	高杉水車ほっこめぎ(胎内堀)遺構
	17	7. 街道橋梁	小金井橋	68	1. 水路構造	たかばしの伏せ越し
	18	9. 自然環境	独歩の森	67	8. 水辺利用	史跡公園
	20	4. 池泉利用	都立井の頭恩賜公園	72	1. 水路構造	新河岸川いろは樋跡
	22	9. 自然環境	玉川上水緑道・渓谷・農業	73	1. 水路構造	新堀用水胎内堀
	26	6. 水道施設	新水路跡と水道道路	74	2. 水利施設	小島水車遺構(新堀用水)
	30	10. 碑・文献	水道碑記	76	3. 新田開発	青梅街道沿小川分水・新田開発
	31	2. 水利施設	渋谷川・水とワ余水吐とバルブ	77	3. 新田開発	水路沿いの農家屋敷林・洗い場
	32	2. 水利施設	四谷市中配管地と御門掛樋	78	8. 水辺利用	小川用水築樋とあじさいの小路
	33	1. 水路構造	玉川上水導水管(濠池管)遺構	80	3. 新田開発	畑地を通る田無用水
				87	10. 碑・文献	千川上水分配堰碑
				88	2. 水利施設	旧醸造試験場建物
			89	2. 水利施設	千川上水公園(分配堰沈砂池)	
			91	4. 池泉利用	六義園	
			90	4. 池泉利用	小石川植物園	
			92	1. 水路構造	上野動物園内水利遺構	
3	5	2. 水利施設	玉川上水通船遺構	50	1. 水路構造	中央線掛樋
	34	2. 水利施設	清水谷公園 石橋	62	1. 水路構造	梶野分水築樋
	37	1. 水路構造	市ヶ谷濠・新見附濠・牛込濠	63	8. 水辺利用	杵築大社
	38	1. 水路構造	外濠の神田川出口	64	9. 自然環境	野火止緑地(東大和市)
	39	1. 水路構造	神田川と日本橋川分派	82	8. 水辺利用	千川上水遊歩道
	40	7. 街道橋梁	常盤橋門跡と常盤橋	83	3. 新田開発	千川上水路復元と農の風景
	41	8. 水辺利用	日本橋川と魚河岸跡	95	4. 池泉利用	戸越公園の泉水
	43	8. 水辺利用	河港 隅田川との合流点	96	1. 水路構造	高上げされた流路跡
2	1	1. 水路構造	玉川上水素掘り水路	45	4. 池泉利用	森田家別荘跡の池泉(幸楽園)
	11	100選	玉川上水通船と巴河岸	47	7. 街道橋梁	拜島分水と拜島宿
	14	10. 碑・文献	清流復活碑と上水小橋	48	10. 碑・文献	殿ヶ谷分水記念碑と開渠
	19	7. 街道橋梁	JR三鷹駅交差部	49	2. 水利施設	ハラツクルマ(中島水車跡)
	21	8. 水辺利用	風の散歩道等	51	2. 水利施設	普濟寺の洗場
	24	10. 碑・文献	水難者慰霊碑	52	3. 新田開発	廻り水路と水田
	25	8. 水辺利用	玉川上水第2公園	53	3. 新田開発	旧田用水(田堀)跡
	27	1. 水路構造	代田橋～笹塚橋開渠区間	60	2. 水利施設	小金井分水門
	29	8. 水辺利用	新宿御苑 内藤新宿分水散策道	61	1. 水路構造	山王窪の築樋
	35	1. 水路構造	真田塚	65	9. 自然環境	東大和・ホテルの里
	36	1. 水路構造	溜池と弁慶濠	66	2. 水利施設	恩多野野火止水車苑
	42	7. 街道橋梁	日本橋と日本国道路元標	70	9. 自然環境	西分橋ホテル養殖
				71	2. 水利施設	慶応志木高枝野火止用水跡
				84	8. 水辺利用	中新井分水跡(濯川)
				85	5. 水路管理	水神祠とあくたどめ
				86	2. 水利施設	陸軍火薬製造所分水口跡
			93	1. 水路構造	品川用水開水路遺構	
			94	2. 水利施設	野澤の大水車遺構	
			97	4. 池泉利用	旧朝倉家住宅の水路跡	
			99	4. 池泉利用	鍋島松濤公園の池と水車	
			100	1. 水路構造	神田川への助水堀跡	

表 4-1 100 選の評価

(2) 100 遺構の種別

100 選遺構を本線・分水に分けて種別を見ると、本線では水路構造が 23%と最も多く、分水については水路構造が 28%が最も多いが、水利施設も 26%と次いでいることが特徴となっている。本線・分水の差違については、分水で新田開発・池泉利用が 11%ずつ占めているのに対し、本線では2%と少ない。また、逆に街道橋梁に関しては本線 16%に対し分水は 2%に過ぎない。

こうした、本線・分水の種別の違いは、本線では幅の広い水路・河川と周辺の地域との関連で遺構がとらえられてるのに対し、分水では新田開発や池泉利用のように地域での水利に係る遺構が多いことを示している。

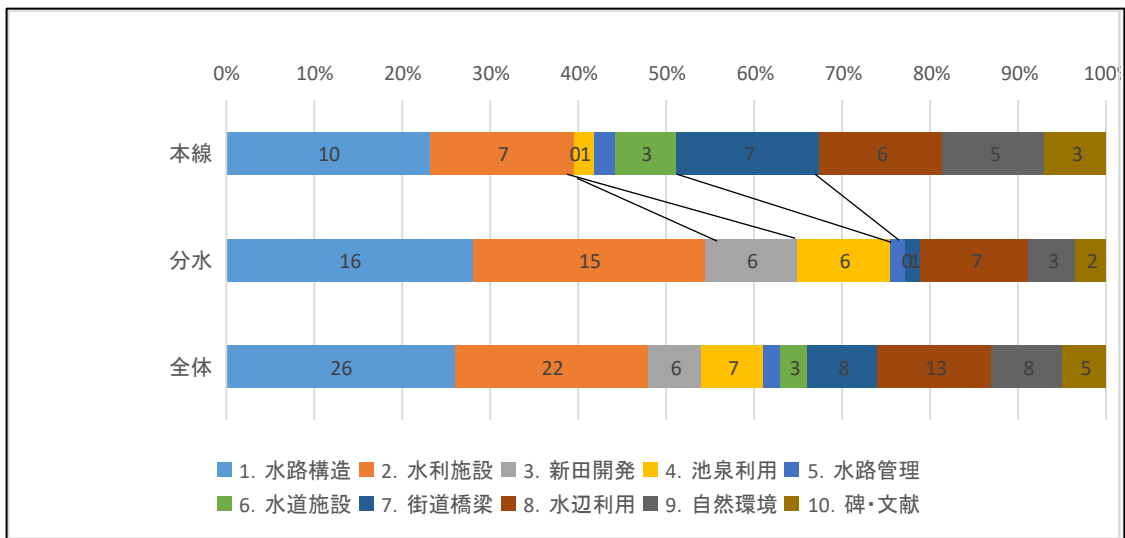


図 4-2 関連遺構 100 選の種別構成

区分	分類	1. 水路構造	2. 水利施設	3. 新田開発	4. 池泉利用	5. 水路管理	6. 水道施設	7. 街道橋梁	8. 水辺利用	9. 自然環境	10. 碑・文献	計
本線	点数	10	7	0	1	1	3	7	6	5	3	43
	構成比	23%	16%	0%	2%	2%	7%	16%	14%	12%	7%	100%
分水	点数	16	15	6	6	1	0	1	7	3	2	57
	構成比	28%	26%	11%	11%	2%	0%	2%	12%	5%	4%	100%
計	点数	26	22	6	7	2	3	8	13	8	5	100
	構成比	26%	22%	6%	7%	2%	3%	8%	13%	8%	5%	100%

表 4-3 100 選の種別

(3) 100選遺構の区間・水系別分布

関連遺構 100 選の分布を玉川上水・分水網図に示すと図 4-2 となる。また、区間別・水系別の関連遺構は県酢は件数は表 4-5、6 である。この表から遺構の分布を見ると本線では、玉川上水の中流区間の砂川用水系・小平用水系の件数が多くなっている。ただし、他の区間もほぼ均等に先手されているようすが見てとれる。

また分水では、中流区間に位置する、砂川用水・野火止用水・小平用水が約 50%を占め本線、分水ともに中流区間を中心として選定されていることが分る。

これは、上流区間は現在、水道原水が流過しているため利用がある程度制限されていることこと。中流区間は開渠として残されてる区間が多くあり多、摩川からの河川水や浄化用水が流れ遺構に多くの関心が寄せられていることなどを反映していると考えられる。また下流区間にについては、本選では都市開発等とも関連して水質浄化などを含め新たな関心が寄せられていること。さらに、分水系統については多くの水路は暗渠等となったにも関わらず大名屋敷跡などの池泉の保全などと関連して現在も関心が寄せられていることを示している。

区分	区間・水系	件数
玉川上水本線	全区間	5
	I 玉川上水上流	7
	II 玉川上水中流	12
	III. 玉川上水下流	7
	外濠	7
	日本橋川	5
分水	上流分水	9
	砂川用水系	11
	野火止用水	9
	小平用水系	9
	千川上水	11
	品川用水	3
	三田用水	4
	他	1
計		100

表 4-7 区間・水系別遺構

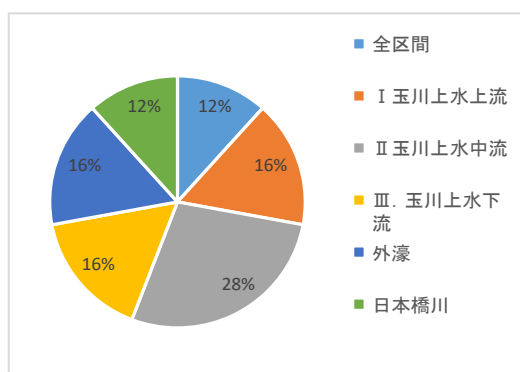


図 4-3 区間別の遺構件数 (本線)

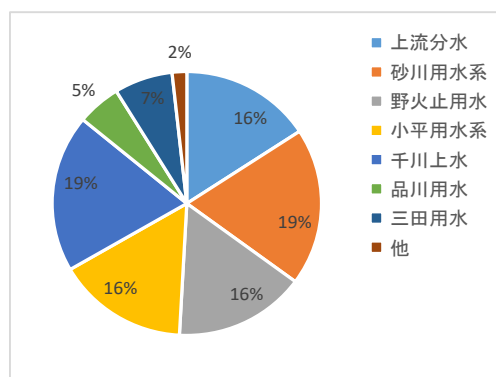


図 4-4 水系別の遺構件数 (分水)

区分	区間	行政区	No.	分類	遺構名称	摘要
本線	T.全区間	全区間	1	1. 水路構造	玉川上水素掘り水路	
		全区間	2	9. 自然環境	水路際の自然生態系	
		全区間	3	2. 水利施設	玉川上水分水改正と分水口遺構	
		全区間	4	5. 水路管理	玉川上水水番所・水衛所跡	
		全区間	5	2. 水利施設	玉川上水通船遺構	
	I 玉川上水上流 (羽村堰-小平監視所)	羽村市	6	2. 水利施設	羽村の堰	
		福生市	7	1. 水路構造	開削工事跡(水喰土)	
		福生市	8	7. 街道橋梁	日光橋(レンガアーチ)	
		立川市	9	1. 水路構造	旧残堀川開削	
		立川市	10	9. 自然環境	古残堀川交差付近築堤大曲	
		立川市	11	1. 水路構造	玉川上水通船と巴河岸	
		立川市	12	8. 水辺利用	金比羅山	
	II 玉川上水中流 (小平監視所～浅間橋)	小平市	13	6. 水道施設	小平監視所	
		小平市	14	10. 碑・文献	清流復活碑上水小橋	
		小平市	15	7. 街道橋梁	小川橋と石橋供養塔	
		小平市	16	9. 自然環境	名勝小金井サクラ	
		小平市	17	7. 街道橋梁	小金井橋	
		武蔵野市	18	9. 自然環境	独歩の森	
		武蔵野市三鷹市	19	7. 街道橋梁	JR三鷹駅交差部	
		武蔵野市三鷹市	20	4. 池泉利用	都立井の頭恩賜公園	
		三鷹市	21	8. 水辺利用	風の散歩道等	
		三鷹市杉並区	22	9. 自然環境	玉川上水緑道・渓谷・農業	
		三鷹市杉並区	23	7. 街道橋梁	牟礼橋・人見街道	
		杉並区	24	10. 碑・文献	水難者慰霊碑	
	III. 玉川上水 downstream (浅間橋-四谷大木戸・四谷見附・外濠)	杉並区	25	8. 水辺利用	玉川上水第2公園	
		杉並区	26	6. 水道施設	新水路跡と水道道路	
		渋谷区	27	1. 水路構造	代田橋～笹塚橋開渠区間	
		渋谷区	28	6. 水道施設	淀橋浄水場跡	
		新宿区	29	8. 水辺利用	新宿御苑 内藤新宿分水散策道	
		新宿区	30	10. 碑・文献	水道碑記	
		新宿区	31	2. 水利施設	余水吐バルブ	
	IV外濠	新宿区	32	2. 水利施設	四谷市中配管地と御門掛樋	
		新宿区	33	1. 水路構造	玉川上水導水管(濠池管)遺構	
		千代田区	34	2. 水利施設	清水谷公園 石枘	
		新宿・千代田区	35	1. 水路構造	真田壕	
		港・千代田区	36	1. 水路構造	溜池と弁慶濠	
		新宿・千代田区	37	1. 水路構造	市ヶ谷濠・新見附濠・牛込壕	
	V. 日本橋川	新宿・千代田区	38	1. 水路構造	外濠の神田川出口	
		新宿・千代田区	39	1. 水路構造	神田川と日本橋川分派	
		千代田区	40	7. 街道橋梁	常盤橋門跡と常磐橋	
		中央区	41	8. 水辺利用	日本橋川と魚河岸跡	
		中央区	42	7. 街道橋梁	日本橋と日本国道路元標	
		中央区	43	8. 水辺利用	河港 隅田川との合流点	

表 4-5 区間別の遺構 (本線)

分水	1. 上流分水	①福生分水	福生市	44	2. 水利施設	取水口と田村酒造	
		②熊川分水	福生市	45	4. 池泉利用	森田家別荘跡の池泉(幸楽園)	
			福生市	46	2. 水利施設	熊川分水と小川酒造	
		③拝島分水	昭島市	47	7. 街道橋梁	拝島分水と拝島宿	
		④殿ヶ谷分水	昭島市	48	10. 碑・文献	殿ヶ谷分水記念碑と開渠	
			立川市	49	2. 水利施設	ハラックルマ(中島水車跡)	
		⑤柴崎分水	立川市	50	1. 水路構造	中央線掛樋	
			立川市	51	2. 水利施設	普濟寺の洗場	
			立川市	52	3. 新田開発	廻り水路と水田	
			立川市	53	3. 新田開発	旧田用水(田堀)跡	
	2. 砂川用水	①砂川分水	立川市	54	1. 水路構造	開渠の砂川用水	
			立川市	55	2. 水利施設	源五右衛門分水遺構群	
		②源五右衛門分水	立川市	55	2. 水利施設	源五右衛門分水遺構群	
		③恋ヶ窪分水	国分寺市	58	8. 水辺利用	恋ヶ窪分水復活遺構	
		④旧野中新田用水	国分寺市	56	1. 水路構造	国分寺で唯一の流水路	
			国分寺市	57	2. 水利施設	榎戸水車遺構	
		⑥小金井分水	小金井市	59	1. 水路構造	高杉水車ほっこぬき(胎内堀)遺構	
			小金井市	60	2. 水利施設	小金井分水門	
		⑦梶野分水	小金井市	61	1. 水路構造	山王窪の築樋	
			小金井市	62	1. 水路構造	梶野分水築樋	
	⑧境村分水	武蔵野市	63	8. 水辺利用	杵築大社		
	3. 野火止用	①東京都区間	東大和市	64	9. 自然環境	野火止緑地(東大和市)	
			東大和市	65	9. 自然環境	東大和・ホテルの里	
			東大和市	66	2. 水利施設	恩多野野火止水車苑	
		②埼玉県区間	新座市	67	8. 水辺利用	史跡公園	
			新座市	68	1. 水路構造	たかばしの伏せ越し	
			新座市	69	2. 水利利用	平林寺と平林寺堀	
			新座市	70	9. 自然環境	西分橋ホテル養殖	
			志木市	71	2. 水利施設	慶応志木高校野火止用水跡	
			志木市	72	1. 水路構造	新河岸川いろは樋跡	
			志木市	73	1. 水路構造	新堀用水胎内堀	
	4. 小平用水	①新堀用水	小平市	74	2. 水利施設	小島水車遺構(新堀用水)	
			小平市	75	8. 水辺利用	小平市親水水路、緑道のネットワーク	
			小平市	76	3. 新田開発	青梅街道沿小川分水・新田開発	
		②小川分水	小平市	77	3. 新田開発	水路沿いの農家屋敷林・洗い場	
			小平市	78	8. 水辺利用	小川用水築樋とあじさいの小路	
		③大沼田分水	小平市	79	1. 水路構造	筑樋水路	
		④鈴木分水水	小平市	81	1. 水路構造	鈴木用水掛樋	
		⑤田無用水	小平市	80	3. 新田開発	畑地を通る田無用水	
		5. 千川上水	①上流区間	武蔵野市	82	8. 水辺利用	千川上水遊歩道
				練馬区	83	3. 新田開発	千川上水路復元と農の風景
	練馬区			84	8. 水辺利用	中新井分水跡(濯川)	
	板橋区			85	5. 水路管理	水神祠とあくたどめ	
	板橋区			86	2. 水利施設	陸軍火薬製造所分水口跡	
	北区			87	10. 碑・文献	千川上水分配堰碑	
	北区			88	2. 水利施設	旧醸造試験場建物	
	豊島区			89	2. 水利施設	千川上水公園(分配堰沈砂池)	
	②下流区間		文京区	91	4. 池泉利用	六義園	
			文京区	90	4. 池泉利用	小石川植物園	
	6. 品川用水	台東区	92	1. 水路構造	上野動物園内水利遺構		
		三鷹市	93	1. 水路構造	開水路遺構		
		世田谷区	94	2. 水利施設	野澤の大水車遺構		
	7. 三田用水	品川区	95	4. 池泉利用	戸越公園の泉水		
		目黒区	96	1. 水路構造	嵩上げされた流路跡		
		港区	97	4. 池泉利用	旧朝倉家住宅の水路跡		
		港区	98	1. 水路構造	三田用水導堤遺構		
		港区	99	4. 池泉利用	鍋島松濤公園の池と水車		
	8. 神田川助水	新宿区	100	1. 水路構造	神田川への助水堀跡		

表 4-6 水系別遺構(分水)

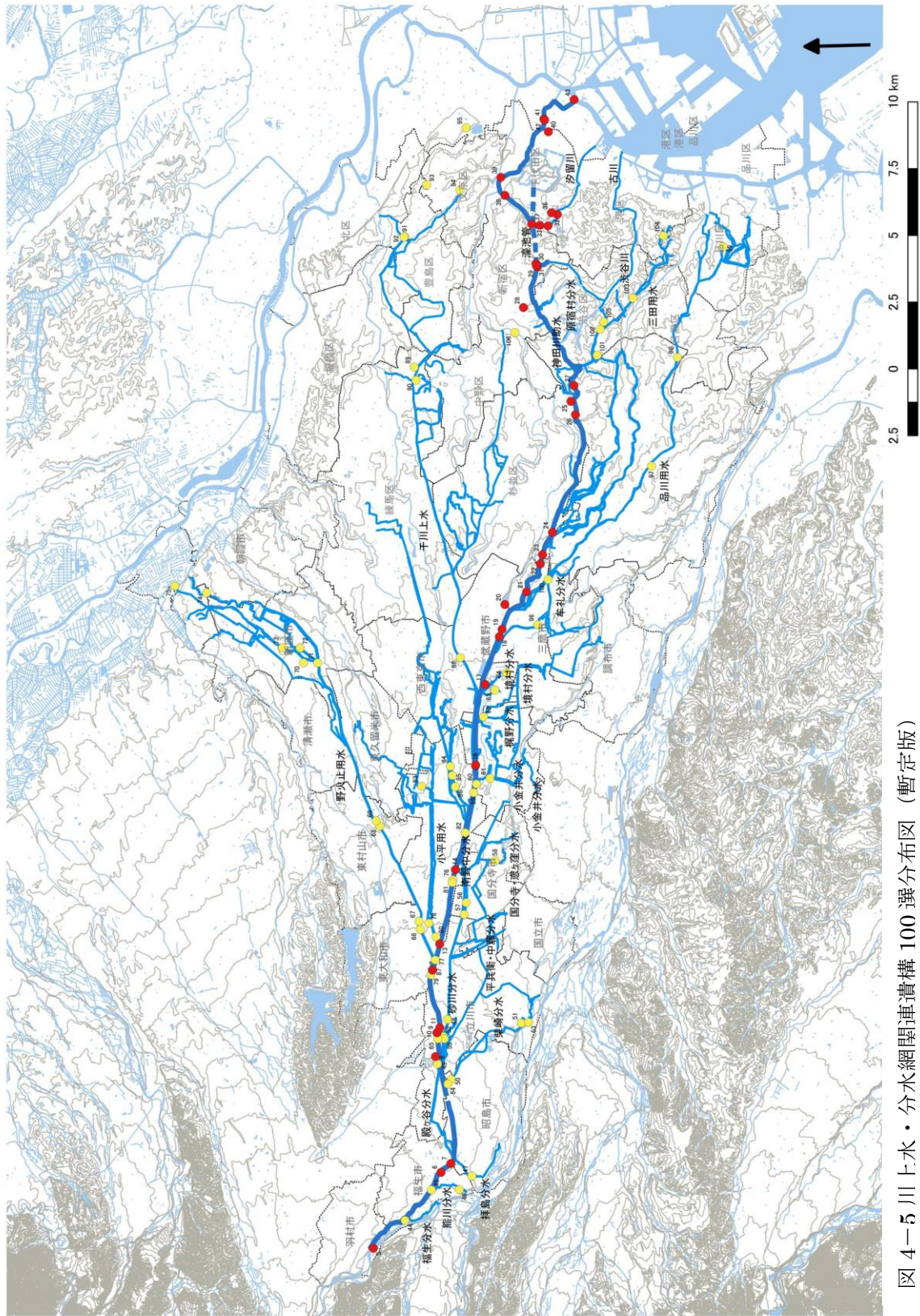


図 4-5 川上水・分水網開連潰構 100 選分布図 (暫定版)

第5章 玉川上水・分水網関連遺構100選の展開

～フィールド・ミュージアムへ～

(1) 玉川上水・分水網保全再生の動き

玉川上水・分水網の保全再生については大学研究者、有識者と市民活動団体が連携し「玉川上水・分水網を生かした水循環都市東京連絡会（以下連絡会）」を組織し活動を進めている（表5-1参照）。玉川上水・分水網関連遺構100選の調査研究もこの連絡会の活動と連携しながら進めている。

連絡会では、第2回シンポジウム（2017年8月19日）で、表5-2に示す提言をしている。

さらに、第3回シンポジウムでは、表5-3に示す意見と活動方針を打ち出した。玉川上水・分水網関連遺構100選の活動はこの第3回シンポジウムで出された3つの課題の内、「3. 長期的課題 玉川上水を軸としたグリーンインフラの形成」の具体的な展開を模索するために取り組んだものである。

表5-2 第2回シンポジウムの提言

玉川上水・分水網を生かした水循環都市東京連絡会による提言

- 一、玉川上水の起点にあたる羽村堰から外濠、日本橋川へと河川水を試験的に通水し、東京オリンピック・パラリンピック開催に際してアオコの発生を抑制し、日本が誇る水辺景観を創出すること。
- 二、試験通水をおとして、下流のお濠・日本橋川の水質浄化の効果、首都直下型地震等を想定した緊急通水のあり方、水循環網への影響、水路構造・周辺自然環境・生態系への影響、史跡・文化的景観への影響、及び水辺利用と維持管理のあり方等について検証すること。
- 三、このために、大学、行政、民間企業、及び市民による研究・検証組織としてコンソーシアムを早急に立ち上げること。
- 四、試験通水の調査及び評価結果に基づき、長期的な玉川上水・分水網のあり方、各地域の特性を活かした水辺環境整備・生態系保全と一体的利活用方策のあり方等について、総合的なビジョンを策定すること。

2017年8月19日
玉川上水分水網を生かした水循環都市東京連絡会
第2回シンポジウム参加者賛同者一同

表5-3 第3回シンポジウムの意見と活動方針

第3回シンポジウムの意見と活動方針

■基本的な視点

- ・多摩川の羽村堰から玉川上水・四谷大木戸・四谷見附・外濠・日本橋川…隅田川をつなぐ水系を、将来の東京の水循環に基軸としてとらえる。
- ・玉川上水・分水網を武蔵野台地と低地河川を結ぶ水循環の一体的な地域としてとらえる。
- ・玉川上水を軸とした地域の水循環を東京の将来の都市形成の基軸（グリーンインフラ）に位置付ける。

■3つの課題

1. 緊急の課題：玉川上水への河川水試験通水による外濠の水質浄化
 - ・オリンピックをめぐり日、浚渫・下水道一時貯留との連動対策
 - ・玉川上水・四谷大木戸・外濠への一時的な導水実験（見直し）
2. 中期の課題：災害時の安定した水利の確保
 - ・都心再開発と連動した緊急時の消防・生活用水の確保
 - ・玉川上水・分水網関連遺構と連動した緊急時の水利拠点の確保
3. 長期的課題：玉川上水を軸としたグリーンインフラの形成
 - ・安定した水利・水循環の再生・水辺の自然、歴史文化、利活用
 - ・市民と連携した官民の協働した一体的維持管理システムを構築する

2013

中村英夫教授（東京都市大学名誉総長）声かけの下、日本プロジェクト産業協議会（JAPIC）主催、建設コンサルタンツ協会の協力により、外濠地元等4大学（法政大学・東京理科大学・中央大学・東京都市大学）と連携し、9回の意見交換会及び講演会を経てシンポジウムを開催。

玉川上水・分水網を生かした水循環都市東京連絡会 代表 山田正(中央大学教授)

水循環都市東京シンポジウム実行委員会 総括実行委員長：山田 正（中央大学教授）
実行委員長：陣内 秀信（法政大学教授）
実行委員長：天野 光一（日本大学教授）
実行委員長：宇野 求（東京理科大学教授）
実行委員長：沖 大幹（東京大学生産技術研究所教授）

玉川上水・分水網の保全再生連絡会 代表：田畑 貞寿（千葉大学名誉教授）
武蔵野を中心とした自然歴史文化の保全再生に係る他分野の有識者・市民団体代表の連絡会
玉川上水域研究会、公益財団法人とうきゅう環境財団、武蔵野ユネスコ協会、玉川上水を守り育てる、武蔵野市民の会、武蔵野自然塾、玉川上水ネット（後出）、小平ユネスコ協会、学び舎江戸東京ユネスコクラブ、玉川上水・公園研究会、その他（生態・景観・都市計画・社会学の有識者等）

玉川上水ネット（日本ユネスコ協会連盟 未来遺産登録団体） 代表：西村 弘
玉川上水・分水網の保全再生、利活用に係る市民団体のネットワーク（25団体4個人会員約3000名）
玉川上水遊歩道を考える会、玉川上水の自然保護を考える会 みどりのつながり市民会議、玉川上水ストーリーーズ、小平井戸の会、小平市玉川上水を守る会、ちむくいの会、小平ユネスコ協会、学び舎江戸東京ユネスコクラブ、武蔵野ユネスコ協会、武蔵野の森を育てる会、玉川上水を守り育てる武蔵野市民の会、井の頭パードリサーチ、三鷹環境市民連（6団体17個人）、久我山緑の散歩道、井の頭の歴史を知る会、NPO中国健康法普及協会 ミズモリ図、東京ほたる会議、玉川上水・すぎなみの会、渋谷川・水と緑の会、その他（玉川上水・分水網関連連携100選協力・14団体等）

日本橋再生推進協議会「水辺再生研究会」 代表：山本 泰人（山本海苔店副社長）
日本橋再開発推進協議会の中で、特に、水辺の再生と有効活用について活動
中央大学、東京都市大学、地元企業、地元団体（名橋「日本橋」保存会、日本橋ルネッサンス100年計画委員会）等

外濠再生懇談会 代表：陣内 秀信（法政大学特任教授）、宇野 求（東京理科大学教授）
■教育機関：中央大学（山田正教授）、法政大学（陣内秀信教授）、東京理科大学（宇野求教授）、東京都市大学（川口英俊教授）、日本大学（阿部貴弘教授）、三輪田学園、プリティッシュカウンスル、新宿区四谷図書館 ■地元企業：東京メトロ、大日本印刷、イーソーコ総合研究所
■町内会・自治会等：新宿区及び千代田区の町内会長、自治会長等
■外濠市民塾（学生主体の地域住民参加型の団体）

関連団体

外濠水辺再生協議会 代表：宮坂 学（ヤフー会長）
■会員企業：鹿島建設、KADOKAWA、サントリーコーポレートビジネス、西武プロパティーズ、大日本印刷、日建設計日本コンベンションサービス、博報堂、博報堂DYメディアパートナーズ、前澤工業、前田建設工業、森ビル、ヤフー（五十音順）

玉川上水、外濠、日本橋周辺の企業・団体
■地元団体：（一社）まちふねみらい塾、国際ロータリークラブ

表 5-1 玉川上水・分水網を生かした水循環都市東京連絡会の構成

(2)玉川上水・分水網関連遺構 100 選の意義

①土地に刻まれた情報ネットワークとしての玉川上水・分水網

玉川上水・分水網の分布図を俯瞰的にみれば、羽村を要とした樹枝状に広がる水のネットワークとして見る事ができる。このネットワークは、自然流下を基本としたネットワークで地域の微細な地形を反映して築かれており、言わば台地に刻まれた自然と歴史としても見る事ができる。

この台地に刻まれたネットワークは、例え埋められたとしても道路・路地の形状としてその面影をとどめていることが多い。

一方、玉川上水が淀橋浄水場の廃止に伴い通水が停止してから約半世紀が経つが、その痕跡は各所に散在している。これらの痕跡を改めて集め再評価することにより玉川上水によって築かれた膨大なネットワークを情報として復元、共有することが可能となるのではないと思われる。関連遺構 100 選はその情報ネットワーク再生の基点としてを位置づける事ができる（図 5-1 参照）。

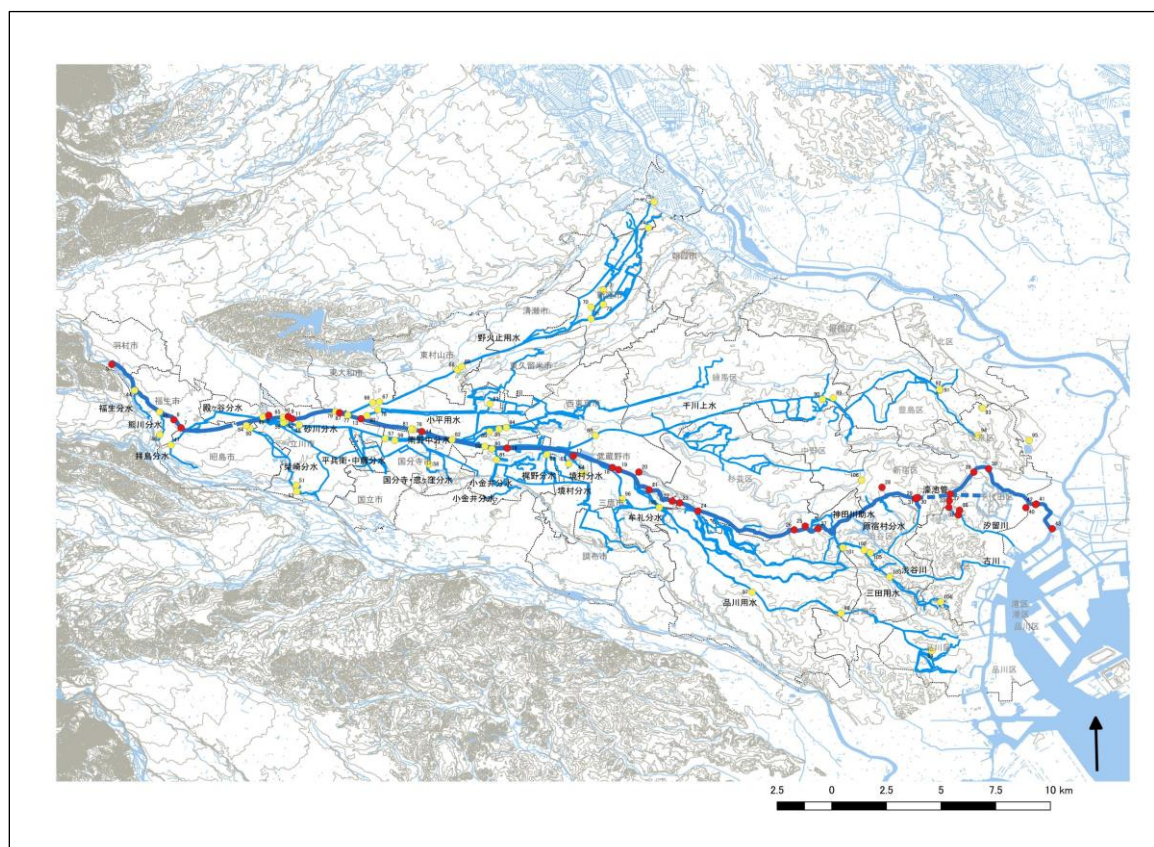


図 5-1 玉川上水・分水網のネットワークと関連遺構 100

②玉川上水の基軸と分水網への意識

玉川上水はかつては、江戸城下への上水供給を大きな目的としていたが同時に、た外濠、日本橋川等の維持用水源としても大きな役割をになっていた。近代的な水道の整備に伴って徐々に等閑視され、外濠の水質等を招いてきた。

一方、分水についても新田開発、池泉への上水・用水の供給を主目的としながらも中小河川への維持用水の供給や地下水や湧水などの涵養に大きな役割を果たしてきた。こうした利水だけでなく水循環などによる多面的な役割を再評価することが安定した豊かな都市の形成にとってますます重要になると考えられる。

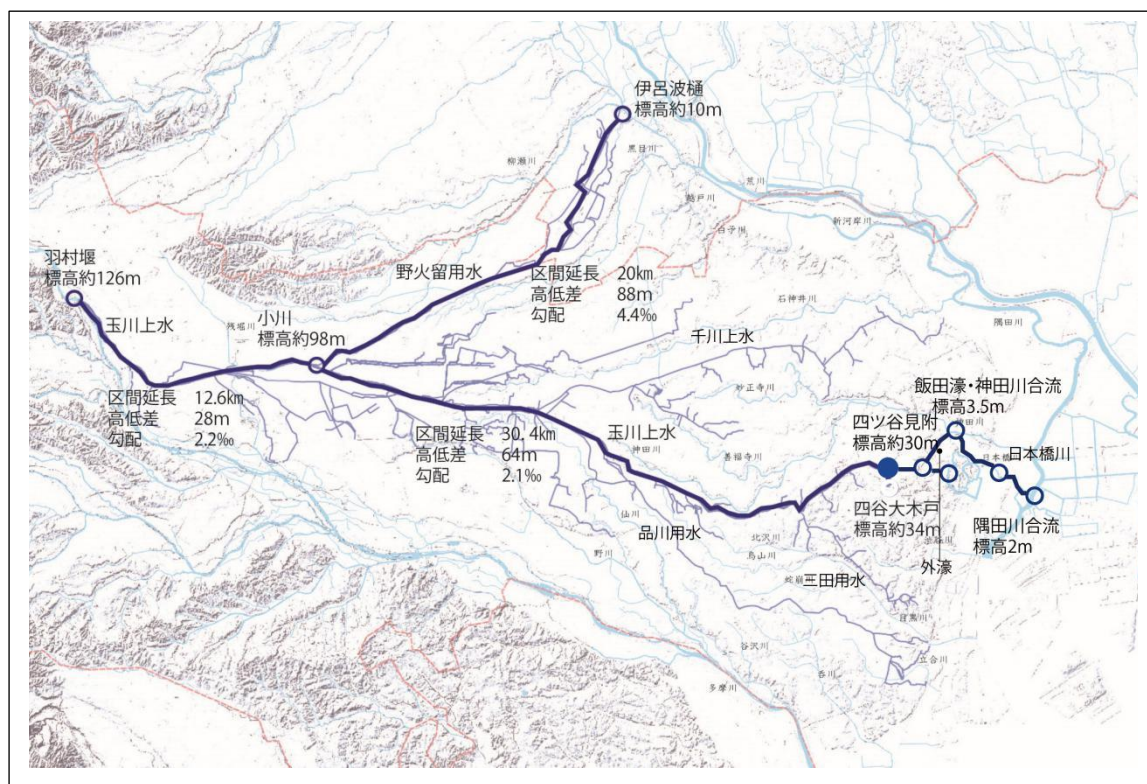


図 5-2 羽村から隅田川をつなぐ水循環の基軸形成

(3) 玉川上水・分水網関連遺構 100 選からフィールド・ミュージアムへの展開

①基軸となる玉川上水の河川水通水

都心部への玉川上水への河川水による水辺環境の改善、とりわけ水環境が悪化している外濠・日本橋川の水質改善は喫緊の課題であることは言うまでもない。また、玉川上水の水は羽村堰から都心部まで、自然流下のみで約7時間まで到達可能である。これによれば緊急時の防災用水の大幅な改善も可能となる。

②都心部への通水から沿岸都市の水環境改善へ

玉川上水への暫定的な通水が実現すれば、沿線都市の水環境も大きく変わる可能性が出てくる。単に玉川上水に水が流れ、豊かな自然の回復が望めるだけでなく、現在も維持されてる多くの分水口を通して地域へ水を引き込むことが可能となる。これらは、水辺利用の拠点や緊急時の防災水利拠点の形成も考えられる。100選の選定はその候補地をも示唆するものである。

③玉川上水の河川水・通水から利用拠点・フィールド・ミュージアムの形成へ

玉川上水への安定的な河川水・通水が実現すれば、かつての幅も広く素掘り深き危険な水路を安定した親水性の高い水路へと改修することが可能となる。100選で発掘されたように沿線には自然・歴史が豊かな場所が多く、沿線にいくつかの利用拠点を整備さらに、拠点から分水網と関連遺構をネットワーク化すれば広大な広がりを持つフィールド・ミュージアムへと展開が可能となる。

このためには、水路・水利のシステムだけでなく周辺の自治体、市民を巻き込んだ新しい維持管理制度の構築が不可欠となる。



図 5-3 玉川上水による緊急時の防災システムの構築

玉川上水系を世界に誇れる「水と緑の回廊」形成へ

- 玉川上水路の構造は江戸時代の閉鎖管理されて構造を現在まで受け継いでいる。このために、深く危険で水路部分は柵で閉鎖されている。
- 将来の東京の環境防災水利の役割を確定し流量を決めることにより、水に触れることができる開放的な水路として再整備することができる。
- 関連遺構等と連携することにより「水と緑の回廊」の形成が可能となる。
(関連遺構調査ブロックごとフィールドミュージアム展開の可能性検討へ)



玉川上水系(玉川上水・分水網・外濠・日本橋川)グリーンインフラ構想



玉川上水・三鷹駅上流：暗渠と親水水路整備の試み

イギリス運河網の復元と博物館の整備
1962年 British Water Ways を設立。運河約 3500 km の復元に着手。2012年に Canal & River Trust へ移管し管理。

図 5-4 安定した水利と水辺環境の再生

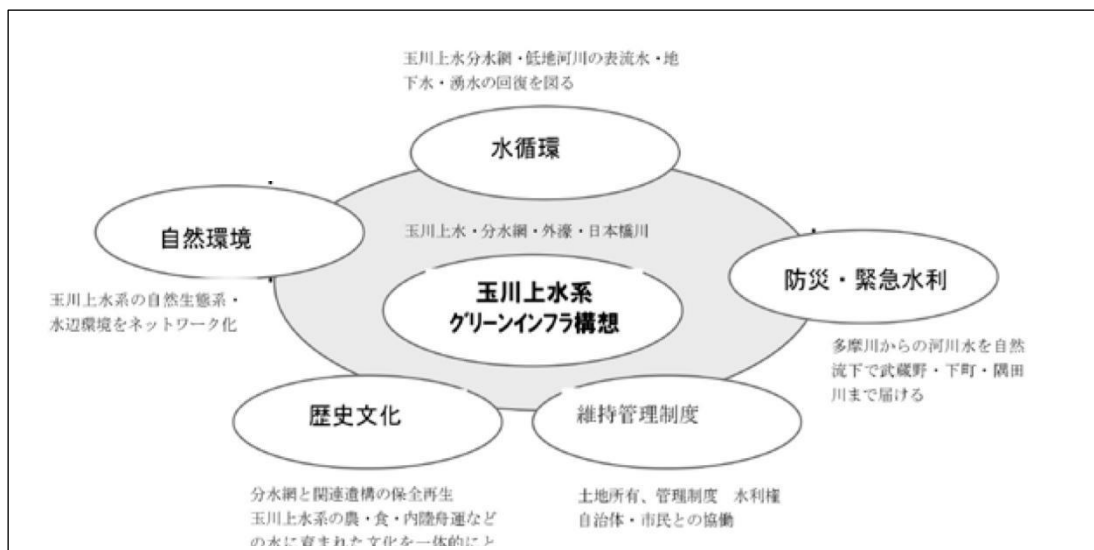


図 5-5 新しい維持管理制度の構築へ

玉川上水・分水網の保全再生とフィールド・ミュージアム 展開に関する調査報告書

資料編

市民が選ぶ玉川上水・分水網の関連遺構 100 選の概要素案

1. 玉川上水・分水網の関連遺構 100 選の概要素案（本線）
2. 玉川上水・分水網の関連遺構 100 選の概要素案（分水）

※この概要素案は、市民提案にもとづき研究会で一部補足しながら整理したものです。

現在、この素案に基づいて選考委員の先生方等を中心に改めて「解説」として修正・編集する予定ですのでご注意ください。

2018年度 市民が選ぶ玉川上水・分水網関連遺構 100選（本線）

遺構番号 No. 1 名称 玉川上水素掘水路（開渠区間）

項目	概要
区間・水系	本線 開渠区間
推薦団体	選考委員会
所在地	羽村市～渋谷区
分類	1. 水路構造
指定等	平成 15 年（2003）国指定史跡
摘要	

玉川上水は承応3年（1653）に羽村取水口から江戸・四谷大木戸までの43kmは素掘りの開渠、江戸市中は暗渠で配水されていた。規模も大きく近世の水利技術を知る上で重要とされている。

この開水路は、明治時代に近代的水道のために整備された淀橋浄水場が昭和40年（1965）に東村山浄水場へ合併・移転するまで維持されてきた。現在は、水路敷のうち羽村取水口から杉並区の浅間橋と世田谷・渋谷の両区の区間の一部が開渠として維持されており、計30kmの区間が国の史跡指定されている。

但し、わずかな水しか流れていない中下流区間では乾燥や樹木の繁茂などにより水路側壁の崩落等も徐々に進行しつつある。

2018年度 市民が選ぶ玉川上水・分水網関連遺構 100選（本線）

遺構番号 No. 2 名称 水路沿の自然生態系

項目	概要
区間・水系	開渠区間（羽村堰～浅間橋）
推薦団体	選考委員会
所在地	羽村市～渋谷区
分類	9. 自然環境
指定等	
摘要	福生市：玉川上水遊歩道 立川市：玉川上水の野草群落地 小平市：野草観察ゾーン 武蔵野市：隣接公園と雑木林 三鷹市：風の散歩道、玉川上水緑道 杉並区：多様性豊かな生き物の通り道

昭和30年代に東京の市街地は郊外へと進展する。同時に武蔵野台地を東西に貫流する玉川上水は、緑地としての評価が高まり、一部区間は都市計画緑地として指定される。

一方で淀橋浄水場の廃止に伴い小平監視所下流は通水が停止され上水路の機能を失う。これにより一部区間の埋め立て、道路・公園への転用がはじまり、三鷹・武蔵野の市民を中心とした玉川上水の保全活動がはじまる。こうした保全活動を通じて、玉川上水は緑地としての評価、さらに水辺を軸とした豊かな動植物の生態系として地域住民に親しまれるようになる。

2018年度 市民が選ぶ玉川上水・分水網関連遺構 100選（本線）

遺構番号 No.3 名称 玉川上水分水改正と分水口遺構

項目	概要
区間・水系	本線 開渠区間（福生市～渋谷区）
推薦団体	選考委員会
所在地	羽村市～渋谷区
分類	2. 水利施設
指定等	
摘要	昭和40年時点での分水口 福生 熊川 殿谷 拝島 柴崎 砂川（砂川用水） 源五右衛門 小 川（新堀用水） 野火止 千川 品 川 牟礼 烏山 北沢 下高井戸 三田 ※分水名称は「淀橋浄水場史」による ※ゴチックは現在も使用されている分水

寛政3年（1791）に作成された「上水記」には、羽村堰から四谷大木戸までの開渠区間には33の分水が設置されていたことが記されている。これらの分水は明治3年（1870）に全ての分水から使用料を徴収するための分水口再整備および、通船事業のための合口の分水改正が行われた。

右岸側の合口はそれまで部分的に砂川分水と連絡していた境分水までの8分水を連続させ取水口を砂川分水のみとした。また、左岸側については、野火止用水との分岐点から新たに玉川上水に沿って新堀用水を開削し、小川分水から千川上水までの6分水を合口した。

昭和40年の淀橋浄水場の廃止に伴い東京都は使用されている分水口について再整備を進める。この時点で分水口は16となり遺構として残っている。このうち現在も使用されているのは8口のみである。

参考資料

※東京都水道局「淀橋浄水場史」昭和41年
伊藤好一監修・肥留間博著「玉川上水」たましん地域文化財団1991

2018年度 市民が選ぶ玉川上水・分水網関連遺構 100選（本線）

遺構番号 No.4 名称 玉川上水水番所（屋）・水衛所跡

項目	概要
区間・水系	本線
推薦団体	選考委員会
所在地	羽村市～新宿区
分類	6. 水路管理
指定等	
摘要	江戸時代後期の玉川上水の水番所（屋） 羽村陣屋 代田村 四谷大木戸 明治時代以降の水衛所 （羽村給水所） 熊川 砂川 旧砂川（昭和38年砂川へ移設） 小平（現小平監視所） 小川 境 久我山 和田堀 代々木 四谷大木戸（新宿営業所）

江戸時代、幕府は玉川上水水の主要な場所に水番所（人）を設け、担当区間を定め管理を行った。沿川の村々に「持場」を割り当て、監視や草刈りなどの管理していた。

明治時代に入り玉川上水と市街地の水道は東京市へ受け継がれ、諸規則を定めるなど水質管理に務めるが、明治19年（1886）のコレラ騒動を契機として淀橋浄水場整備、鉄の水道管敷設等の近代水道への移行がはじまる。同時に多摩地域の東京府への編入も進んだ。こうした中で玉川上水の水路管理は、各所に水衛所を配置した体系的な管理体制が構築された。

この管理体制は昭和40年の淀橋浄水場の廃止以降徐々に廃止され今は、水路の塵除けスクリーン、その面影を留めている。

参考資料

※江戸東京博物館「図表で見る江戸東京」
※東京都教育委員会『玉川上水文化財調査報告書』平成4年

2018年度 市民が選ぶ玉川上水・分水網関連遺構 100選（本線）

遺構番号 No. 5 名称 玉川上水の通船遺構

項目	概要
区間・水系	本線
推薦団体	選考委員会
所在地	羽村市～新宿区
分類	8. 舟運・河岸
指定等	
摘要	

参考資料：

玉川上水通船研究会編著「玉川上水通船資料集」(財)たましん地域文化財団 1998

伊藤好一監修肥留間博著「玉川上水 親と子の歴史散歩」(財)たましん地域文化財団 1992

玉川上水の通船計画は幕末の頃から数度にわたって地元の名主から出されていたが、水質悪化の怖れから許可にならなかった。

しかし、明治2年(1869)に、羽村、福生、砂川の名主3名が連名で出願したところ許可が下り、通船のための整備が行われた。

整備は通船による分水への影響を緩和するため、上水の南側(右支川)は砂川分水口を残し、五日市街道沿の砂川分水を延伸し、境分水までの合口が行われた。さらに、北側(左支川)は野火止用水との分水口付近からあらたに、新堀を設け小川分水から田無分水までの分水口を統合した。

また、四谷大木戸から羽村まで32ヶ所の船溜・物揚場および河岸問屋が整備された。

通船事業は明治4年4月～5年5月までの2年1月実施されたが、水質汚濁等の理由で中止され、船溜・物揚場はすべて撤去された。

2018年度 市民が選ぶ玉川上水・分水網関連遺構 100選（本線）

遺構番号 No. 6 名称 多摩川の羽村堰

項目	概要
区間・水系	本線 多摩川
推薦団体	玉川上水遊歩道を考える会
所在地	羽村市羽東3-7-5 地先 多摩川
分類	2. 水利施設
指定等	平成26年(2014)土木学会選奨土木遺産
摘要	土木学会選奨遺産 羽村取水堰(投渡堰) 取水堰の原型は承応2年(1653)に設置。これを原型を踏襲しながら明治43年(1910)にコンクリート・鋼製の桁等を使用して改修した現在の投渡堰を遺産としたもの。

羽村取水堰は、多摩川から玉川上水に取水するために多摩川の角から河口から約54kmの地点設置された。この付近の河床勾配は約1/300の急流であり、蛇行する流れを取り入れ口に誘導するため、河道を西から東に斜めに横断する形で設けられた堰である。堰は先端の低い固定堰と流量を調整するための取水堰(投渡堰)からできている。

現在の堰は明治43年(1910)に改修しているが堰で取り入れ口に水を誘導するしくみは現在も変わらない。現在の投渡堰は4本の石造りの柱を3つに分かれた鉄製の桁で繋ぎ丸太を立て、この丸太支えに横に太抗を並べ、さらに隙間を木の枝(ソダ)や砂利などでうめている。多摩川が増水した時は鉄製の桁をずらせて堰を払うことができる。

2018年度 市民が選ぶ玉川上水・分水網関連遺構 100選（本線）

遺構番号 No. 7 名称 福生に残る玉川上水旧堀跡と開削工事跡

項目	概要
区間・水系	本線 上流区間
推薦団体	玉川上水遊歩道を考える会
所在地	福生市大字福生 1763-5 加美上水公園 福生市熊川 1359- 1 水喰土公園内
分類	1. 水路構造
指定等	1990（平成2）福生市指定文化財史跡
摘要	

参考資料

福生市郷土資料室「わがまちの文化財・玉川上水旧堀跡 玉川上水開削工事跡（みずくらいど）」

福生市内を流れる玉川上水は、多摩川沿いの低地から武蔵野台地の段丘崖を斜めに横切りながら段丘上位面にたどり着く難しい工事であった。このため、福生には2つの流路の変更跡が刻まれている。

一つは、羽村堰から多摩川に沿って約1.3km下った約600mの旧堀跡である。多摩川の洪水の影響を避けるために、元文5年（1740）に玉川上水の流路を段丘側に移設した。このため、古い流路が残され、現在はその一部が加美上水公園として保存されている。

もう一つは熊川の水喰土といわれ、上水に水を流したら残らず地中に吸い込まれ失敗したと推定されている水路の工事跡である。その一部は空堀として残され掘削時の面影を伝えている。現在は福生市の水喰土公園として保存されている。両者とも市の文化財として指定されている。

2018年度 市民が選ぶ玉川上水・分水網関連遺構 100選（本線）

遺構番号 No. 8 名称 日光往還・日光橋（レンガアーチ橋）

項目	概要
区間・水系	本線 上流区間
推薦団体	玉川上水遊歩道を考える会
所在地	福生市熊川 1403
分類	3. 街道橋梁
指定等	平成27年（2015）福生市有形登録文化財
摘要	2005年時点の玉川上水レンガアーチ橋 日光橋 牟礼橋 小金井橋 九右衛門橋

参考資料

福生市郷土資料室「もっと知りたい福生の歴史（7）国内最古の道路レンガアーチ橋日光橋」

伊東孝「東京・三多摩地域における木・石・レンガ橋の発展に関する研究」土木史研究論文集 2005

羽村で取水された玉川上水は多摩川の崖線に沿って徐々に武蔵野台地の立川段丘面に近づき、拝島駅付近で流れは大きく曲がり台地中央部へと向かう。この流れが変わる地点には、北に向かう殿ヶ谷分水と南に向かう拝島分水が設けられている。

また、屈曲部にはかつては日光往還と呼ばれた旧国道16号が南北へ走る。この往還は八王子千人同心が日光東照宮警備のために使っていた道で、その名に由来する日光橋がかけられている。

現在の橋は、明治24年（1891）にかけられたレンガアーチ橋を昭和25年（1950）に両側を拡幅したもの。現存する道路橋では日本最古といわれている。また、日光橋がかけられた3年後には青梅線・拝島駅が設けられるなど、この屈曲部は水・道・鉄道の交差点でもあった。

2018年度 市民が選ぶ玉川上水・分水網関連遺構 100選（本線）

遺構番号 No. 9 名称 旧残堀川の開削遺構

項目	概要
区間・水系	本線 上流区間
推薦団体	玉川上水の自然保護を考える会
所在地	立川市上砂町 5-84, 85
分類	1. 水路構造
指定等	
摘要	

武蔵野台地（立川段丘面）には、狭山丘陵最西端から玉川上水を超え立川駅方向に立川段層（段丘という説もある）が走る。この断層をはさんで約50mの幅で西側が4.8m程低い。また、かつてはこの断層の西側下端に沿って古残堀川が流れていた。玉川上水を開削するためには、この断層と古残堀川との調整が不可欠であった。

このため古残堀川は、愛宕松（草橋）といわれた地点（現武蔵村山病院付近）から大きく上流の天王橋付近まで迂回させ、玉川上水の助水のために合流させた。この開削当時の改修流路を旧残堀川と呼んでいる。

旧残堀川は、明治41年（1908）に水質汚濁などのため玉川上水への合流を廃止し、ほぼ現位置で残堀川を伏せ越して横断し、多摩川へ直接流す工事が行われる。さらに、昭和35年（1960）には日産自動車工場建設にあわせ現ルートに改修された。

玉川上水開削当時の流路は日産自動車工場跡地南端の東側に約200m残っており、開削の当時の面影を伝えている。

2018年度 市民が選ぶ玉川上水・分水網関連遺構 100選（本線）

遺構番号 No. 10 名称 古残堀川交差付近の大曲と築堤遺構

項目	概要
区間・水系	本線 上流区間
推薦団体	玉川上水の自然保護を考える会
所在地	立川市砂川町 3-4
分類	1. 水路構造
指定等	
摘要	古残堀川の流路と断層との関係は、市指定史跡として玉川上水流路の北側に残されている。

玉川上水は天王橋付近で旧残堀川を合流した後一度古残堀川に向かって流下し、そこから4.8mの段層を越して武蔵野台地の分水嶺である野火止用水との分派点（現小平監視所）へ向かう。

天王橋と野火止用水までの距離は約3.4km、比高約10m、勾配0.34%であることから玉川上水の平均的な流路勾配（0.2%）を確保することは十分可能である。このために、まず天王橋から断層の下端まで流路の天端を0.2%の勾配が確保できるよう盛土をして断層の途中まで導く。一方、下流側は断層上位面から深堀して小平方面へと流路を掘削する。

さらに、金比羅橋周辺では玉川上水上流の側道と橋との連絡および、特に断層下端部低くなっている底面を嵩上げし下流側の掘削量を少なくすることなどのため、流路全体を右岸側に大きく湾曲させたのではないかと推察される。

2018年度 市民が選ぶ玉川上水・分水網関連遺構 100選（本線）
 遺構番号 No. 11 名称 玉川上水の通船と巴河岸跡

項目	概要
区間・水系	本線 上流区間
推薦団体	玉川上水の自然保護を考える会
所在地	立川市砂川町 3-4
分類	3. 舟運・河岸
指定等	
摘要	

参考資料

玉川上水通船研究会編著 玉川上水通船事業史料集 たましん地域文化財団 1989 等

明治時代に入り、玉川上水の管理は明治政府に移り、それまで却下されていた通船事業が許可される。事業は、明治3年（1870）4月～明治5年（1872）5年月の2年1ヶ月間行われ、その後水質汚濁のため中止となる。

この間、船溜所は羽村から四谷大木戸まで32ヶ所設けられた。船は全体で104隻、そのうち砂川村には22隻あり最大の船溜所であった。沿岸には荷物の積み降しの船溜や倉庫があった。船は長さ5間、幅3間程度。荷は多摩からの野菜・茶・織物・薪・木炭等、東京からは米・塩・魚類等が運ばれていた。巴河岸の名は山梨県の鰍沢からきた船頭の屋号に由来する。

2018年度 市民が選ぶ玉川上水・分水網関連遺構 100選（本線）

遺構番号 No. 12 名称 玉川上水に隣接した金比羅山

項目	概要
区間・水系	本線 上流区間
推薦団体	玉川上水の自然保護を考える会
所在地	立川市砂川町 3-4
分類	10. 碑・モニュメント
指定等	
摘要	

玉川上水が立川断層を通り抜ける右岸側に高さ約13mの小高い山が築かれている。

この山がいつ築かれたのか不明だが、安政年間（1854～1860）に砂川村名主の砂川家が願主となり山頂に富士浅間稲荷、中段には金比羅神社、下段には秋葉神社を勧進したと伝えられている。

これだけの土量の山を三社の勧進のためだけに築いたとは考えにくいので、玉川上水の開削工事の残土処理とも関連しているのではないかなどのいくつかの見方が出されている。

その一つに、開削工事のための測量の物見台、その後の流路などの監視所の役割。あるいは、大曲築堤部の一部として築かれた幅広の堤防を後に新田開発のために取り壊し山を築いたなどの説があり、今後の解明が期待されている。

2018年度 市民が選ぶ玉川上水・分水網関連遺構 100選（本線）

遺構番号 No. 13 名称 水道原水流過と小平監視所

項目	概要
区間・水系	本線 上流区間
推薦団体	玉川字ネット・小平チーム
所在地	立川市幸町 6-36-4
分類	6. 水路管理
指定等	
摘要	

戦後の水需要の増大，都心の都市再開発の進展等を受け，昭和38年（1963）頃から玉川上水を取り巻く情勢は大きく変化する。まず，淀橋浄水場の跡地の再開発計画により，東村山浄水場への拡張移転が決まる。これにあわせ従来，玉川上水と小平用水，野火止用水の分岐点であった地点に小平水衛所を整備。ここから羽村で取水した水道原水を，東村山浄水場へ配水する工事が行われる。さらに，昭和40年（1965）には淀橋浄水場の移転・廃止に伴い監視所直下流の流れは停止となる。ただし，千川上水下流の分水については一部利用が続いていたため，境浄水場経由で昭和50年（1975）頃まで配水されていた。それも需要が無くなり，それ以降水衛所下流は空堀となった。また，昭和55年（1980）には熊川・砂川・小川水衛所が統合整備され，昭和58年（1983）には野火止用水の清流復活事業にあわせ小平監視所として再整備された。

2018年度 市民が選ぶ玉川上水・分水網関連遺構 100選（本線）

遺構番号 No. 14 名称 清流復活事業と上水小橋

項目	概要
区間・水系	本線 中流区間
推薦団体	玉川上水ネット・小平チーム
所在地	立川市
分類	3. 水利施設
指定等	
摘要	

昭和50年（1975）以降小平監視所下流の玉川上水と取水していた分水は空堀となり水路の改廃も徐々に進行した。このため，野火止用水に関連した自治体，市民団体により都に対し水流復活の要望が行なわれた。この要望を受け都は昭和59年（1984）に，多摩川上流水再生センターの下水を高度処理して野火止用水に流す清流復活事業を行った。次いで，昭和60年（1985）には本線を経由した千川上水，昭和61年（1986）には玉川上水本線の清流復活事業を行った。

この事業にあわせ小平監視所下流に岩場の清流放流口を整備し，水辺に近い位置に小橋を設置した。現在では，玉川上水の水に触れることのできる唯一の親水空間として活用されている。

2018年度 市民が選ぶ玉川上水・分水網関連遺構 100選（本線）

遺構番号 No. 15 名称 小川橋と石橋供養塔

項目	概要
区間・水系	本線 中流区間
推薦団体	玉川上水ネット・小平チーム
所在地	小平市・国分寺市, 小川町・中島町の境
分類	3. 街道・橋梁
指定等	
摘要	

小川橋は、所沢と国分寺方面を結ぶ村山街道（旧鎌倉街道）と玉川上水交差部にかかる橋。橋の北詰には石橋供養塔がある。

石橋供養塔は、天保13年（1842）に建立。塔には「世話人武州多摩郡小川村世話人小川砂川村中 左八所沢 山口みち」などが記されており、石橋の供養、塞の神、道標を兼ねた石柱であることが分る。また、橋の南側には明治3～5年（1870～1872）の通船事業に使用された神明河岸があった。

橋の下には今なお、小平監視所で分水された新堀用水が流れ、小川分水の分岐点がある。小川分水はここから北に向かい、青梅街道を挟んだ新田開発の要となった地点でもある。

2018年度 市民が選ぶ玉川上水・分水網関連遺構 100選（本線）

遺構番号 No. 16 名称 名勝小金井桜（サクラ）

項目	概要
区間・水系	本線 中流区間
推薦団体	玉川上水ネット小平チーム
所在地	小平市旧小川水衛所から武蔵野市境橋間約6km
分類	9. 自然環境
指定等	大正13年（1924）国指定史跡名勝天然記念物

幕府は享保年間（1716～1735）に新たな武蔵野の新田開発を進める。この末期にあたる元文2年（1737）に押立村名主川崎平右衛門に命じ、吉野や常陸桜川から名品を取り寄せ小金井の玉川上水の土堤に植樹させた。この桜並木は見事な成長を見せ、文化～天保年間（1804～1844）には多くの文人・墨客が観桜に訪れた。また、広重の浮世絵や江戸名所図会にも描かれ、名所として江戸庶民の間にも広まる。

明治時代の中期になると「日本風景論（志賀重昂 明治27年）、「武蔵野（国木田独歩 明治37年）等日本の独自の自然・風景への関心が高まり、大正8年（1919）には史跡名勝天然記念法が制定され、大正13年（1924）には小金井桜（サクラ）も国の史跡名勝に指定された。

なお、昭和15年（1940）には東京の防空のために環状緑地計画が定められ、隣接地に小金井緑地（後に公園）が都市計画決定される。このように、小金井桜は江戸・東京へとつながる近郊の緑地の原型と見ることができる。

2018年度 市民が選ぶ玉川上水・分水網関連遺構 100選（本線）

遺構番号 No. 17 名称 名勝小金井桜の中心地・小金井橋

項目	概要
区間・水系	本線 中流区間
推薦団体	玉川上水ネット 小平チーム
所在地	小金井市
分類	3. 街道橋梁
指定等	
摘要	現存する玉川上水のレンガアーチ橋 小平市・久右衛門橋 三鷹市・ドンドン橋（旧牟礼橋）

小金井橋は清瀬、府中を南北に結ぶ小金井街道に玉川上水の開削時に架けられた古い橋である。このあたりの玉川上水は、北の石神井川、南の仙川で挟まれた馬背の尾根筋を流れる。また、この2つの川はこの近傍に流頭があり、その名も武蔵七井の一つである仙川の流頭「黄金井」に由来するといわれている。

橋は、幕末の安政3年（1856）に木橋から石橋へ、さらに幕末から明治時代にかけて橋詰に花見茶屋かしわ屋、船溜の整備等により名勝小金井桜の中心を形成した。石橋は昭和5年（1930）にレンガアーチ橋に替えられた。

平成20年（2008）に道路拡幅のためコンクリート橋に整備され、レンガアーチの一部が橋南詰にモニュメントとして保存されている。

2018年度 市民が選ぶ玉川上水・分水網関連遺構 100選（本線）

遺構番号 No. 18 名称 武蔵野の雑木林・独歩の森

項目	概要
区間・水系	本線 中流区間
推薦団体	武蔵野の森を育てる会
所在地	武蔵野市境4丁目5 境山野緑地内
分類	9. 自然環境
指定等	
摘要	

独歩の森は、玉川上水が武蔵野市の境橋で千川上水を分岐する下流約350mの南側に位置する。この上流には玉川上水開削直後に境村分水が開削され、新田開発が徐々に進む。

この頃の新田開発は畑地が主体であり、あわせて薪炭や堆肥等を得るためのクヌギ・コナラ林等の雑木林経営が行なわれた。

この雑木林の一部が、かつての武蔵野村大字境字山野に残されており、住民の強い要望により緑地として保存された。さらに、その一部は「武蔵野」の景観美を説いた国木田独歩に因み「独歩の森」と名付け、住民による保全活動が行なわれている。

なお、武蔵野市の一帯は、吉祥寺や西窪のように江戸の大火後に入植が進むなど江戸・東京の市街地拡大と密接に関連して開発が進んだ。

この下流の左岸には境浄水場があり、右岸側には品川用水の取り入口があった。

2018年度 市民が選ぶ玉川上水・分水網関連遺構 100選（本線）

遺構番号 No. 19 名称 三鷹駅周辺の緑の景観と玉川上水保全再生の試み

項目	概要
区間・水系	本線 中流区間
推薦団体	玉川上水を守り育てる武蔵野市民の会
所在地	武蔵野市西久保1丁目・三鷹市下連雀3丁目
分類	1. 水路構造
指定等	
摘要	

参考資料

東京都教育委員会「玉川上水文化財報告書-その歴史と現況-」東京都教育庁 1992

かつて玉川上水は三鷹駅の下を開渠で北から南へ流れていた。地域の中心でもあった駅周辺では、昭和40年（1965）の玉川上水通水停止の早い段階から、市民による玉川上水の保全活動が展開された。

まず、東京都は小平監視所下流の玉川上水通水停止とともに、玉川上水の暗渠化と道路整備等の計画を打ち出した。この計画に基づいて杉並区等で暗渠化工事が始まった。

この工事を眼にした三鷹市、武蔵野市の一部市民は「玉川上水を守る会」などを結成し、玉川上水の保存活動に取り組んだ。この活動は当初暗渠化の反対、史跡としての保存等に取り組み、玉川上水保全の合意形成に寄与した。

一方、昭和50年代（1975）には中央線の高架化計画が打ち出された。これに伴い三鷹駅周辺の道路整備や再開発計画が動き出し、市民による玉川上水保全再生のための新たな取り組みが始まった。この結果、三鷹駅北側の浅い玉川上水のせせらぎ水路と暗渠の2層構造化、隣接の都市計画道路の暗渠区間短縮等が実現しさらに、南口再開発においても駐輪場計画地の暗渠化阻止等が実現した。このような継続的な市民活動によって玉川上水と三鷹駅北口広場を中心とした緑の景観が形成された。

2018年度 市民が選ぶ玉川上水・分水網関連遺構 100選（ ）

遺構番号 No. 20 名称 三鷹駅・井の頭公園をつなぐ風の散歩道等

項目	概要
区間・水系	本線 中流区間
推薦団体	住みよい環境をつくる三鷹市民連絡会 玉川上水を守り育てる武蔵野市民の会
所在地	武蔵野市御殿2丁目・三鷹市下連雀3丁目
分類	3. 水辺利用
指定等	
摘要	

三鷹駅南口駅前広場下流から都立井の頭恩賜公園までの約800mの区間は、玉川上水の中央が武蔵野市、三鷹市の境となり、緑と閑静な住宅に挟まれた道が続く。この道は市民からの公募により「風の散歩道」名付けられ、多くの市民に親しまれている。

沿道には、山本有三記念館や大宰治の玉鹿石や小説の一説が刻まれた説明板等があり、入水自殺した頃の玉川上水の写真が載っている。また、武蔵野市側にはかつて田畑を荒らす動物を退治するオオカミ（山犬）あがめ死後に祀った「お犬むすびの松」の記念広場がある。

現在では往時の農村の面影は影を潜め、玉川上水の水辺と緑と調和した都会の潇洒な雰囲気を出している。

2018年度 市民が選ぶ玉川上水・分水網関連遺構 100選（本線）

遺構番号 No. 21 名称 都立井の頭恩賜公園と神田上水

項目	概要
区間・水系	本線 中流区間
推薦団体	住みよい環境をつくる三鷹市民連絡会
所在地	武蔵野市御殿山1丁目・三鷹市井の頭4丁目
分類	9. 自然環境
指定等	東京都史跡指定「井の頭池遺跡群」昭和54年 東京都旧跡指定「井の頭池（神田上水水源他）」 大正14年
摘要	

武蔵野台地の標高50m位の段丘面では地形勾配が緩くなり、帯水層が露出した井の頭池、善福寺池、妙正池等の湧水池が南北に連なる。江戸時代の初期にはこの井の頭池を水源として、神田川の流れを利用した神田上水が整備される。また、玉川水が整備される承応年間には、江戸市街地の北側を神田上水、南側を玉川上水により配水する上水網ができていく。さらに、寛政7年（1667）には玉川上水から神田川に助水する堀が設けられ、一体的な運用が行われる。

一方、井の頭池周辺は江戸時代から水源地として保護され、明治政府に受け継がれる。さらに、淀橋浄水場と近代的な水道施設により神田上水は廃止され水源としての役割を終え、大正7年（1918）に井の頭恩賜公園として受け継がれてきた。

玉川上水はこの湧水池の南側を流れ、地下水等により水源涵養の役割を果たしていたと考えられている。また、今日まで御殿山の自然等を含め玉川上水の緑とも連動した水と緑の自然生態系の中心としての役割を担ってきた。

2018年度 市民が選ぶ玉川上水・分水網関連遺構 100選（本線）

遺構番号 No. 22 名称 玉川上水の渓谷・緑道と都市農業

項目	概要
区間・水系	本線 中流区間
推薦団体	住みよい環境をつくる三鷹市民連絡会
所在地	武蔵野市御殿山1丁目・三鷹市井の頭4丁目
分類	9. 自然環境
指定等	
摘要	

井の頭池あたりから牟礼橋までの間、玉川上水は、南側の小高い丘と北側の神田川の開析谷との間の屈曲した細長い地形を縫ように流れる。

このため上水の南側は2m位高くまた、流路は深く渓谷のような姿を見せる。水路には樹木が生茂り、車両が制限された緑道が整備されている。

また、両岸には果樹園、野菜農園などの都市農業の経営が見られ、井の頭公園とも連担した、水と緑に彩られたグリーンゾーンを形成している。

2018年度 市民が選ぶ玉川上水・分水網関連遺構 100選（本線）

遺構番号 No. 23 名称 人見街道と旧牟礼橋

項目	概要
区間・水系	本線 中流区間
推薦団体	住みよい環境をつくる三鷹市民連絡会
所在地	三鷹市牟礼1丁目24
分類	3. 街道橋梁
指定等	
摘要	

神田川右岸の牟礼地域は、戦国時代にはすでに集落があったとされる古村である。この地域を貫く人見街道は、府中市八幡と杉並区の大宮八幡をむすぶ道として知られているが、もともと武蔵国府府中から大宮、下総の国府へ通じる重要な街道であったと言われる。この街道に架けられたのが牟礼橋である。

現在は、新旧の2つの橋があり、上流の古い橋は宝暦7年（1757）に架けられていたと記された石橋供養塔がある。現存のレンガアーチ橋は大正時代に架けられたもので「どんどん橋」の銘がある。

また、橋詰には環境省の巨樹、巨木のデータベースの登録されたケヤキの大木があり、玉川上水と交差する牟礼橋は地域の大きな結節点となっている。

2018年度 市民が選ぶ玉川上水・分水網関連遺構 100選（本線）

遺構番号 No. 24 名称 玉川上水中下流の水難者慰霊碑群

項目	概要
区間・水系	本線 中流区間
推薦団体	住みよい環境をつくる三鷹市民連絡会
所在地	三鷹市、杉並区
分類	10. 碑・モニュメント
指定等	
摘要	

井の頭公園付近から下流の玉川上水は流れも速くまた、深いため「人喰い川」でもあった。このため沿川には水難に因む碑が点在する。

- ・井の頭公園上流「(紫橋右岸下流)「太宰治記念碑」(昭和28年入水自殺)
- ・井の頭公園(御殿山)「松本訓導殉難の碑」(玉川上水にはまった小学生を救出しようとして殉難された、大正8年)

2018年度 市民が選ぶ玉川上水・分水網関連遺構 100選（本線）

遺構番号 No. 25 名称 下高井戸の公園盛土と桜並木

項目	概要
区間・水系	本線 中流区間
推薦団体	世田谷区環境学習会
所在地	杉並区下高井戸2丁目
分類	5. 水辺利用
指定等	
摘要	

玉川上水は、昭和40年(1965)の淀橋浄水場廃止に伴い久我山の浅間橋より下流は暗渠となり、上部は中央高速道路、公園等に占用される。

浅間橋から和泉給水所までの暗渠区間には、玉川上水の排水路(Φ1800mm自然流下)、朝霞浄水場からの補給管Φ2400mm加圧)、浅間橋から環状八号線までの清流復活事業の神田川放流管)の管路が入っている。

中央高速道路が占用し甲州街道と合流する下流の区間は昭和43(1968)に杉並区の公園緑地として占用、整備されている。また、この区間は、従来の桜並木を維持しながら下部の管路の影響を受けて水路部分を盛土し公園整備していることが特徴となっている。

2018年度 市民が選ぶ玉川上水・分水網関連遺構 100選（本線）

遺構番号 No. 26 名称 新旧水路の分岐点・和泉給水所

項目	概要
区間・水系	本線 中流区間
推薦団体	世田谷区環境学習会
所在地	杉並区和泉2丁目、渋谷区笹塚2・3丁目、日本町6・2丁目新宿区西新宿4丁目
分類	7. 水道施設
指定等	
摘要	

玉川上水は、代田橋までは甲州街道の北側を流れる。この下流の幡谷では北側から南に谷が大きく伸びており、水路はこれを迂回するために街道を超えて南に大きく湾曲する。この湾曲の南端で三田用水を分岐して、再び甲州街道へ戻り街道の南側を新宿へと向かう。

明治23年(1890)に東京市区改正設計が議決され、淀橋に新浄水場を整備する近代的な水道工事が始まる。新浄水場の位置はやや高く、従前のルートだと湾曲していることや水路高が低いため導水が困難となった。このため、明治32年(1899)に現在の和泉給水所の地点に水門を新設し、甲州街道の北側を盛土して直線的に浄水場へ連絡する新水路が築造された。

この新水路は関東大震災で大きな被害を受け導水路に不安を残した。このため、甲州街道の拡幅工事にあわせて新たに導水暗渠が整備された。これに伴い新水路の盛土も撤去され道路として整備されたため、現在も水道道路の名とそのルートに新水路の面影を留めている。

2018年度 市民が選ぶ玉川上水・分水網関連遺構 100選（本線）

遺構番号 No. 27 名称 代田橋・笹塚橋間の開渠遺構

項目	概要
区間・水系	本線 下流区間
推薦団体	世田谷環境学習会
所在地	世田谷区大原2丁目地内 渋谷区笹塚1丁目地内
分類	1. 水路構造
指定等	国指定史跡
摘要	世田谷区：玉川上水緑道 渋谷区：玉川上水旧水路緑道

杉並区久我山1丁目の浅間橋～和泉1・2丁目の区間は、淀橋浄水場廃止直後から水道導水管敷設および道路整備等により水路の埋め立てが進む。またその下流側も昭和49年（1974）に三田用水の通水停止により用水路の役割も無くなり埋め立て計画が持ち上がった。

このような中で地元から開水路として保全すべきとの請願が出され、かろうじて代田橋、笹塚橋間の約500mの区間が開渠として残され、現在も往時の玉川上水の面影を保っている。ただし、清流復活事業の水はここまで届かず、地下水によるわずかな水が流れるにとどまっている。なお、開渠区間以外の埋立て区間については1800mmの排水管路が敷設されており、江戸時代からの配水構造は現在もなお維持されている。

2018年度 市民が選ぶ玉川上水・分水網関連遺構 100選（本線）

遺構番号 No. 28 名称 玉川上水と淀橋浄水場跡地

項目	概要
区間・水系	本線 下流区間
推薦団体	NPO 法人新宿環境活動ネット
所在地	新宿区西新宿1・2・3丁目
分類	7. 水道施設
指定等	
摘要	

参考資料

東京都水道局編集「淀橋浄水場史」1966

明治19年（1886）に全国でコレラが大流行、これを契機として、東京でも明治25年（1892）には淀橋の浄水場、新水路整備と市中の鉄管による水道管敷設がはじまる。明治31年（1898）に竣工、東京の近代的水道の嚆矢となる。

一方で、東京の人口の増加、新宿周辺の都市化の進展等により、大正末期には早くも淀橋浄水場の拡張移転、跡地再開発等の動きも出てくる。また、新水路が関東大震災で甚大な被害を受けたおり、従前からの玉川上水で角筈まで導水し、ポンプアップして浄水場へ送水するなど災害時にもその役割も果たしてきた。

その後、昭和40年（1965）に浄水場が移転、跡地が再開発されると新水路等は撤去されたが従来の玉川上水のルートは暗渠となり、今日までかろうじて残されることとなった。浄水場跡地には、敷地形状や池と地面の2層構造や公園内の六角堂等にその面影を留めている。

2018年度 市民が選ぶ玉川上水・分水網関連遺構 100選（本線）

遺構番号 No. 29 名称 新宿御苑と四谷大木戸

項目	概要
区間・水系	本線 下流区間
推薦団体	渋谷川・水と緑の会
所在地	新宿区内藤町1
分類	2. 水利施設
指定等	
摘要	

開渠の玉川上水は、神田川と目黒川に挟まれた淀橋台地の東端に辿り着く。この地点は、幕府からの信認の厚かった内藤家の屋敷がもけられていた。また、南に渋谷川の流頭が迫り維持管理の条件にも恵まれていた。このため、沈砂池や水質・水量を監視する四谷大木戸の水番所（屋）が設けられ、ここから江戸市中へ管路で地下配水されていた。

内藤家の屋敷には江戸の名園として名高い玉川園が設けられており、現在の新宿御苑の玉藻池等として受け継がれている。さらに、内藤屋敷の手前の玉川上水の堤には幕末にサクラが植えられ「玉川堤の桜」等の浮世絵に描かれている。

この四谷大木戸や玉川堤の桜堤は、明治31年（1898）の近代水道の整備に伴って、暗渠となり一部は道路となった。また、平成24年（2012）には玉川上水を偲び価値を後世に伝えるため「玉川上水・内藤新宿分水散策道」が整備されている。

2018年度 市民が選ぶ玉川上水・分水網関連遺構 100選（本線）

遺構番号 No. 30 名称 玉川上水の余水吐と渋谷川

項目	概要
区間・水系	本線 下流区間
推薦団体	渋谷川・水と緑の会
所在地	新宿区内藤町1
分類	1. 水路構造
指定等	
摘要	

参考資料

梶山公子著「あるく渋谷川入門」中央公論事業出版 2010

かつて、玉川上水は四谷大木戸から市中に配水する一方、余水吐き口から南側の渋谷川流頭のとなるから余水を流出していた。また、淀橋浄水場の建設以降も余剰水は四谷大木戸まで導水され、お堀や渋谷川に流出していたが、昭和40年に浄水場の廃止とともに途絶えた。往時の渋谷川余水吐の「2つの水門のバルブ」は水道局新宿営業所の裏手に保存されている。

水門から流出した水は、新宿御苑の東縁抜け新宿御苑の玉魚池、上の池・中の池・下の池の水を合わせ・国立競技場脇の外苑西通りへ流れ、渋谷川へと合流していた。新宿御苑東縁の流路には日本で最初に鉛筆を製造を水車があり、流路や水車の跡も残されている。

2018年度 市民が選ぶ玉川上水・分水網関連遺構 100選（本線）

遺構番号 No. 31 名称 四谷大木戸跡碑と水道碑記

項目	概要
区間・水系	本線 下流区間
推薦団体	NPO 法人新宿環境活動ネット
所在地	新宿区内藤町 87
分類	10. 碑モニュメント
指定等	水道碑記：明治 28 年建立。昭和 5 年東京都有形文化財史跡指定 四谷大木戸跡：昭和 34 年出土石樋、平成 9 年新宿区旧跡指定
摘要	水道碑記は、玉川上水、神田水道に顕彰碑 四谷大木戸碑は、昭和 34 年地下鉄丸ノ内線工事で出土した石樋を使用して作成。出土した場所はここより 80m 東の四谷 4 丁目交差点。

江戸幕府は開府直後から、全国統合のため街道整備に着手し、慶長 6 年(1601)には五街道(東海道、中山道、奥州道中、日光道中、甲州道中)の整備をはじめ。そして、元和 2 年(1616)に甲州道中の江戸市中の出入口となる四谷大木戸を内藤家下屋敷北東隅に設置する。

一方、承応 3 年(1654)に玉川上水路の終点となる四谷大木戸に水番所を設ける。この頃の宿場は高井戸にあり日本橋から 4 里と遠いため元禄 11 年(1698)にたな宿、新宿が設定されている。玉川上水の配水の起点となる水番所跡(現水道局新宿営業所構内)には四谷大木戸と水番所の 2 つの記念碑が設置されている。

2018年度 市民が選ぶ玉川上水・分水網関連遺構 100選（本線）

遺構番号 No. 32 名称 四谷市中配管と御門掛樋

項目	概要
区間・水系	本線 下流区間
推薦団体	NPO 法人新宿環境活動ネット
所在地	新宿区内藤町 1
分類	7. 水道施設
指定等	
摘要	

参考資料

北原系子著「江戸城外堀物語」ちくま新書 1999

玉川上水は、四谷大木戸水番所の沈砂池を過ぎると、本線は石樋に入り現在の新宿通りを四谷御門まで流れる。ここから、本丸、吹上、武家・町方木製の 3 本に分かれ木製の掛樋で濠を渡る。本丸、吹上にはそのまま直進し半蔵門を通過して城内に入る。もう 1 本は、外濠の縁を南廻りで溜池、虎ノ門方面の武家・町方に給水していた。

また、平成 9 年(1997)に開通した地下鉄南北線工事に伴う四谷駅周辺の遺跡調査では、玉川上水と外濠をむすぶ石樋が発掘されて、外濠の水源として導水していたことが確認された。

2018年度 市民が選ぶ玉川上水・分水網関連遺構 100選（本線）

遺構番号 No. 33 名称 淀橋浄水場から外濠・内濠への導水管

項目	概要
区間・水系	本線 下流区間
推薦団体	100選選定員会
所在地	新宿区内藤町87～四谷1丁目(外濠関連)
分類	2. 水利施設
指定等	
摘要	

江戸時代、玉川上水は四谷大木戸から暗渠で市中に配水しその一部は外濠・内濠へ導水されていた。この導水は明治31年（1898）の淀橋浄水場による近代水道に切り替わるまで続いていた。しかし、それ以降は導水は行われず外濠・内濠の水質悪化が顕著となった。このため、昭和11～15年には淀橋浄水場から余剰水を直接外濠・内濠に導水する管路が整備された。これにより最大30,600m³/日の導水が可能となった。この管路は昭和34年（1959）に地下鉄丸の内線築造のためにサイフォン構造に改良されたが、昭和40年（1965）の浄水場廃止まで導水の機能を果たしていた。

その後、浄水場廃止にともない導水は停止されたため外濠・内濠の水質は悪化の一途をたどった。ただし、管路は現在も残っており、この管路を活用した玉川上水からの導水により、外濠・内濠のみならず日本橋川など都心の河川環境改善に大きな役割を果たすことが期待されている。

2018年度 市民が選ぶ玉川上水・分水網関連遺構 100選（本線）

遺構番号 No. 34 名称 市中配管石柁・清水谷公園

項目	概要
区間・水系	本線 下流区間
推薦団体	NPO 法人新宿環境活動ネット
所在地	千代田区麴町3丁目2番地先詩宿通り
分類	7. 水道施設
指定等	
摘要	保存場所は千代田区紀尾井町清水谷公園

昭和45年（1970）に新宿通り麴町3丁目付近で拡張工事をしていた折に玉川上水の水路の石柁が出土した。このルートは玉川上水が四谷門を抜け半蔵門から本丸・吹上御所へ至る幹線にあたる、

この石柁は現在、紀尾井町の清水谷公園に保存展示されている。展示は2段づつ分けて展示されているが現地では、4層に積まれていたとのこと。石柁は分水、水質管理、揚水等のために設置されたもの。石柁間は木樋つないでいた。この石柁は全て手作業で剝り抜いており、その大きさと労力は目を見張るものがある。

2018年度 市民が選ぶ玉川上水・分水網関連遺構 100選（本線）

遺構番号 No. 35 名称 真田濠跡

項目	概要
区間・水系	外濠・日本橋川
推薦団体	外濠再生懇談会
所在地	千代田区
分類	1. 水路構造
指定等	国指定史跡江戸城外堀跡
摘要	

玉川上水の配水幹線は、武蔵野台地の分水嶺を通り、四谷見附から半蔵門へ辿り着き江戸城内や市中に配水していた。四谷は外濠の最高地点に位置し、ここを基点として台地を左右に開削し、谷筋に結ぶように外濠が形成された。

四谷を基点として外濠の右側、赤坂方向に開削されたのが真田濠で、台地で標高が高いため水面の維持には玉川上水からの導水が不可欠であった。

水面は戦前までは維持されてきたが、昭和20年（1945）の戦災で発生した廃じん処理のため埋め立てられ、現在は上智大学のグラウンドとして利用されている。また、土手の部分は、外濠公園の一部として千代田区で維持管理されている。

2018年度 市民が選ぶ玉川上水・分水網関連遺構 100選（本線）

遺構番号 No. 36 名称 溜池と弁慶濠

項目	概要
区間・水系	外濠・日本橋川
推薦団体	外濠再生懇談会
所在地	千代田区
分類	1. 水路構造
指定等	国指定史跡江戸城外堀跡
摘要	

弁慶濠は真田濠の南側、赤坂川と呼ばれた谷筋に造られた濠。この位置にはもともと、江戸の水源確保のために赤坂川をせき止めた溜池があった場所で、弁慶濠はその上流端に位置する。

溜池は、江戸時代初期の江戸城天下普請（惣構）で造られた外濠の一部をなし、下流は汐留川・外濠川へと連なっていた。

その後、溜池は江戸市中の水道は玉川上水・神田上水で賄われたため、徐々に埋め立てが進み、赤坂の上流部分だけが弁慶濠として維持されている。

2018年度 市民が選ぶ玉川上水・分水網関連遺構 100選（本線）

遺構番号 No. 37 名称 市ヶ谷濠・新見附濠・牛込濠

項目	概要
区間・水系	外濠・日本橋川
推薦団体	外濠再生懇談会
所在地	新宿区 千代田区
分類	1. 水路構造
指定等	国指定史跡江戸城外堀跡
摘要	

江戸時代には四谷から左側、神田川方向の外濠は、台地を開削した市ヶ谷濠、紅葉谷と呼ばれた谷筋を堰止めた牛込濠、神田川に連なる飯田濠で構成されていた。さらに、明治時代に牛込濠を分ける形で新見附濠がつくられ、昭和59年（1984）の再開発により飯田濠が失われたため、現在は3つの濠で構成されている。

都心の広大な水辺空間や見附跡等は、国指定史跡に指定されるとともに、南側の土手は全域外濠公園として維持管理されている。

一方、外濠には昭和40年（1965）の淀橋浄水場移設以降、玉川上水からの導水は停止され、水質の悪化傾向が顕著となっており、抜本的な対策が望まれている。

2018年度 市民が選ぶ玉川上水・分水網関連遺構 100選（本線）

遺構番号 No. 38 名称 飯田濠跡と外濠の神田川流出

項目	概要
区間・水系	外濠・日本橋川
推薦団体	外濠再生懇談会
所在地	新宿区 千代田区
分類	8. 舟運河岸
指定等	国指定史跡江戸城外堀跡
摘要	

飯田濠は、牛込見附（飯田橋駅西口）のある牛込土橋から飯田橋駅東口の船河原橋下流で神田川に流出する間に造られた濠。かつては濠の左岸側には、神田川舟運の最上流の神楽河岸が設けられ、牛込門とあわせ交通の要衝として栄えていた。また、明治27年（1894）には、右岸側に甲武鉄道牛込駅、翌年には飯田町駅が開設され、神楽坂商店街の繁栄も併せ濠周辺の街並みは賑わいを増した。

一方で、昭和20年代には濠の一部がガレキきなどで埋められたこともあり水質汚濁や環境悪化等が顕著となり埋め立て、再開発の計画が持ち上がる。この計画は、昭和59年（1984）に実現されることとなり、飯田濠の水面は失われた。現在は暗渠によって牛込濠から神田川への流れが確保されている。

2018年度 市民が選ぶ玉川上水・分水網関連遺構 100選（本線）

遺構番号 No. 39 名称 神田川の流路変更と日本橋川分派

項目	概要
区間・水系	外濠・日本橋川
推薦団体	選考委員会
所在地	新宿区 千代田区 中央区
分類	1. 水路構造
指定等	
摘要	

神田川は、飯田濠の流出地点から南北から東西方向に流れを変える。そして約 400 m 下流で日本橋川を分派する。この複雑な流れは、江戸城と下町のまちづくり形成の歴史を物語る重要な地点である。

江戸時代初期の天下普請前には、江戸城の前に日比谷入江がありその先に、本郷台地に連なる江戸前島が広がっていた。この日比谷の入江に注いでいたのが神田川の前身の平川である。

天下普請ではまず、前島を東西に横断する日本橋川が開削される。さらに、平川から分岐して前島の中央を南北に開削し、城の外郭を巡る外濠川が整備された。ついで、江戸城下の洪水対策等を目的として平川を飯田橋の地点から東西に屈曲させ、本郷台を開削して隅田川への放水路を整備する。その後、この放水路（神田川）は舟運のために拡幅され、あわせ外濠川と放水路の分離工事等が行われ、江戸下町の基本的な水系網が形成された。また、明治 36 年（1903）には、外濠川と神田川を結ぶ工事が行われ現在の姿となった。玉川上水の水の流れから見ると、四谷から外濠を流れ、外濠川、日本橋川を流れ隅田川に辿り着くことになる。なお、外濠川から日本橋川を流れるルートは現在、日本橋川の呼称に統一されている。

2018年度 市民が選ぶ玉川上水・分水網関連遺構 100選（本線）

遺構番号 No. 40 名称 日本橋川の外濠石垣と常盤橋門

項目	概要
区間・水系	外濠・日本橋川
推薦団体	日本橋水辺再生研究会
所在地	千代田区 中央区
分類	1. 水路構造
指定等	
摘要	国史跡 昭和 3 年（1928）常盤橋門跡 千代田区景観まちづくり重要物件 平成 19 年 3 月指定 新川橋 堀留橋 南堀留橋 雉子橋 一ツ橋 錦橋 鎌倉橋 旧常盤橋 常盤橋

神田川から分派して南に流れる日本橋川は常盤橋下流の一石橋で流れを大きく東方向に変える。この流れが大きく屈曲する地点までは、かつての外濠で、外堀川と呼ばれていた区間である。ここより下流は埋め立てられ、現在は外堀通りとなっている。

この外堀川が日本橋川として残った区間の右岸側に、かつての江戸城外濠の石垣遺構が現存しており往時の面影を伝えている。

主な区間は常盤橋周辺、一ツ橋周辺であるがその他に、雉子橋、神田橋周辺にも現存している。

日本橋川が屈曲する地点は、江戸城惣構の出発点となる江戸前島の日本橋川と外濠川との交差点にあたる水系の中核地である。この地にかかるのが奥州道出口で常盤橋でありまた、江戸城の正門である大手門へ向かう外郭正門にあたり、江戸・東京の要衝の地でもあった。

2018年度 市民が選ぶ玉川上水・分水網関連遺構 100選（本線）

遺構番号 No. 41 名称 日本橋と五街道の起点・道路元標

項目	概要
区間・水系	外濠・日本橋川
推薦団体	日本橋水辺再生協議会
所在地	中央区
分類	3. 街道・橋梁
指定等	日本橋 国指定重要文化財平成 11 年(1999)
摘要	

徳川家康は天正 8 年（1590）に江戸入府，直後に日比谷入江から江戸城に物資を運搬するための道三堀を開削する．さらに，慶長 8 年（1603）には道三堀を東に延伸し，前島を横断し隅田川を結ぶ日本橋川を開削する．

そして，翌年には日本橋（木橋）を架橋し，五街道（東海道，中山道，奥州道中，日光道中，甲州道中）の起点を設置した．これにより，日本橋は単なる橋の名前から市中さらに，全国の道路制度の中心地となった．さらに，隅田川から江戸城への舟運も開発され水陸交通の要衝の地へと発展した．

日本橋は数度のかけ替えを経て，明治 4 4 年（1911）に石造の橋となりまた，五街道の起点は明治 6 年（1873）に国内所街道の元標として現在に受け継がれている．

2018年度 市民が選ぶ玉川上水・分水網関連遺構 100選（本線）

遺構番号 No. 42 名称 日本橋川の舟運と魚河岸跡

項目	概要
区間・水系	外濠・日本橋川
推薦団体	日本橋水辺再生協議会
所在地	中央区
分類	8. 舟運・河岸
指定等	
摘要	

江戸城と隅田川を連絡する舟運が開かれた日本橋では，江戸城下で消費される鮮魚や塩干魚が多く流通するようになる．

やがて，この流通する荷の一部を日本橋の河岸地に設けた棧橋に平田舟で広げて取引するた魚市場が形成されるようになった．この市は日本橋から江戸橋の魚市場を中心に現在の室町 1 丁目・本町 1 丁目一帯まで広がり殷賑を極め，現在の日本橋発展の礎となった．

明治時代になっても魚市場は継続されてきたが，周辺の商業地としての発展もあり，大正 13 年（1924）の関東大震災を期に，築地に移転された．

日本橋左岸下流の橋詰には魚河岸関係者が設置した記念碑が建てられている．

2018年度 市民が選ぶ玉川上水・分水網関連遺構 100選 (本線)

遺構番号 No. 43 名称 河港の繁栄を伝える隅田川合流点

項目	概要
区間・水系	外濠・日本橋川
推薦団体	選考委員会
所在地	中央区
分類	8. 舟運・河岸
指定等	日本橋
摘要	

日本橋と隅田川の合流部周辺はもともと砂州地帯で、右岸側には八町堀・霊岸島、右岸側の箱崎の河港が広がり現在の亀島川、日本橋川の地先に新堀が開削されたことなどに江戸舟運の要衝を形成した。

特に、霊岸島には新川の酒問屋、越前堀の御舟手組屋敷等が立地し、箱崎側には蔵屋敷が立ち並んだ。また、明治初期には、河口に日本銀行が設置されるなど経済の中心地としての性格も強めた。河口にはその繁栄を象徴するかのように日本橋川には震災復興事業で鉄製の豊見海橋、隅田川には永代橋が架橋されている。

関東大震災を契機に、水運から陸運への変化が顕著となり、徐々に河岸、問屋は衰退したが今なお関連の問屋が立地し、橋とともにかつての繁栄の面影をとどめている。

なお、亀島川の河口にあたる霊岸島には、明治6年(1873)に河川水位の基準となる霊岸島水位観測所が設置され、この水位観測結果をもとに全国の水準測量の基準が定められている。

2018年度 市民が選ぶ玉川上水・分水網関連遺構 100選（分水）

遺構番号 No. 44 名称 田村分水と田村酒造

項目	概要
区間・水系	田村分水（福生分水）
推薦団体	玉川上水遊歩道を考える会
所在地	福生市福生 626
分類	2 水利施設
指定等	平成 25 年（2013）国登録有形文化財 建造物：酒造蔵（1822 年） 前蔵（1830 年） 雑蔵（1852 年） 水車蔵及び雑蔵（昭和前半） 工作物：上水石垣（大正前半）

田村分水は、羽村堰から約 2km 下った玉川上水の最上流に位置する分水。田村家によって分水許可願が出され慶応 3 年（1867）に分水が認められた個人分水である。玉川上水の個人分水は、下流の砂川家による源五右衛門分水の 2 か所のみである。

田村家は江戸時代初期から福生村開拓にあたり代々名主を務めてきた。河原の水田も開拓し、文政 5 年（1822）には酒造業も営むようになる。

幕末には軍需産業等を育成するために千川上水、三田用水の流量を増加し新田、鈴木用水の流量を減じ下流に廻す「上流帰流計画」が行なわれる。この費用を田村家で負担したためその見返りとして分水が認められたとされる。

また、明治 4～5 年にかけて行われた通船事業は羽村、福生、砂川村の名主の出願で行われたもの。廃止となった直後には田村用水の増量や源五右衛門分水が許可されている。

田村分水の流量増加により、田村酒造の水車稼働や福生、熊川の田用水としても利用され、福生用水とも呼ばれるようになる。

田村酒造脇の玉川上水には取水口、石垣、通船時の門扉などが残され、今も玉川上水の中でも最も歴史豊かな景観を留めている。

参考資料：福生市史下巻
文化財総合調査報告書 第 31 集
田村酒造 案内

2018年度 市民が選ぶ玉川上水・分水網関連遺構 100選（ ）

遺構番号 No. 45 名称 森田家別荘跡の池泉（幸楽園）

項目	概要
区間・水系	熊川分水
推薦団体	玉川上水遊歩道を考える会
所在地	福生市熊川 1018
分類	5. 水辺利用
指定等	
摘要	

熊川分水口に近接した料亭幸楽園は、熊川分水の開削に尽力した森田製糸(株)の森田家別荘の跡地である。森田家は明治 6 年（1873）に東京ではじめて製糸所を熊川村で創業した。輸出品を中心生産し、多摩地方の中でも大きな工場へと発展した。明治 23 年（1890）の熊川分水の開削にも大きな役割を果たした。

その後、別荘は人手に渡り昭和 26 年（1951）に料亭幸楽園として開業された。園内には今も熊川分水の水が引かれ、別荘時代に造られた庭園の面影を今に伝える。

また、敷地内にはつくば市にある養蚕の神様、蚕影神社の分社を祀ったものを製糸業の関連遺構として保存している。

参考資料
福生市教育委員会 普及版 福生の歴史

2018年度 市民が選ぶ玉川上水・分水網関連遺構 100選（分水）

遺構番号 No. 46 名称 熊川分水と石川酒造

項目	概要
区間・水系	熊川分水
推薦団体	玉川上水歩道を考える会
所在地	福生市熊川1番地石川酒造
分類	2. 水利施設
指定等	福生市まちづくり景観条例 平成25年指定「重要景観資源」 熊川分水延長449m 国登録有形文化財 建造物 平成16年(2004) 石川酒造本蔵(1880年) 石川酒造新蔵(1898年) 石川酒造向蔵(1896年) 石川酒造雑蔵(1898年頃) 石川酒造長屋門(1830~1867) 石川酒造文章蔵(1863年)
摘要	

熊川村は、多摩川の崖線上に発達した集落で地頭井戸と呼ばれる崖線の湧水に依拠した貧水の村であった。この村の庄屋であった石川家は農業に軸足を置きながら幕末には、青梅産の縞織物を扱う在郷商人へと転身さらに、文久3年(1863)には酒造業へ乗り出した。

同じ頃、森田製糸業等の製糸業も盛んとなる。

こうした、水田の拡張、在郷商人の工業的生産に伴う水車等の動力源確保等のために玉川上水からの分水の要求が高まる。幕末から水田への引水の願出数回あり、さらに明治6年(1873)からは石川酒造の精米のための水車、森田製糸の動力源確保を中心とした分水の願出が度々おこなわれた。明治19年(1886)至り、出資金の7割を村の出資者3人で負担、残りを144軒の村民と関係者が負担することで分水が認められることとなった。工事は明治20年(1887)に始まり同23年(1890)に竣工した。流水は現在も維持され、水路は「景観重要資源」として福生市で管理されている。

2018年度 市民が選ぶ玉川上水・分水網関連遺構 100選（分水）

遺構番号 No. 47 名称 拝島分水と拝島宿跡

項目	概要
区間・水系	拝島分水
推薦団体	玉川上水遊歩道を考える会
所在地	昭島市拝島町1丁目
分類	2. 水利施設
指定等	
摘要	

旧拝島村は、八王子同心が日光廟警護のために八王子と拝島・松山・佐野を経て日光へと向かう日光街道の宿場町として発達した集落である。八王子同心は、徳川家康が敵対していた武田家臣団を同心として迎え入れ江戸市街や日光廟警護の役割を担わせたもの。日光廟の警護は承応元年(1652)から慶応4年(1868)まで1030回行われた。また、拝島宿は日光街道を通じた内陸の交通と多摩川による筏流しや渡し場として物資集散の場として市が立つなど街道集落としても賑わった。

この拝島宿の用水を賄うために拝島分水が引かれた。分水の引かれた年代は承応4年(1654)或いは元文年代(1730)という説もある。

いずれにしろ、宿場の街道の幅員は最大16mもあり、その中央に水車があるなど他の新田開発の分水とは大きく様相は異なる。

2018年度 市民が選ぶ玉川上水・分水網関連遺構 100選（分水）

遺構番号 No. 48 名称 殿ヶ谷分水記念碑と開渠遺構

項目	概要
区間・水系	殿ヶ谷分水
推薦団体	玉川上水の自然保護を考える会
所在地	立川市西砂町 5-10
分類	1. 水路構造
指定等	
摘要	

殿ヶ谷分水は、享保5年（1720）に享保の改革による新田開発奨励策に伴い開削された水路である。取入れ口は玉川上水が立川段丘面の上部に出る福生市平和橋左岸下流にあり、ここから左岸側の分水による新田開発が展開する。

この分水により殿ヶ谷、宮沢、中里の三新田が開発された。それぞれの集落の親村は、北（殿ヶ谷・瑞穂町・阿豆左味天神社）、南（宮沢・昭島市・諏訪神社）、西（中里・羽村市・神明社）に分かれ、各々の集落には親村から勧進した分社が祀られている。

殿ヶ谷分水は、昭和48年（1973）まで、開渠で流れていたがその後覆蓋化され、一部は生活道路、緑道として利用されている。

また、分水の覆蓋に伴い、地元の篤志家（宮崎光一氏）により阿豆左味天神社境内に殿ヶ谷分水跡碑が建立された。現在は取水口も閉鎖されている。

2018年度 市民が選ぶ玉川上水・分水網関連遺構 100選（分水）

遺構番号 No. 49 名称 砂川の中島水車遺構

項目	概要
区間・水系	柴崎分水
推薦団体	玉川上水の自然保護を考える会
所在地	立川市一番町 1-13-1
分類	2. 水利施設
指定等	立川市史跡 柴崎分水 昭和30年
摘要	

柴崎分水は、元文2年（1737）に柴崎村の新田開発のために分水された水路。分水口は昭島市と立川市との市境の松中橋右岸橋詰にある。

水路は分水口から道に沿って流れ約850m下流で水路を屋敷内に引き入れた水車が設置されていた。周りが杉林や畑の原だったことから“ハラック”と呼ばれていた。

屋敷に引き込まれた水は一度堰で滞留させ、下流との落差を利用して水車を廻していた。堰上流には余水を流す吐樋、水車を廻した後の水は水車堀で道沿の水路に戻される。この水車を構成している堰、余水吐、水車堀の遺構は非常に良い状態で現存している。

稼働期間は文政5年（1822）から昭和30年（1955）頃とされ、この水車で小麦を製粉した粉は「玉川粉」と呼ばれていた。

2018年度 市民が選ぶ玉川上水・分水網関連遺構 100選（分水）

遺構番号 No. 50 名称 柴崎分水の中央線掛樋

項目	概要
区間・水系	柴崎分水
推薦団体	玉川上水の自然保護を考える会
所在地	立川市富士見町 5-16・柴崎町 1-15
分類	1. 水路構造
指定等	
摘要	

玉川上水では明治3～5年（1870～1872）にかけて通船事業が行われた。この事業は水質汚濁等の理由によって停止となったが、都心と多摩地域を結ぶ大量輸送手段の重要性を示すものでもあった。その後、玉川上水の土手に沿って馬車鉄道を敷設する計画もあったが結局頓挫した。

このような経緯から改めて東京都心と多摩地域を結ぶ鉄道敷設計画が浮上し、明治22年（1889）には新宿・立川間さらに、翌年には立川・青梅間の鉄道が敷設される。このことにより、従来の玉川上水等とともに発展した柴崎村・砂川村は、鉄道による立川駅を中心とした地域構成へと変貌する。こうした中で、玉川上水・分水のシステムも大きく変貌する。

その一つが台地を開削し直線的に多摩川を横断する中央線と柴崎分水との交差処理であった。柴崎村に入り2筋に分かれて流れていた分水は1筋に統合さらに、中央線が低地に出る手前で、開水路のまま線路の上を越す掛樋の構造とされた。

2018年度 市民が選ぶ玉川上水・分水網関連遺構 100選（分水）

遺構番号 No. 51 名称 旧集落を巡る柴崎分水と普濟寺の洗場

項目	概要
区間・水系	柴崎分水
推薦団体	100選選考委員会
所在地	立川市柴崎 4-20-46
分類	2. 水利施設
指定等	
摘要	

普濟寺は、立川崖線の南端に位置し多摩川への眺望や崖線から湧水等の自然の立地に恵まれている。このために、周辺には古くから集落が発達しており、鎌倉時代に立川氏が居館を構え、文和2年（1353）には敷内に普濟寺を勧進したといわれている。さらに、居館の周りには柴崎村の元となる集落が形成された。また、居館跡の発掘調査からは井戸跡も発掘されている。

柴崎分水はこうした古くからある集落へ玉川上水から分水を引いたもの。このために、分水は柴崎の旧集落へ入ると、屋敷を巡るかたちで曲がりくねった流路を形成している。この流路の一部は普濟寺にも流れており洗場等として活用されていた。

ただし、幕末に描かれた江戸名所図会普濟寺には、まいまいず井戸が描かれており、井戸と用水が併用されていたようすもうかがえる。

2018年度 市民が選ぶ玉川上水・分水網関連遺構 100選（分水）

遺構番号 No. 52 名称 柴崎分水廻り水路と水田

項目	概要
区間・水系	柴崎分水
推薦団体	玉川上水の自然保護を考える会
所在地	立川市柴崎町 6-14-11 立川公園
分類	5. 水辺利用
指定等	
摘要	

柴崎分水の流末は、立川崖線の下端を流れる根川と合流し多摩川へと流れる。この根川と合流する直前に、現在もお分水の水を引いた稲作が行われている。

もともとは農家の方が田圃を維持していたが、環境省の「子どもエコクラブ」等の活動の場として受け継がれてきた。

平成 29 年（2017）には、立川公園のカニ柄ガラ広場に隣接する「がにがら田圃」として水路とともに再整備されている。

維持管理は市民団体の「がにがら田んぼネット」によって田んぼの保全、稲刈体験、七草がゆ等の活動に引き継がれている。

2018年度 市民が選ぶ玉川上水・分水網関連遺構 100選（分水）

遺構番号 No. 53 名称 砂川分水の旧田用水（田堀）遺構

項目	概要
区間・水系	砂川用水系 砂川分水
推薦団体	玉川上水の自然保護を考える会
所在地	立川市上砂町 3 丁目～幸町 5 丁目
分類	4. 新田開発
指定等	
摘要	

かつての砂川村の玉川上水南側一帯では、幕末の弘化 2 年（1845）頃より砂川分水から田用水を引き、水田の耕作が試みられた。

まず、一番町の南側で水田耕作が試みられた。ついで北側の区域でも試みられた。さらに、柏町の北側、明治 30 年（1897）頃までには南側まで拡張した。ただし、砂川は火山灰土壌で水の浸透が激しく、撤退を余儀なくされたという。

柏町の北側には田用水の痕跡が今も残っている。こうした中でも、古残堀川筋にあたる源五右衛門分水周辺では地下水も比較浅く、地味も豊であったため唯一水田耕作成功した。

しかしながら砂川周辺では、換金作物であるお茶や養蚕、さらに桑や桑苗等の生産が盛んとなり多くは稲作から転換した。

今も残る砂川分水田用水の流路跡と地面を掘り下げた畑地は、地域の歴史の中に水と米を巡る一幕が刻まれた遺構と見ることができる。

2018年度 市民が選ぶ玉川上水・分水網関連遺構 100選（分水）

遺構番号 No. 54 名称 砂川分水の開渠遺構

項目	概要
区間・水系	砂川用水系 砂川分水
推薦団体	玉川上水の自然保護を考える会
所在地	立川市上砂町 4 - 8 - 1 ~ 砂川町 3 - 8 - 1
分類	1. 水路構造
指定等	
摘要	

砂川村は、開府直後の慶長14年（1604）には新田開発の願いを出すなど江戸の初期の段階から新田開発の機運が高かった。当初は、水の便が得易い古残堀川と五日市街道が交差する現在の砂川三番あたりから開発がすすめられた。

しかし、本格的に新田開発が進むのは玉川上水が開削された3年後の明暦3年（1657）に五日市街道に沿って砂川分水が引かれ後のことであった。この頃の取入口は天王橋橋詰下流に設置されており、砂川三番を中心として街村型の新田開発が進み、水分水路の延長は約4km程度に達していた。

明治時代に入り、通船事業に合わせ玉川上水の右支線は境分水まで砂川分水を延長するかたちで統合された。また分水口の位置も柴崎分水口と近接した松中橋橋詰下流に移された。

その後、昭和33年（1958）に砂川村7ヶ村用水組合は解散。昭和44年（1969）には五日市街道の自動車交通量が増えたために暗渠化工事が進められた。こうした中で、砂川村新田開発の中心地であった砂川三番周辺の約250mには、かつての砂川分水の面影を伝える玉石積み水路の遺構が今も残されている。

2018年度 市民が選ぶ玉川上水・分水網関連遺構 100選（分水）

遺構番号 No. 55 名称 源五右衛門分水の遺構群

項目	概要
区間・水系	源五右衛門分水
推薦団体	玉川上水の自然保護を考える会
所在地	立川市幸町 6-36-4
分類	2. 水利施設
指定等	
摘要	

源五右衛門分水は、明治初年（1868）あるいは、明治40年（1907）頃に設けられたとする説がある。これを古い地図で見ると、まず明治初期に砂川分水の分水して古残堀川の流路跡に分水路を設置。さらに、通船事業による合口事業後に新たに玉川上水から直接分水して、砂川分水を伏せ越しで交差させ、下流の分水路に接続させたと推測することもできる。

源五右衛門分水はその名が示すように砂川村の名主であった砂川家の当主の名の付いた個人分水路であった。

現在は、見影橋橋詰上流の分水口、砂川家北側に4つに分かれた貯水池と分水塔さらに、砂川家屋敷内西側に砂川分水の伏せ越し水路等が残されている。貯水池は、最初は浅く徐々に深くして水温を上げ、同時に水圧が増す工夫をしたもの。池ではアユやコイの養殖もおこなわれたという。

2018年度 市民が選ぶ玉川上水・分水網関連遺構 100選（分水）

遺構番号 No. 56 名称 国分寺の野中新田分水開渠遺構

項目	概要
区間・水系	砂川分水系 野中新田分水
推薦団体	美しい用水の会
所在地	立川市若葉町～国分寺市並木町
分類	1. 水路構造
指定等	
摘要	

野中新田分水は、享保の改革による新田開発奨励策によって玉川上水から分水された水路。明治3年（1870）の通船事業に合わせ砂川用水系統に組み込まれた。

立川市若葉町と国分寺市並木町の境界で五日市街道を挟んで南北2つの水路に分かれる。また、街道と水路の間にはそれぞれ約30間の民有地を挟んでいる。流末は市境で2つの水路が合流し深大村用水となっていた。

北側水路（1224.1m）は現在は水が流れていない空堀。南側水路（1851.9m）には今も水が流れており、国分寺市内で唯一昔の流れを伝える貴重な水辺空間となっている。

水路自体は国分寺市の管理となっており、市民団体が市と管理協定を結び協働で維持管理を行っている。

2018年度 市民が選ぶ玉川上水・分水網関連遺構 100選（分水）

遺構番号 No. 57 名称 野中新田分水の榎戸水車遺構

項目	概要
区間・水系	砂川用水系野中新田分水
推薦団体	美しい用水の会
所在地	国分寺市並木町砂川揚水沿
分類	2. 水利施設
指定等	
摘要	

国分寺市内に残る唯一の水車遺構。水路、水車小屋への取入れ口、水車小屋跡等が残る。明治43年（1910）～昭和27年（1952）まで稼働。麦・米の精製、製粉等をに利用されていた。

2018年度 市民が選ぶ玉川上水・分水網関連遺構 100選（分水）

遺構番号 No. 58 名称 恋ヶ窪分水の復元遺構

項目	概要
区間・水系	砂川用水系 砂川分水
推薦団体	美しい用水の会 NPO まちづくり法人国分寺
所在地	国分寺市西恋ヶ窪 1-47 番 48 番 水路敷 道路敷 国分寺市西恋ヶ窪 1-8
分類	5. 水辺利用
指定等	平成 10 年「国分寺姿見の池緑地保全地域」 平成 15 年姿見の池 都名湧水指定 平成 29 年国分寺指定重要史跡恋ヶ窪分水
摘要	

玉川上水開削直後の明暦 3 年（1657）に国分寺村分水が開削される。恋ヶ窪分水は、現在の恋ヶ窪交差点で国分寺分水から分岐する派川で、南下して野川の源流である姿身の池に注ぐ。

流末部分には、現在の西武鉄道国分寺線を挟んで国分寺崖線を開削する 2 つの谷が台地側に入り込んでいる。この 2 つの谷を連絡して姿見の池へ注ぐための掘割がつけられていた。

掘割は通水停止などにより、壁面の崩落が激しく、国分寺市では平成 29 年（2017）に重要史跡に指定し復元整備を行った。

一方、姿見の池についても昭和 40 年（1965）の玉川上水中下流への通水停止などもあり水源は枯れ一度埋め立てられてしまう。しかし平成 10 年（1998）に東京都の「国分寺市姿見の池緑地保全地域」に指定され保全整備の動きがはじまる。

また、宅地の浸透対策や J R 武蔵野線の地下水導水等により流れも再生されつつある。

こうした動きもあり、国分寺分水・恋ヶ窪分水の流水の再生による掘割・池の復元整備が行われている。

2018年度 市民が選ぶ玉川上水・分水網関連遺構 100選（分水）

遺構番号 No. 59 名称 砂川分水のほっこぬき遺構

項目	概要
区間・水系	砂川用水系砂川分水
推薦団体	小金井玉川上水の自然を守る会
所在地	小金井市貫井北町 3 丁目 1 7
分類	2. 水利施設
指定等	
摘要	水車下流のほっこぬきの区間の事例 砂川分水：立川市柏町（砂川 7 番）水車 砂川分水：小平市上水南町 水車 砂川分水・梶野分水：小金井市東町 嶋田水車 千川上水：保谷市新町・平井水車 出典 小坂克信著 玉川上水と分水 1990 新人物往来社

明治 3 年（1871）の通船事業によって砂川用水として統合された砂川分水ではさまざまな水利事業が行われた。

その一つに水車の利用がある。水車の利用は一般的には水量が多く、流れが速いほど稼働力は大きいが下流になるほど小さくなる。

このために、中下流の区間では水車下流の水路高を下げ落差を大きくする工夫が行われた。この一つが「ほっこぬき」といわれる関東ローム層を開渠にせずトンネルとして掘る水路である。この水車下流のほっこぬきは、各所で行われているが、砂川分水小金井市の茜橋下流にその一部がほっこぬきに降りる階段とともに残されている。このほっこぬきは主に幕末から明治時代初期に多く使われた。

2018年度 市民が選ぶ玉川上水・分水網関連遺構 100選（分水）

遺構番号 No. 60 名称 小金井分水の水門遺構

項目	概要
区間・水系	砂川用水系小金井分水
推薦団体	小金井玉川上水の自然を守る会
所在地	小金井市本町4丁目
分類	2. 水利施設
指定等	
摘要	

築樋は新田開発時に築造されたがその後、明治3年（1871）の通船事業にあわせ、砂川分水による合口事業により玉川上水からの直接取水は停止された。

このため、玉川上水の分水口と砂川分水交差する地点に新たに小金井分水門が造られ現在も残されてる。

2018年度 市民が選ぶ玉川上水・分水網関連遺構 100選（分水）

遺構番号 No. 61 名称 小金井分水・山王窪の築樋遺構

項目	概要
区間・水系	砂川用水系小金井分水
推薦団体	小金井玉川上水の自然を守る会
所在地	小金井市本町4丁目
分類	1. 水路構造
指定等	
摘要	

小金井周辺の玉川上水南側には、多摩川の低地に連なる仙川が台地を開析して深く入り込んでいる。このため、小金井の地名が示すように湧水に恵まれている反面、地域に広がる新田開発のためには仙川との調整が不可欠であった。

このため、元禄9年（1696）頃に行われた小金井村の新田開発では、仙川の一部を暗渠として横断する土の堤をつくり、堤天端に水路を通し河川を渡る築樋（ちくどい）が設けられた。

堤は長さが56間（約102m）、高さは1丈8尺（約5.4m）あったとされている。

2018年度 市民が選ぶ玉川上水・分水網関連遺構 100選（分水）

遺構番号 No. 62 名称 梶野分水の築樋遺構

項目	概要
区間・水系	砂川用水系 梶野分水
推薦団体	小金井玉川上水の自然を守る会
所在地	小金井市梶野町2丁目6
分類	1. 水路構造
指定等	
摘要	

梶野分水は、梶野新田の開発に合わせ享保19年（1735）に開削。上流側の山王窪の築樋と同じように仙川を横断するために築樋を設置した。

築樋の規模は、延長約230m、高さ約4mとされている。

梶野分水も明治3年（1870）の分水改正事業により砂川用水系となり、下流は深大寺用水へと連なるため梶野分水およびを砂川分水の下流側については深大寺用水と呼ばれることが多い。

（南側ほっこめき、嶋田水車については詳細不明）

2018年度 市民が選ぶ玉川上水・分水網関連遺構 100選（分水）

遺構番号 No. 63 名称 境分水と杵築大社

項目	概要
区間・水系	砂川用水系 境村用水
推薦団体	玉川上水を守り育てる武蔵野市民の会
所在地	武蔵野境南町1-16-13-
分類	4. 新田開発
指定等	
摘要	

杵築大社は江戸初期に松江藩松平出羽守直政が、御用屋敷の屋敷神として出雲から勧進したのが創建と言われている。その周辺にはいち早く集落が形成され、玉川上水開削直後には細流が引き込まれ、開発が進められたのではないかと推察されている。

その後、杵築大社を鎮守とした新田開発は徐々に広がる。このために計画的な集落は形成されず不定型の地割をとっていることが特徴となっている。

周辺も含めた境村全体の新田開発が進むのは、享保19年（1734）に梶野新田を中心に呑み用水が獲得された以降のこととなる。

2018年度 市民が選ぶ玉川上水・分水網関連遺構 100選（分水）

遺構番号 No. 64 名称 野火止用水沿雑木林・野火止緑地

項目	概要
区間・水系	野火止用水（東京都）
推薦団体	玉川上水野火止用水ネットワーク東大和
所在地	東大和市新堀3丁目
分類	9. 自然環境
指定等	昭和49年東京都「野火止用水歴史環境保全地域」指定
摘要	

野火止用水は玉川上水開通の直後の承応4年（1655）に川越藩によって開削された。流路は小平市の西端から東京都を抜け埼玉県志木市新河岸川に至るまでの約4里（16km）である。分水口は幅1間あり玉川上水の流量の3の1を流せる格別の規模であった。

用水の目的は川越藩の野火止の新田開発であり、江戸時代には東京都の区間（かつての幕府直轄領）では水の利用はできず、水路の両岸には広大な雑木林が形成されていた。

その後水道の普及、都市化の進展等により昭和48年（1973）通水停止。東京都は翌年には野火止用水の流路と隣接した雑木林を「野火止用水歴史環境保全地域」に指定し保全の措置を図った。この区域内の緑地は、東京都薬用植物園、東大和市野火止緑地等として整備され維持管理されている。さらに、水路については昭和59年（1984）に清流復活事業による流水の確保、沿線6市への管理維持の移管が行なわれている。

2018年度 市民が選ぶ玉川上水・分水網関連遺構 100選（分水）

遺構番号 No. 65 名称 東大和市・ホテルの里

項目	概要
区間・水系	野火止用水（東京都）
推薦団体	玉川上水野火止用水ネットワーク東大和
所在地	東大和市向原5丁目
分類	9. 自然環境
指定等	
摘要	

東大和市では、野火止緑地の上流側約292mの暗渠区間について、清流復活事業で流している水を揚水して地上部にせせらぎを作りホテルの里事業を行っている。

2018年度 市民が選ぶ玉川上水・分水網関連遺構 100選（分水）

遺構番号 No. 66 名称 當麻水車の面影を伝える 恩多野火止水車苑

項目	概要
区間・水系	野火止用水（東京都）
推薦団体	玉川上水野火止用水ネットワーク東大和
所在地	東村山市恩田町 3-33
分類	2. 水利施設
指定等	
摘要	

當間水車は、天明2年（1782）に大岱村（現東村山市）の酒造業當麻半次郎（屋号ヤマニ）が野火止用水に設置したもの。当初の目的は酒造用の精米と言われている。

水車は直径9.0m、幅0.9mで胸掛けで廻し堀は60mあった。江戸時代は幕府直轄領では水利ができなかったため、許可されたのは當麻水車のみであった。このため、水量も多く稼働の効率は高く繁盛したと伝えられている。水車は機械式製粉が主流となる昭和26年（1951）まで稼働していた。

平成5年（1993）に當麻水車の面影を伝えるため大きさを往時と同じにした上掛けの水車を作成、展示している。

2018年度 市民が選ぶ玉川上水・分水網関連遺構 100選（分水）

遺構番号 No. 67 名称 野火止用水の分水口遺構（史跡公園）

項目	概要
区間・水系	野火止用水（埼玉県）
推薦団体	野火止用水を守る会
所在地	埼玉県新座市本多 1-19-27
分類	2. 水利施設
指定等	昭和19年（1944）野火止用水 埼玉県指定記念物・史跡
摘要	

野火止用水は、小金井街道との交差点下流で埼玉県新座市に入り、すぐ下流の左側に八軒廻し堀を分水する。さらに下り西堀で、本流の右側に平林寺堀、陣屋堀の2本を分水する。この本流とあわせ3本の水路の分岐点に新座市「史跡公園」が設けられている。ただし、陣屋堀は既に埋め立てられており、現在は分岐点の痕跡を残すのみとなっている。

2018年度 市民が選ぶ玉川上水・分水網関連遺構 100選（分水）

遺構番号 No.68 名称 平林寺堀の築樋遺構

項目	概要
区間・水系	野火止用水（埼玉県）
推薦団体	新河岸川水系水環境連絡会
所在地	埼玉県新座市本多1丁目
分類	1. 水路構造
指定等	
摘要	

平林寺堀は、野火止用水開削の8年後、平林寺の移転にあわせて分水された。この堀の東側にはほぼ並行して黒目川が流れており、この支川の谷が平林寺堀と直行する形で入り込んでいた。この谷を渡るために、約800mにわたって土堤を築き、上部に水路を通す築樋が設けられた。この築樋には道も整備されたため「タカバシ」と呼ばれていたと言う。

明治以降には並行する道路等により直線化されさらに、産業道路と交差するため水路を伏せ越して横断する等の改変が行われたが、築樋の基本構造は現在まで維持されている。

2018年度 市民が選ぶ玉川上水・分水網関連遺構 100選（分水）

遺構番号 No.69 名称 平林寺と平林寺堀遺構

項目	概要
区間・水系	野火止用水（埼玉県）
推薦団体	新河岸川水系水環境連絡会
所在地	新座市野火止3-1-1
分類	2. 水利施設
指定等	昭和19年平林寺林泉境内 埼玉県指定記念物 - 名勝 昭和43年平林寺境内林 国指定史跡名勝天然記念物 - 天然記念物
摘要	

参考資料

新座市「野火止用水・平林寺の文化的景観保全計画報告書」
平成24年3月

柳瀬川と黒目川に挟まれた細長い野火止台地面には、比高約10mの古多摩川の名残の段丘が残されている。この残丘の西側山麓に野火止用水が開削された。さらにこの山麓を中心に寛文3年（1663）に岩槻から平林寺が移設された。塔頭は、平林寺山と呼ばれる残丘の東山麓におかれ、この中央に野火止用水から分水された平林寺堀が引き込まれた。境内に入った用水は4本に分かれ生活用水として使われるとともに、その一部は池泉回遊式庭園や灌漑用水としても利用された。

平林寺にとっては生命線ともいえる流れであった。この用水は、山門付近で再び合流し、総門から出て境内から北側へと向かう。

2018年度 市民が選ぶ玉川上水・分水網関連遺構 100選（分水）

遺構番号 No. 70 名称 野火止用水・西分橋付近のホタル養殖

項目	概要
区間・水系	野火止用水（埼玉県）
推薦団体	野火止用水を守る会
所在地	新座市野火止 3-5-15
分類	9. 自然環境
指定等	
摘要	

野火止用水が平林寺山の西縁を流れる区間は、平林寺の雑木林と畑の間を流れており、昔の田園風景が維持されている。周辺の住民はこの区間で、今は絶えてしまったホタルを復活させたいと、ボランティア活動に取り組んでいる。この熱意に動かさ新座市では、地元の西分町会の協力のもと、ホタルの自生地を目指し、ホタルの飼育施設等の環境整備を進めている。

また、市主催、町会共催で平成30年で第16回を迎える「野火止用水ホタルの夕べ」を開催し、毎年賑わいを見せている。

2018年度 市民が選ぶ玉川上水・分水網関連遺構 100選（分水）

遺構番号 No. 71 名称 慶応志木高校内に残る平林寺堀・流路跡

項目	概要
区間・水系	野火止用水（埼玉県）平林寺堀
推薦団体	新河岸川水系水環境連絡会
所在地	志木市本町4丁目-14
分類	2. 水利施設
指定等	
摘要	

野火止用水、平林寺用水の清流復活事業による流れは平林寺を抜けて川越街道（R=254）沿の野火止公園まで開渠で流れ、西側に折れの柳瀬川へ放流される。一方かつての流れは、川越街道を越してほぼ並行して北上し新河岸川までを流れていた。現在ではこの流れは全て暗渠化されている。この2つの流れのうち平林寺堀の流路は新座市・朝霞市・志木市の境界付近を流れる。この3市の境界付近には平林寺堀を利用した搗き物専門の「山崎水車」が設置され明治末から昭和20年代頃までは稼働していた。

この用地は一度研究所などになっていたが昭和22年（1947）には、慶応義塾の所有となり、現在も校内には水路跡、水車跡が保存されている。

2018年度 市民が選ぶ玉川上水・分水網関連遺構 100選（分水）

遺構番号 No. 72 名称 新河岸川いろは樋遺構

項目	概要
区間・水系	野火止用水（埼玉県）
推薦団体	100選選定委員会
所在地	志木市本町2丁目10
分類	2. 水利施設
指定等	昭和51年 志木市指定文化財「いろは樋（野火止用水）」
摘要	

野火止用水は当初、志木市の引又の坂下で新河岸川に合流させていた。新河岸川は荒川（当時は入間川）に合流する勾配の緩い河川で、舟運の便は良いが対岸の宗岡はたびたび洪水の被害に見舞われていた。

野火止用水開削後に、宗岡村では村の周りに大囲堤を設け、この堤防の中に野火止用水を導水することを計画した。このために新河岸川を渡り宗岡に導水する掛樋の設置を願い出、寛文2年（1662）には木製のいろは樋が完成する。

いろは樋の構造は、上流の水路を埋樋（暗渠）で台地の縁まで導水し小さな柵で水を貯め、さらに低地側の高柵で受け、舟運に障りのない高さまで水を登らせ掛樋で流すものであった。掛樋は全長260m、掛樋の高さは約4～5mあったという。洪水対策・用水確保・石高増収さらに、舟運が調和した大事業であった。

この掛樋は、明治30年（1897）まで維持されていたが、その後川の下を鉄管で渡す伏せ越しの構造に改修された。現在は改修された遺構が現地に保存されるとともに鉄管、復元模型なども展示されている。

2018年度 市民が選ぶ玉川上水・分水網関連遺構 100選（分水）

遺構番号 No. 73 名称 分水改正と新堀用水

項目	概要
区間・水系	新堀用水・小平用水
推薦団体	小平市玉川上水関連市民団体
所在地	立川市幸町6-36-4（小平監視所） ～境橋
分類	1. 水路構造
指定等	

玉川上水が野火止用水を分水した後の左岸側分水（北側の分水）は、千川上水を分水するまで小川分水をはじめとして7つの分水が設けられていた。明治3年（1870）の通船事業に伴う合口事業により新堀用水路によりとして統合された。従って小平の流路は玉川上水本線、野火止用水、新堀用水路の3つの流路に分かれることになった。また、新堀用水路で統合された分水口は小平市内にあることから一括して小平用水とも呼ばれている。

新堀用水路は、玉川上水本線の側道に沿って開削するために、たぬき堀（ほっこぬき）の粘土質の関東ローム層の特質を生かしたトンネル構造となっている。

2018年度 市民が選ぶ玉川上水・分水網関連遺構 100選（分水）

遺構番号 No. 74 名称 新堀用水の小島水車遺構

項目	概要
区間・水系	新堀用水
推薦団体	小平市玉川上水関連市民団体
所在地	小平市鷹の台16地先（新小川橋上流）
分類	2. 水利施設
指定等	
摘要	

明治3年（1870）の分水改正に伴い開削された新堀用水路は流量も多いため、水車が数点架設されている。その中でも、小島水車はかつての水車架設の様子を今に伝えている。

小島水車は新小川橋の北側の樹林地内にあり土地の小島精米店が設置したもの。穀物の精白・製粉を主に、明治39年（1906）～昭和25年（1950）まで稼働していた。

水車の大きさは直径7.2mあり、上流から築樋により胸掛けした水路跡、水車のコンクリートの土台が現地に残されている。

2018年度 市民が選ぶ玉川上水・分水網関連遺構 100選（分水）

遺構番号 No. 75 名称 小平用水・50kmの生きた水路と分水門群

項目	概要
区間・水系	新堀用水・小平用水
推薦団体	小平市玉川上水関連団体
所在地	小平市内
分類	1. 水路構造
指定等	
摘要	

小平市の前身である小平村は、明治22年（1889）に7つの分水名が付いた新田村が合併して形成された。分水はどれも新堀用水路で統合されており、水が村の骨格をなしているために“水の縁”で結ばれたまちであると言っても過言ではない。

こうした、水の縁もあり昭和40年（1965）の淀橋浄水場の廃止、本線の配水停止にもかかわらず、小平監視所下流の新堀用水には多摩川の水を導水することが可能となった。

このような小平市の成り立ちを背景に小平市では平成7年（1995）には「小平市用水路活用計画」を策定し、面的に広がる水路の活用方をたてた。さらに、平成13年（2001）には「小平市用水路管理条例」を制定し、約50kmにおよぶ水の流れる水路と流れを制御する9ヶ所の水門の保全管理が行なわれている。

2018年度 市民が選ぶ玉川上水・分水網関連遺構 100選（分水）

遺構番号 No. 76 名称 青梅街道沿の小川分水と新田開発

項目	概要
区間・水系	新堀用水・小川分水
推薦団体	小平市玉川上水関連市民団体
所在地	小平市小川町1丁目 2丁目 栄町1丁目, 2丁目, 3丁目, 小川西町 5丁目, 小川東町1丁目, 5丁目, 小川東町, 仲町
分類	4. 新田開発
指定等	
摘要	

小川分水は、玉川上水開削直後の野火止用水、明暦3年（1657）の砂川分水に次ぐ古い分水である。砂川村はもともと狭山丘陵の麓の岸村から古残堀川に沿って南下し新田開発に着手していたが苦難し、玉川上水の開削に伴って村の発展を見た。これを契機として同じ岸村の小川氏が現在の地に新田開発を願い出たとされている。また、青梅の石灰を江戸に運ぶための伝馬継宿が田無と箱根ヶ崎の間の距離が長く不便なためこれを解消することも目的としていた。

小川村はもともと居住者が少なく平坦な地域であったため、青梅街道の南北方向に短冊形の地割をし、さらに屋敷の裏側にそれぞれに水路を引く極めて整然とした集落が形成された。

このような伝馬継宿と新田開発を目的とした街道・水路とその周辺の地割が武蔵野を代表する街村集落の基本となっている。

2018年度 市民が選ぶ玉川上水・分水網関連遺構 100選（分水）

遺構番号 No. 77 名称 武蔵野を象徴する新田集落の風景

項目	概要
区間・水系	新堀用水・小川分水、鈴木分水
推薦団体	小平市玉川上水関連市民団体
所在地	小平市小川町1丁目 2丁目 栄町1丁目, 2丁目, 3丁目, 小川西町 5丁目, 小川東町1丁目, 5丁目, 小川東町, 仲町等
分類	4. 新田開発
指定	
摘要	

小川新田の基本的な地割は間口約20m、奥行約600mの短冊形をしている。この短冊形の利用は、道路側から見ると道路・境界の垣根・ケヤキ、屋敷・庭、水場・水路、屋敷林、たから道、畑、雑木林の配列を基本としている。この統一的な配列により、ケヤキを主体とした沿道景観と伝馬継の庭周り、屋敷と周辺の屋敷林の景観が構成される。さらに、屋敷林に囲まれた水路・水場を中心とした日常性と旗作物等の出荷準備が行われる。また、注目すべきは屋敷林に囲まれた区域の畑地の間には日常生活や畑作業のための屋敷を横通しするたから道が十ていることである。畑地とその奥には堆肥や薪炭を賄うための雑木林を経営されており、新田の生活と生産を支えてきた。

このような統一的な土地利用とその持続的な経営によって武蔵野を象徴的な景観が現在もなお継承されている。

2018年度 市民が選ぶ玉川上水・分水網関連遺構 100選（分水）

遺構番号 No. 78 名称 小川分水の築樋遺構と悪水処理

項目	概要
区間・水系	新堀用水・小川分水
推薦団体	小平市玉川上水関連市民団体
所在地	小平市仲町 御園町1丁目
分類	1. 水路構造
指定等	
摘要	

小川村の東端は、黒目川に連なる谷地形がいくつかり入っている。この中でも現在の天神付近のたにが広がっていた。青梅街道とこの谷が近接する付近で集落を縫ってきた流路は谷地形に沿って北側の黒目川方向に流出する。この北側に流出水路の西端に盛土して流路を確保した小川分水の築樋がある。

また、北側の谷筋には小さい谷が入り込んでおり、この小さい谷を回り込み谷部分を雨水などを一時的に貯留し排水していたと思われる。

この小さな谷を中心とした水路と池はあじさい公園、あじさいの径として整備され、小さな土地の起伏を生かした水路の遺構として継承されている。

2018年度 市民が選ぶ玉川上水・分水網関連遺構 100選（分水）

遺構番号 No. 79 名称 大沼田分水の築樋遺構

項目	概要
区間・水系	新堀用水・大沼田分水
推薦団体	小平市玉川上水関連市民団体
所在地	小平市大沼田町7丁目
分類	1. 水路構造
指定等	
摘要	

小川村から大沼田新田付近までは青梅街道の北側に集落、そこからさらに先には浅く緩やかな斜面の谷があり、東側にかけて徐々に深くなる。緩やかな斜面のため畑地として利用するのは問題ないが、谷を越えて集落をつくるためには青梅街道から北側の台地面まで盛土して水路をとすことが必要になる。大沼田分水では青梅街道の北側に長さ400m、高沙1.5mの築樋が築かれ、現在も維持されている。土地の人はこれを「天井川」と呼んだという。

2018年度 市民が選ぶ玉川上水・分水網関連遺構 100選（分水）

遺構番号 No. 80 名称 田無分水と田無宿

項目	概要
区間・水系	新堀用水・田無分水
推薦団体	小平市玉川上水関連市民団体
所在地	小平市鈴木1丁目（小平市内）
分類	1. 水路構造
指定等	
摘要	

参考資料

下田富宅編 公用文例畧記 東京書房出版 1966

かつて、小平市の東南境に石神井川が田無方向に流れ深い谷を形成していた。この石神井川の北側の岸に沿って田無宿をめざした田無用水が流れている。田無宿は、江戸開府直に青梅方面からの石灰を江戸に運ぶため開かれた台地上の青梅街道沿い慶長元年（1596）に設けられた伝馬継の宿である。水は低地の石神井川に依存していたため困窮していたといわれる。

一方、明暦3年（1657）には、上流側に小川新田開発が許可され新たな伝馬継宿が開かれたため田無宿の役割は軽減されたが水事情については条件は変わらなかった。たびたびの請願により元禄9年（1696）に至り許可が出され、田無村の農民よって田無用水が開削された。ルートは小平市喜平橋付近で玉川上水から分水し、田無神社へ一直線で向かうものであった。これにより田無宿は大きく発展したといわれる。往時の田無宿までのルートは原野で周辺の鈴木新田が開発されるのは享保9年（1724）のことである。

2018年度 市民が選ぶ玉川上水・分水網関連遺構 100選（分水）

遺構番号 No. 81 名称 鈴木分水と掛樋・鈴木遺跡

項目	概要
区間・水系	新堀用水・鈴木分水
推薦団体	小平市玉川上水関連市民団体
所在地	小平市鈴木町1丁目2丁目 花小金井南町1丁目2丁目3丁目
分類	5. 新田開発
指定等	
摘要	

参考資料

小平市教育委員会 鈴木遺跡解説 平成7年

鈴木新田は、享保9年（1724）に武蔵野国貫井村の鈴木利左エ門により開かれた。鈴木新田は鈴木街道にあわせ小川新田と類似した地割となっており、街道と屋敷を挟んで南北2本の水路が通っている。また、新田開発区域には、既設の田無用水が畑を斜めに横切るかたちで流れていることが特徴となっている。

鈴木用水の南側水路は田無用水と交差するために、鈴木用水を掛樋としてその下を流れる構造としている。

一方、鈴木用水は現在の鈴木小学校周辺の窪地が石神井川の流頭部にあたり、これを迂回するような形で北側水路の分流を設けていた。この窪地との分流の間には定右衛門水車が設置されていたという。この水車の遺跡を発掘してた折、その下部に旧石器時代の遺跡があることが分った。鈴木新田は近世の田無分水の遺構との調整とともに、その下層に旧石器時代の遺跡と関連する特徴的な遺構でもある。

2018年度 市民が選ぶ玉川上水・分水網関連遺構 100選（分水）

遺構番号 No. 82 名称 千川上水遊歩道（開渠遺構）

項目	概要
区間・水系	千川上水（上流）
推薦団体	玉川上水を守り育てる武蔵野市民の会
所在地	武蔵野市八幡町 3, 4 丁目
分類	5. 水辺利用
指定等	
摘要	

千川上水は、五代将軍綱吉の時代に湯島、上野、小石川、浅草等の御成御殿へ上水を供給することを目的として設置された。水路は、武蔵野市境橋付近で分水し豊島区西巢鴨 2 丁目までの約 22km は開渠で流れ、そこから上野・浅草まで暗渠で上水を供給していた。上水としての利用はわずか 26 年後の享保 7 年（1722）には取りやめになるが、その後は用水として継続的に使用されていた。用水の利用は、昭和 46 年（1971）に終わり空堀となった。このため、上流の約 5km を残して全て暗渠となった。一方で、住民などの要望があり平成元年（1989）には下水道高度処理水による清流復活事業が行われた。また、それまで東京都が管理していた境橋から吉祥寺橋までの区間を平成 18 年（2006）に武蔵野市に移譲した。これを受け、武蔵野市では平成 22 年（2010）千川上水整備計画を策定し、平成 25 年（2013）境橋から武蔵野大学前の石橋（井口橋）の間約 1km を親水性の高い遊歩道として整備し、市民に親しまれている。整備の上流部には、「千川上水復活の碑（平成元年 3 月）」が設置されている。

2018年度 市民が選ぶ玉川上水・分水網関連遺構 100選（分水）

遺構番号 No. 83 名称 千川上水水路復元と農の風景

項目	概要
区間・水系	千川上水（上流）
推薦団体	板橋史談会
所在地	練馬区立野町
分類	5. 水辺利用
指定等	
摘要	

千川上水の清流復活の流れは吉祥寺橋で武蔵野市から練馬区に入り、青梅街道の交差する約 1.2 km の区間は開渠として残り、昔の千川上水路の面影をとどめている。その下流で清流は暗渠に入り善福寺川へ放流されている。

吉祥寺橋から千川橋跡の区間は周辺に屋敷林が維持されている。吉祥寺橋橋詰には、上水で水難にあった方々の霊を慰めるため、明治 41 年（1908）に「千川上水施餓鬼亡霊供養塔」が建てられている。

これらによって練馬区内では唯一、千川上水と一体化した武蔵野の象徴する風景が継承されている。

2018年度 市民が選ぶ玉川上水・分水網関連遺構 100選（分水）

遺構番号 No. 84 名称 千川上水・中新井分水の面影を伝える濯川

項目	概要
区間・水系	千川上水（上流）
推薦団体	板橋史談会
所在地	練馬区豊玉上 1-26-1
分類	5. 水辺利用
指定等	
摘要	

武蔵大学の前身である旧制武蔵高等学校は、大正12年（1922）に千川上水に隣接した練馬区豊玉の地に開校した。構内にはまだ中新井分水が流れおり、英国ケンブリッジ大学の水路を摸して「濯川」と呼び学園内に取り込んだ。その後、昭和46年（1971）には千川上水の通水停止になり、構内の中新井分水は空堀となり荒廃した。

このため、武蔵大学では昭和58年（1983）に開校60周年記念して中新井分水跡の「濯川蘇生事業」に取り組み、中水と緑の環境を再生した。水路は約200m、水は校内の雨水を基本とした循環方式とし、暗渠の旧流路を伝い江古田川に放流されている。

なお、周辺の千川上水開渠区間は氾濫、水難事故、道路整備の要望が多発し、昭和27年（1952）頃から暗渠化工事が始まる。また、沿川の都市化が進展する中で多くの分水路は下水路、埋め立て・暗渠等へと転換した。

2018年度 市民が選ぶ玉川上水・分水網関連遺構 100選（分水）

遺構番号 No. 85 名称 下板橋の水神祠とあくたどめ

項目	概要
区間・水系	千川上水（上流）
推薦団体	板橋史談会
所在地	板橋区大山町 11
分類	6. 水路管理
指定等	
摘要	

千川上水では玉川上水の分水の中では最も多く水難事故が発生した。このため、沿岸には吉祥寺橋橋詰の「千川上水施餓鬼亡霊供養塔」、中新井分水分岐点の「日川地藏」「施餓鬼供養塔」（現在は南蔵寺に移設）下板橋近傍の「水神祠」等の供養塔が祀られている。

下板橋近傍の「水神祠」は、子供が千川上水で溺死、この下流側にあったあくたどめで引きあげられた。近所の方々は供養と水難防止を願い祀ったといわれる。道路拡幅の折に、地域の方々の働きかけにより暗渠となった水路の上に改めて水神祠を祀り、千川上水と地域の方々の想いを今に伝えている。

一方あくたどめは、構造は残し蓋はアスファルトで覆われているため現在は直接見ることはできない。

2018年度 市民が選ぶ玉川上水・分水網関連遺構 100選（分水）

遺構番号 No. 86 名称 旧陸軍火薬製造所の分水口跡と板橋浄水場

項目	概要
区間・水系	千川上水（上流）
推薦団体	板橋史談会
所在地	板橋区板橋 1-33-6 付近
分類	2. 水利施設
指定等	
摘要	

千川上水は中山道板橋宿に突き当たると流れを東南方向に大きく変える。この板橋宿の北側一帯は、江戸時代には石神井川を挟んで約21万8千坪に及ぶ広大な加賀藩江戸下屋敷が広がっていた。屋敷内には石神井川を取り込み千川上水からも導水した池泉回遊式庭園がつくられていた。この時の分水口は板橋宿のほぼ中央の仲宿を横断する形で設けられていた。なお、この時代の遺構は、石神井川のほとりの加賀公園の築山としてのみ残されている。

明治時代に入り藩屋敷は南側を農地・牧草地、北側は陸軍火薬製造所に分割された。この火薬製造所はその後、陸軍造兵廠板橋製造所となり拡張された。水需要を賄うため浄水場を整備し井戸とともに明治38年(1905)千川上水に新たな分水口を設け導水した。この新しい分水口は仲宿から約800m下流の板橋1丁目の交差点あたりに設けられ、石神井川を渡った浄水場まで導水された。その後東京都に移管され、現在は板橋給水所としてその面影をとどめている。

2018年度 市民が選ぶ玉川上水・分水網関連遺構 100選（分水）

遺構番号 No. 87 名称 王子への分水と「千川上水分配堰」石碑

項目	概要
区間・水系	千川上水（上流・王子への分水）
推薦団体	北区史を考える会
所在地	北区滝野川 6-9-11 地先
分類	10. 碑・モニュメント
指定等	
摘要	

千川上水は、中山道板橋宿で大きく南東に向きを変え中山道に沿って約2kmで巣鴨村に入る。ここまで開渠で導水され、街道沿いの沈砂池等を経て暗渠で江戸市街地へと向かう。ここから先の導水は天明6年(1786)に水不足などのために給水停止となっていた。一方、明治13年(1880)に水道会社が設立され、およそ100年ぶりに水道が復活し明治40年(1907)まで存続していた。但し、昭和40年まで六義園までの給水が存続していた。

一方、慶応元年(1865)に石神井川の急流、石神井用水などの水利や隅田川の水運求めて王子に大砲製造所の建設が計画される。これにあわせ、千川上水を巣鴨村で分水し活用するために新たな分水路が設けられた。

この分水路はその後も北区、荒川、台東区のかつての石神井用水の灌漑用水を補うだけでなく、新たに紡績、抄紙等の工業用水として重要な役割を担った。千川上水の王子への分岐点は、水利上の重要な結節点となり、明治15年(1882)に水利の分配堰と分配の量を明記した石碑が設置された。

2018年度 市民が選ぶ玉川上水・分水網関連遺構 100選（分水）

遺構番号 No. 88 名称 大砲製造所から旧醸造試験所への水利遺構

項目	概要
区間・水系	千川上水(上流・王子への分水)
推薦団体	北区史を考える会
所在地	北区滝野川2-6
分類	2. 水利施設
指定等	
摘要	

西巣鴨で王子方面に分水された水は、滝野川の大砲製造所で反射炉と大砲の砲身の穴をあける水車の動力として使用されていた。しかし幕府の崩壊とともに中断される。

明治3年(1870)には、この水車の動力に着目して、民間で最初の紡績工場が立地する。さらに、水車を回した後の水は石神井川を越えて王子へ渡し、抄紙の用水しても活用された。

紡績工場は吸収合併などにより閉鎖された。その後、明治37年(1904)には大蔵省醸造試験所が設置され、千川上水の水を洗浄用などとして利用していた。現在は一部が独立行政法人酒類研究所と公園として受け継がれている。

かつての大砲製造所の跡地と千川上水の王子への分水は、城北の工業地帯形成の起点でもあった。

2018年度 市民が選ぶ玉川上水・分水網関連遺構 100選（分水）

遺構番号 No. 89 名称 千川上水沈砂池等遺構（千川上水公園）

項目	概要
区間・水系	千川上水(下流)
推薦団体	巣鴨庚申塚まちづくりを考える会
所在地	豊島区西巣鴨2-39-5
分類	7. 水道施設
指定等	
摘要	

玉川上水から分水した水は、巣鴨村まで開渠で導水しここで沈砂池に入り暗渠で各地区に配水されていた。竣工後はさらに小石川、本郷、浅草方面の諸大名、旗本の邸宅や社寺にも給水していた。その後白山御殿などの廃止に伴い上水の利用は停止されるが、灌漑用水として利用されるなどの変遷をたどる。

明治13年(1880)には、城北地区の水道供給のために千川水道株式会社が設立され再び上水の供給が始まる。この折、かつての沈殿池は沈砂池、分配堰等として改めて整備された。この水道供給は明治41(1908)年には廃止された。ただし、その後も六義園への給水は昭和46年(1971)続いた。この間、沈殿池は用地を含め東京都に寄付され、その後区の管理となり千川上水公園と維持されている。沈殿池は現在埋め立てられているが、バルブ等の地上部は今も残されている。

2018年度 市民が選ぶ玉川上水・分水網関連遺構 100選（分水）
 遺構番号 No. 90 名称 小石川植物園の池泉

項目	概要
区間・水系	千川上水（下流）
推薦団体	文京文化資源リサーチ倶楽部
所在地	東京都文京区白山3-7-1
分類	5. 水辺利用
指定等	平成24年（2012）国名勝史跡指定「小石川植物園（御薬園跡、養生所跡）」
摘要	

参考資料

町田聡 「資料紹介 2つの小石川御殿園について」文京区文化財年報平成28年度 文京区教育委員会

かつて武蔵野台地東北端の本郷台と豊島台を開析する形で、谷端川が大塚から水道橋方向へ流れていた。谷端川の流頭は、千川上水の最大の分水である長崎分水へと連なっていた。この流路の下流は小石川と呼ばれていた。延宝8年（1680）、この川から台地への南斜面に將軍徳川綱吉の下屋敷（別名白山御殿）がつくられた。千川上水はこの白山御殿を含め、上野寛永寺、浅草御殿、湯島聖堂の4ヶ所の御成地への給水のために開削されたといわれている。

白山御殿への給水は小石川だけでなく巣鴨から台地上に別ルートが引かれた。このため、当初の御殿には台地と小石川を結ぶ、御殿外周の堀がめぐらされていた。また敷地内には台地と低地に池泉が設けられたという。御殿廃止以降は、御薬園、養生所となりさらに、明治時代に植物園となり、低地側の池泉とともに現在まで受け継がれている。

2018年度 市民が選ぶ玉川上水・分水網関連遺構 100選（分水）
 遺構番号 No. 91 名称 六義園の池泉

項目	概要
区間・水系	千川上水（下流）
推薦団体	文京文化資源リサーチ倶楽部
所在地	文京区本駒込6-16-3
分類	5. 水辺利用
指定等	昭和28年3月国 特別名勝指定
摘要	

千川上水は通水がはじまると当初目的として挙げていた4つの御成地の他に、大名屋敷や寺社さらに、本郷・湯島・浅草等の市街地にも給水された。

その中でも最大の給水地は、綱吉の側用人であった柳沢吉保の駒込下屋敷「六義園」であった。

六義園は、千川上水開削の前年の元禄8年（1695）に綱吉から下賜され、同時に庭園造成に着手し元禄15年（1702）に竣工した。その庭園は、小石川後楽園と並び称される「回遊式築山泉水庭園」の名園とされた。

千川水道会社による通水は明治40年（1907）まで続くがその後、六義園までの通水を残して停止される。それも、昭和45年（1970）に都営三田線工事の工事に伴い通水管が撤去され巣鴨下流の送水は廃止となる。

2018年度 市民が選ぶ玉川上水・分水網関連遺構 100選（分水）

遺構番号 No. 92

名称

上野寛永寺への水路遺構（上野動物園内）

項目	概要
区間・水系	千川上水（下流）
推薦団体	100選選考員会
所在地	台東区上野公園9-83
分類	1. 水路構造
指定等	
摘要	

千川上水の4つの御成場のうち、上野寛永寺は明治2年（1868）の上野戦争により伽藍の大部分は焼失し、その後公園とされたために土地利用は大きく変貌した。また浅草寺も明治40年（1907）の通水停止以降の関東大震災、戦災などにより千川上水遺構の大部分は焼失さらに、改廃した。

ただし、上野動物園の内外には水路の遺構が散在し、わずかに千川上水の名残をとどめている。

2018年度 市民が選ぶ玉川上水・分水網関連遺構 100選（分水）

遺構番号 No. 93

名称

仙川用水・品川用水の開渠遺構

項目	概要
区間・水系	品川用水
推薦団体	品川用水復活研究会
所在地	三鷹市牟礼6-1
分類	1. 水路構造
指定等	
摘要	

肥後熊本藩の細川越中守は、寛文2年（1662）に品川領戸越・蛇窪の入会地を下屋敷としてした拝領した。この邸内に池泉を造るため、既に用水として使用されていた境村の仙川用水（養水）から分水を戸越上水として引き入れた。

当初の戸越上水は4年ほどで廃止されたが、直後に品川領二宿七ヶ村がこれ溉灌用と使用したいと要請した。翌年にこれが認められて新たに玉川上水から分水し、仙川上水の一部の流路を活用しながら拡幅整備し、品川用水とした。

その後、品川用水は分水すると共に下流側に延伸され、昭和7年（1932）頃まで使用されていた。その後、昭和25～27年（1950～1952）にはゴミなどで埋め立てられしまった。しかし、かつての仙川用水と品川用水のつなぎ目の約10mだけは維持管理制度の違いなどもあり開渠として残されわずかに往時の面影をとどめている。

2018年度 市民が選ぶ玉川上水・分水網関連遺構 100選（分水）

遺構番号 No. 94 名称 野澤の大水車跡

項目	概要
区間・水系	品川用水
推薦団体	品川用水復活研究会
所在地	世田谷区野澤3-10
分類	2. 水利施設
指定等	
摘要	

野澤の大水車は、明治16年（1883）の野澤村の谷岡慶治によって設置された。品川用水はもともと品川領以外での使用は認められていなかった。しかし、農業用水としての利用が減少したため、水利使用料確保のため水車の設置が認められたもの。水車は1丈6尺（4.8m）あり300m上流に堰を造り導水した大掛かりな構造であった。主に穀物の製粉が行われ、大正時代終わりに碑が設置された。今もなおバス停名や個人によって案内板が設けられるなど市民に親しまれている。

また、近くの野澤山正徳寺には品川用水開削時の水神様や水車・臼等が保存されている。

2018年度 市民が選ぶ玉川上水・分水網関連遺構 100選（ ）

遺構番号 No. 95 名称 旧熊本藩戸越屋敷の池泉（戸越公園）

項目	概要
区間・水系	品川用水
推薦団体	品川用水復活研究会
所在地	品川区豊町2-1-30
分類	5. 水辺利用
指定等	
摘要	

熊本藩戸越屋敷は、敷地の中央に南北に走る馬場をはさみ東西に分かれ、敷地の各々に池泉が築かれた広大な御屋敷であった。各々の池には戸越上水、後の品川用水が引き込まれていた。このうちの東側の敷地だけでも33,309坪（約110ha）あったという。この屋敷はいくつかの大名を経て明治23年（1890）に三井家の所有となった。戦後には東側の南西部が公園として整備され、池泉・築山など往時の面影を伝えている。

2018年度 市民が選ぶ玉川上水・分水網関連遺構 100選（分水）

遺構番号 No. 96 名称 三田用水・駒場の築樋遺構

項目	概要
区間・水系	三田用水
推薦団体	渋谷川・水と緑の会
所在地	渋谷区富ヶ谷 2 - 21
分類	1. 水路構造
指定等	
摘要	

三田用水は、明暦3年（1657）に細川越中守の伊皿子屋敷（現、高輪皇族邸一帯）の池泉、飲用水のために引いた細川上水と、寛文4年（1664）に三田・芝に配水するために細川上水とほぼ並行する形で開削された三田上水を併せて作られたと伝えられる。享保7年（1722）に幕府の命で二つの上水は閉鎖されたが、享保9年（1724）に地元農民の請願により灌漑用水としての利用が認められ、三田用水と改名して復活した。大名屋敷の私的水路から用水へと転用される過程は品川上水とも類似している。

三田上水と三田用水のルートを比べると、両者は玉川上水の北沢村（現、北沢5丁目）で分水され、目黒川と渋谷川との間の狭い台地の頂部を東南に流れ、白金猿町（現、高輪台駅）に着くまでほぼ同じである。そこから三田上水は地中に入り、北の三田・芝へと流れる。三田用水は地表を南に下り、北品川を通過して目黒川に流入していた。

駒場の築樋遺構は、三田用水が南に流れていた現在の山手通り駒場付近にある。水路が流れる台地には高低があったようで、築樋を設けて勾配を調整した。当時の築樋はコンクリート製に改修され、東京大学駒場キャンパスと道路との境界部に遺構として残っている。

2018年度 市民が選ぶ玉川上水・分水網関連遺構 100選（分水）

遺構番号 No. 97 名称 鍋島松濤公園の池泉と水車の復元

項目	概要
区間・水系	三田用水
推薦団体	渋谷川・水と緑の会
所在地	渋谷区松濤 2 - 10 - 7
分類	5. 水辺利用
指定等	
摘要	

渋谷の松濤1丁目にある鍋島松濤公園は、駒場を流れていた三田用水の左岸に位置している。江戸期には紀州徳川家や旗本長谷川家の屋敷があった所で、ここには江戸時代後期に駒場の築樋遺構の場所から神山口分水が引かれていた。分水の流れは、この土地の中央近くにある湧水池に入り、その後は公園を横切って東を流れる宇田川（渋谷川支流）に注いでいた。この湧水池は明治42年（1909）の地図（陸地測量部1万分之1世田谷）に記されている。既に江戸末期にこの池を描いた古地図もあり、神山口分水の入口と現・公園の東端の近くには、水車が設置されていた。

明治時代になると、旧佐賀藩主であった鍋島侯爵がこの土地を手に入れ、茶園の「松濤園」を起こし、後に欧米の近代農業技術を導入し「鍋島農場」を経営していた。農場は明治時代後期まで続いたが、その後関東大震災を契機に宅地として分譲された。昭和7年に湧水池の一角は東京市へ児童遊園として寄付され、鍋島松濤公園となった。

池には水車を復元して、この土地が近代的農業と水車稼業が隆盛だった頃の風景を伝えている。

2018年度 市民が選ぶ玉川上水・分水網関連遺構 100選（分水）

遺構番号 No. 98 名称 旧朝倉家住宅の池泉遺構

項目	概要
区間・水系	三田油水
推薦団体	渋谷区・水と緑の会
所在地	渋谷区猿楽町 29 - 20
分類	5. 水辺利用
指定等	「旧朝倉家住宅平成 16 年国指定重要文化財 歴史的建造物（民家）」
摘要	

三田用水は、大山街道から青葉台を南へ下り、旧山手通りに沿って淀橋台地の西側の縁を猿楽町へと流れていた。台地の下には水量豊かな目黒川が流れ水の便に恵まれた地域であった。

朝倉家は江戸末期に水利と交通の便に恵まれたこの地に住み、三田用水を使用した水車による精米の稼業を始めた。朝倉家の住宅は当初、猿楽町の旧山手通りの南西にあり、三田用水右岸の南西斜面に建てられていた。

明治時代に入り家業は益々繁盛し、東京府議会議長になった当主の朝倉虎治郎は辺りの土地を買い集め、大正 7 年（1918）に目黒川を望む台地の縁に現在の大きな屋敷を構えた。その敷地には三田用水を導水し、崖線の地形を巧みに用いて水路や小滝を配し、富士山や目黒川の眺望を生かした池泉回遊式庭園を作庭した。平成 16（2004）には主屋と土蔵が都心部の大正時代の和風建築の趣を色濃く残した建築物として国の重要文化財に指定された。現在は主屋・土蔵と周辺の建築物・庭園を一体にして渋谷区で管理されている。

2018年度 市民が選ぶ玉川上水・分水網関連遺構 100選（分水）

遺構番号 No. 99 名称 三田用水・白金台三丁目築樋遺構

項目	概要
区間・水系	三田用水 久留島上口
推薦団体	渋谷川・水と緑の会
所在地	港区白金台 3 丁目 1 2 - 6
分類	1. 水路構造
指定等	
摘要	

淀橋台地の西縁を辿りながら南下した三田用水は、目黒駅前まで東にほぼ直角に曲がり白金台へと流れる。この辺りの地形は、白金台 3 丁目先の高輪台の境界でやや低くなっている。このため、盛り土した堤の上に水路を築いて流れを通した。

築樋遺構は大谷石の堤の上に作られた水路の垂直の断面で、地域住民の熱意と開発者の英断によりかろうじて保全されたもの。一部レンガも使用したコンクリート製の U 字型水路で中が左右に仕切られてる。明治 20 年（1887）の地図（内務省地理局 5 千分の 1 分白金・三田）によると、白金台 3 丁目辺りには南に向かう久留島上口（下大崎村、北品川宿）と北の久留島上口（今里村）の 2 系統の分水路が整備されていた。久留島上口の南側では水車を 3 台回し低地に流れ出していたようすが読み取れる。三田用水の本流は高輪台駅近く（白金猿町）まで流れ、南の北品川を下って目黒川に注いでいた。

この築樋断面は三田上水と分水口の様相を伝える貴重な遺構であるが、まだ詳細な調査は実施されていない。

2018年度 市民が選ぶ玉川上水・分水網関連遺構 100選（分水）

遺構番号No. 100 名称 神田上水の助水堀跡

項目	概要
区間・水系	神田上水助水堀
推薦団体	NPO 法人環境活動ネット
所在地	新宿区西新宿 6 - 19
分類	1. 水路構造
指定等	
摘要	

神田上水は、江戸開府直後に造られた上水道。井の頭池等を水源として神田川を流下して大洗堰（文京区関口）から上水路で水道橋を渡り江戸城まで引かれた。

玉川上水が開削された直後の寛文7年（1667）に神田上水の助水するために、淀橋に助水堀を開削した。延方年（1674）には、水車も稼働させていた。

ルートは概ね現在の一二社通り、熊野神社、けやき公園を通り淀橋で神田川に注いでいた。淀橋浄水場の建設に伴い助水路の役割は終え排水路として転用されていた。現在は暗渠化されけやき公園、神田川の淀橋排水口等にその面影とどめている。

玉川上水・分水網の保全再生とフィールド・ミュージアム展開に関する調査
(研究助成・一般研究 VOL. 41-NO. 245)

著 者 辻野 五郎丸

発行日 2019年12月

発行者 公益財団法人 東急財団

〒 150-8511

東京都渋谷区南平台町5番6号

TEL (03) 3477-6301

FAX (03) 3496-2965

<http://foundation.tokyu.co.jp>